

長谷川喜一 埼玉 富畑琢開 奈良 二步三千秋 山口  
 中川 浩 茨城 田中保郎 長崎 三戸 壽 廣島  
 菊田惺一 石川 高橋憲二郎 岐阜 五井 滋 三重  
 河野善行 石川 小林正市 長野 井上俣夫 佐賀  
 鍋島俊策 熊本 金子繁治 長野 加來止男 熊本  
 美濃部貞功 福島 駒澤克己 島根 八木九五 群馬  
 石川信吾 山口 齋藤直幹 東京 矢野美年 愛媛  
 島津信夫 兵庫 濱田 淨 熊本 高崎哲二 山口  
 小林富男 長野 井村 勉 熊本 伊藤義一 三重  
 成田忠良 福島 奈良富男 栃木 金原真一郎 静岡  
 會川鶴義 福島 大石堅志郎 東京 伊藤安之進 和歌山  
 早川退藏 宮城 崎山釋夫 鹿兒島 瀬谷三郎 福島

十一月十一日 公稱第二五九號汽艇一隻旅順港務部ヨリ受領ス  
 十月十六日 雜役船舟三隻吳海軍港務部ヨリ受領ス内一隻汽艇、二隻ハ傳馬船  
 十月廿一日 第一學年生徒名取虎三山梨縣河西家へ入籍

十月卅日 石炭庫ヲ仕切り其一方ヲ防禦水雷倉庫ニ用方變更ノ手續ヲ了ス  
 十一月九日 理化學藥品室木造平家建(建坪二十四坪五一棟及同附屬廊下建坪四坪)竣成ニ付吳海軍經理部ヨリ受領ス

十一月廿一日 江田島丸及ヒ公稱第二八二號汽艇ノ二隻機關老朽ニ付還納ス  
 十二月卅一日 現在職員氏名及生徒數左ノ如シ

校長 少 將 山下源太郎 副官中 佐 別府友次郎  
 教頭兼 大 佐 加藤寬治 兼同 大 尉 福田武男  
 監事長 大 佐 加藤寬治 兼同 大 尉 福田武男  
 航海術教官兼監事

中 佐 田口久盛 少 佐 宮村曆造  
 少 佐 十川長吉 同 加藤勁次郎  
 同 大野忠造 同 鮫島 香  
 同 米村末喜

砲術教官兼監事  
 中 佐 堀田弟四郎 少 佐 吉富新八  
 少 佐 山名寬一郎 大 尉 松浦松見



兼副官 大尉 福田武男 同 秋山榮

水雷術教官兼監事 少佐 南郷次郎 少佐 大寺量吉

運用術教官兼監事 大尉 園田義治 大尉 高木平次

兼教官 造船少監 横山一 少佐 平田四郎

監事兼教官 大尉 辛島昌雄 同 中山友次郎

同 同 佐々木革次 同 橋本才輔

機關術教官 機關中佐 齋藤恒四郎 機關大尉 石津乙彌

同 機關大尉 小西省三 同 鹽冶應太郎

普通學教官 教授 保坂丑太郎 同 内田雄太郎

同 同 早川金之助 同 堀英四郎

同 同 田中西熊 同 酒井小太郎

同 同 細川源三郎 同 山本他家松

同 同 登石善二 同 川井田藤助

同 同 内藤信夫 同 野滿隆治

同 同 松宮馨 同 野滿隆治

同 同 岩佐重一 同 野滿隆治

同 同 堀英四郎 同 野滿隆治

同 同 酒井小太郎 同 野滿隆治

同 同 山本他家松 同 野滿隆治

同 同 川井田藤助 同 野滿隆治

同 同 野滿隆治 同 野滿隆治

同 同 野滿隆治 同 野滿隆治

明治四十四年

兼副官 大尉 福田武男

水雷術教官兼監事 少佐 南郷次郎

運用術教官兼監事 大尉 園田義治

兼教官 造船少監 横山一

監事兼教官 大尉 辛島昌雄

同 同 佐々木革次

機關術教官 機關中佐 齋藤恒四郎

同 機關大尉 小西省三

普通學教官 教授 保坂丑太郎

同 同 早川金之助

同 同 田中西熊

同 同 細川源三郎

同 同 登石善二

同 同 内藤信夫

同 同 松宮馨

同 同 岩佐重一

同 同 堀英四郎

同 同 酒井小太郎

同 同 山本他家松

同 同 川井田藤助

同 同 野滿隆治

同 同 野滿隆治

同 同 野滿隆治

「ハーブエー、デローランド」

「チエー、グラハム、  
デー、ジー、マーカー」

兼教官 主理 山田三郎 同 同 桑原賢鏡

軍醫長 軍醫中監 宮川兵市 附 軍醫少監 同 同 林政次

主計長 主計中監 遠藤和平 附 中主計 同 同 同

砲術教員 兵曹長 後藤勝太郎 下士官 十六名

水雷術教員 上等兵曹 川合春四郎 下士官 八名



運用術教員

同 深見松之助

上等兵曹 濱崎竹藏

下士官 十一名

信號術教員

下士官 二名

機關術教員

上等機關兵曹 大條哲郎

機關兵曹長 中原清之進

囑託教員

下士官 五名

同 守口福三郎

劍術 猿田東之助

柔道 平田仲次郎

本校附 柔道 松田謙三

書記 倉田龜三郎

書記 森脇熊次郎

同 大久保友市

同 上迫市平

技手 原田政吉

技手 福中松太郎

囑託

理科助手 中村壽市

齒科醫 安江浦次郎

生徒總數 三百八十七名 內譯

第三學年生徒 (四十期) 一四五名

第二學年生徒 (四十一期) 一二一名

第一學年生徒 (四十二期) 一二一名

下士卒總數 百八十二名 內譯

下士 六八名 (教員モ含ム) 卒 一一四名

雇員備人總數 百〇六名

雇員 二四名 備人 八二名



第一學年 二時 八二分  
 第二學年 二時 八二分  
 第三學年 二時 八二分  
 第四學年 二時 八二分  
 第五學年 二時 八二分  
 第六學年 二時 八二分  
 第七學年 二時 八二分  
 第八學年 二時 八二分  
 第九學年 二時 八二分  
 第十學年 二時 八二分  
 第十一學年 二時 八二分  
 第十二學年 二時 八二分  
 第十三學年 二時 八二分  
 第十四學年 二時 八二分  
 第十五學年 二時 八二分  
 第十六學年 二時 八二分  
 第十七學年 二時 八二分  
 第十八學年 二時 八二分  
 第十九學年 二時 八二分  
 第二十學年 二時 八二分

明治四十五年

一月四日 海軍省告示第一號ニテ本校生徒百名召集セラル(試験場所規格等前年ニ同シ)

一月十日 午前九時始業式施行(觀兵式ノ後、勅諭奉讀)

一月二十日 爾今日々教授時間ノ終始ヲ左ノ如ク定メ一月二十三日ヨリ實施ス  
 午前 始業 九時(但冬季) 十時 十一時  
 止業 九時五十分 十時五十分 十一時五十分

午後 始業 一時 二時  
 止業 一時五十分 二時五十分  
 但生徒ハ始業二分前ニ必ス教室ニ集合シ教官ノ臨場ヲ待ツヘシ

右ノ爲毎「止業時」及「始業時二分前」ニ振鈴ト喇叭トヲ以テ合圖ヲ爲サシム  
 一月二十二日 左ノ通本校普通學科理科教授要旨調製及理科教科書編纂委員ヲ命ス別紙要式ニ依リ本  
 年三月三十一日迄ニ完了提出スヘシ

- |     |      |    |        |
|-----|------|----|--------|
| 委員長 | 加藤大佐 | 委員 | 宮川軍醫中監 |
|     |      |    | 堀田中佐   |
|     |      |    | 南郷少佐   |
|     |      |    | 宮村少佐   |
|     |      |    | 大寺少佐   |
|     |      |    | 齋藤機關中佐 |
|     |      |    | 田口中佐   |



- 吉富少佐
- 平田少佐
- 横山造船少監
- 佐々木大尉
- 福田大尉
- 石津機關大尉
- 保坂教授
- 田中技師  
(臨時兼務教官)
- 鹽冶教授
- 早川教授
- 内田教授
- 細川教授
- 登石教授
- 山本教授
- 野滿教授

(要式)

一 普通學科理科教授要旨

(例) 本學科ニ於ケル教授ノ要旨ハ本校ニ於テ生徒ノ修得スヘキ兵學科諸科目ノ理解ニ要スル

智識ノ根底ヲ培養シ進テハ將來我海軍ノ將校トシテ實務ノ遂行ニ缺クヘカラサル觀察推

理ノ素養ヲ賦與シ尙ホ日進ノ諸兵學研鑽攻究ニ必要ナル基本智識ノ精確ナル養成ヲ主眼

トス

故ニ教材ハ努メテ右要旨ニ適合スル如ク撰定シ智識ノ該博ニシテ會得ノ淺粗ナランヨリ

ハ教目ノ適切ニシテ理解ノ深密ナルヲ尊ヒ常ニ注入暗記ヲ避ケテ推理應用ノ實力ヲ養成

スルコトニ努力スルヲ要ス云々

二 力學ニ於テ教授スヘキ科目左ノ如シ

三 物理學教授科目表

第一學年 (何々)

第二學年 (何々)

第三學年 (何々)

四 數學ニ於テ教授スヘキ科目左ノ如シ

第一學年 (何々)

第二學年 (何々)

五 化學ニ於テ教授スヘキ科目左ノ如シ

化學教授科目表

第一學年 (何々)

第二學年 (何々)

第一學年 (何々)

(注意) 右諸科目決定參考資料トシテ英國海軍兵學校本科理科々目表ヲ添フ

明治四十五年



(按) 從來本校ニ於ケル普通學理科ノ教目ト兵科砲術、水雷術、運用術、機關術ニ於ケル教目トノ間相互ノ連絡不完全ニシテ兵科教授上又將來各自ノ研究上遺憾トスル點少ナカラサリシカ今般理科教科書編纂替ノ結果從來ノ缺點ヲ概テ除去スル事ヲ得タルカ如シ

一月二十四日 航海表改訂編纂委員長委員左ノ通り定ム

- 委員長 教頭 加藤 大佐
- 委員 航海科、理科全部
- 教務部副官
- 航海科 田口中佐 宮村少佐 十川少佐 加藤少佐 大野少佐 鮫島少佐 米村少佐
- 理科 保坂教授 田中技師 鹽冶教授 早川教授 内田教授 細川教授 登石教授
- 山本教授 松宮教授 野滿教授

教務部 福田大尉

二月二十九日 教科書及參考書編纂規程別冊ノ通改定ス (別冊省略)

三月三十一日 本日ヨリ四日間縣下賀茂郡原村ニ於テ生徒野外演習施行

四月一日 第一學年生徒早川退藏本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

英國人「マーク、マン」同「ヂエー、グラハム、マーター」ノ兩名英語學教師トシテ本年四月一日ヨリ明治四十六年三月三十一日迄雇繼ヲナス

四月二十八日 大運動會トシテ秋月射擊場ニ於テ生徒射擊會ヲ施行ス

五月二十九日 第一學年生徒渡邊馨有馬ト改姓ス

六月八日 山田龍之進水泳教員囑託 柔道教員松田謙三兼水泳教員囑託

六月廿六日 本校内則中改正ノ件認許セラル

「普通學科」ヲ「普通學文科及同理科」ニ區分ス其他略ス

教本第七二二號ノ三ニテ教育本部第一部長ヨリ校長宛通牒

普通學科分科首席者取扱ニ關スル件

今般貴校内則第二條ノ改正ニ依リ普通學科ヲ便宜上文科及理科ニ區分セラレシモ元來兵學校ニ於テ教授スヘキ學科ノ區分ハ明ニ兵學校條例第二條ニ示サレタル義ニ有之候而モ教務規程第六條ニ掲ケラレタル兵學普通學ノ二大別ノ如キハ單ニ教育ノ系統上之ヲ分立スルノ必要ニ基クモノニシテ隨テ内則第二條改正ノ普通學科小別モ亦一ツノ便宜上ノ要求ニ外ナラス候ニ就テハ各分科首席者ノ教務執行ニ關シテハ内則第三十九條乃至第四十二條ニ準據スヘキハ勿論ニ有之候モ教科對立ノ基礎ハ條例ニ明示サレタル六科ノ外ニ出ラサル次第ニ付首席教官トシテノ待遇等ハ他迄モ各教科ノ先任者ニ局限シ假令普通學科ニ於ケル分科首席者タルモ其科教官中他ニ先任者アル場合ニハ之ヲ越ヘテ特種ノ待遇ヲ與ヘサルノ慣例ハ内則改正後ト雖モ依然トシテ從來ト異ラサル次第ニ有之候條向後ニ在テモ其主意ニ誤解ヲ生シ違戾ヲ來スコト無之様致度



右依命申進ス

七月十四日 本日ヨリ東京外十一ヶ所ニ於テ本校生徒採用試験身體検査開始二十四日検査終了  
但各地共検査日ヲ異ニス

同二十五日ヨリ學術試験開始八月三日終了

七月十六日 第四十一期、四十二期生徒及第申渡式並學術優等章品行善良章授與式ヲ行フ  
學術優等章ヲ受ケタルモノ

第四十一期 小西干比吉

中原義正

前田 稔

荒木 照

中島省三郎

加藤尙雄

志村喜代作

一瀬信一

納富貞市

柿本權一郎

山口次平

藤井清輔

草薙英治

鹿間正治

德永 榮

芝崎葆祿

草鹿龍之介

第四十二期 三木繁二

小林謙五

福元篤藏

安場保雄

河野千萬城

大西留吉

品行善良章ヲ得タルモノ

第四十一期 小西干比吉

中島省三郎

山口次平

草薙英治

大森仙太郎

第四十二期 小林謙五

第四十期生徒首席卒業者岡新ニ高木獎學金記念賞ヲ授與ス

七月十七日 第四十期生徒卒業證書授與式ヲ舉行ス

御沙汰ニ依リ 依仁親王殿下御臨場アラセラル

侍從武官西伸六郎ヲ被差遣成績優等者四名ニ短劍一口宛ヲ下賜ハル

又皇太子殿下ヨリ東官武官宇佐川知義ヲ差遣サル

御物拜受者 岡

新 山口多聞

濱田邦雄

多田武雄

卒業者氏名左ノ如シ

岡 新東京

山口多聞 東京

濱田邦雄 長崎

多田武雄 東京

倉永小三 佐賀

大和田 肇 宮城

有光米吉 高知

福留 繁 鳥取

宇垣 纒 岡山

阿部勝雄 巖手

佐藤源藏 神奈川

堀内 馨 愛媛

丹羽正躬 福岡

岸 福治 群馬

久重一郎 岡山

藤田利三郎 大阪

從從 醍醐忠重 東京華

柳沼七郎 福島

明治四十五年



|        |    |       |    |       |     |
|--------|----|-------|----|-------|-----|
| 松田平重朗  | 三重 | 大西瀧治郎 | 兵庫 | 松良考行  | 愛媛  |
| 妹尾知之   | 廣島 | 森國造   | 靜岡 | 始關    | 寛千葉 |
| 山本六郎   | 東京 | 今村修   | 大分 | 宮崎徳三郎 | 福岡  |
| 岸人三郎   | 兵庫 | 鈴木義雄  | 山形 | 水野知彦  | 山形  |
| 近藤憲治   | 静岡 | 佐藤勉   | 京都 | 少路虎三郎 | 滋賀  |
| 小川修    | 岐阜 | 松山光治  | 奈良 | 山口儀三朗 | 廣島  |
| 柴田彌一郎  | 富山 | 池内正方  | 長野 | 賀川右橘  | 廣島  |
| 加藤成禧   | 東京 | 樋口曠   | 山梨 | 丸茂邦則  | 長野  |
| 代谷清志   | 大阪 | 平塚四郎  | 茨城 | 只木信行  | 東京  |
| 石黒廣助   | 愛知 | 梅田長十  | 福岡 | 梅崎卯之助 | 福岡  |
| 小島正    | 静岡 | 木岡蟻志  | 徳島 | 兵頭光周  | 愛媛  |
| 佐々木喜代治 | 秋田 | 龍崎留吉  | 千葉 | 近藤爲次郎 | 東京  |
| 木村進    | 愛知 | 山村豊雄  | 石川 | 宗野長藏  | 山口  |
| 殿村千三郎  | 東京 | 平野重吉  | 長野 | 中村直照  | 福岡  |
| 藤城錦之助  | 東京 | 吉良俊一  | 大分 | 白木原高次 | 福岡  |

|       |    |       |     |       |     |
|-------|----|-------|-----|-------|-----|
| 小野寺丑藏 | 宮崎 | 寺岡謹平  | 山形  | 石川茂   | 廣島  |
| 吉永孟   | 東京 | 山崎英太郎 | 東京  | 坂元廣   | 鹿兒島 |
| 中尾八郎  | 愛知 | 長谷部喜藏 | 岐阜  | 秋山勝三  | 滋賀  |
| 阿部孝壯  | 山形 | 内田市太郎 | 群馬  | 可兒滿壽夫 | 岐阜  |
| 今澤綱雄  | 愛知 | 岩高賢治  | 大阪  | 中野勝次  | 石川  |
| 江戸兵太郎 | 福井 | 清岡八郎  | 東京華 | 宮本八十三 | 東京  |
| 荒木保   | 佐賀 | 徳富太多雄 | 熊本  | 宮里秀徳  | 鹿兒島 |
| 石橋清次  | 佐賀 | 谷口謙一  | 埼玉  | 山内三郎  | 鳥取  |
| 井上左馬太 | 鳥取 | 湯澤光三郎 | 群馬  | 寺垣敬三  | 東京  |
| 森野草六郎 | 岐阜 | 森本信一  | 高知  | 坂元宗隆  | 鹿兒島 |
| 水井静治  | 兵庫 | 伊藤辨之助 | 山形  | 西尾不二彦 | 大阪  |
| 中原三郎  | 佐賀 | 左近充尙正 | 鹿兒島 | 丸山茂富  | 長野  |
| 永井英   | 茨城 | 來島茂雄  | 東京  | 福田貞三郎 | 青森  |
| 松本象二郎 | 鳥取 | 寶來邦太郎 | 岡山  | 井原美岐雄 | 福岡  |
| 稻垣義穂  | 廣島 | 金掛義夫  | 廣島  | 坂本晋一  | 佐賀  |



荒木左右 熊本 岡野慶三郎 茨城 城島高次 佐賀  
 舛岡誠太郎 和歌山 清水 環 廣島 桑島 新群馬  
 三坂直廉 大阪 大橋竜男 福井 山本茂太郎 鳥取  
 黒川彦吉 愛知 延谷保司 大分 濱口鶴雄 三重  
 岡安喬捷 熊本 猪瀬正盛 福島 田中馬次郎 兵庫  
 西岡茂泰 高知 高橋一松 新潟 新美和 熊本  
 島津鹿藏 和歌山 江口松郎 佐賀 影山五郎 静岡  
 早川成治 東京 三木森彦 東京 八代祐吉 鹿兒島  
 土山健一 佐賀 小牧猛夫 宮崎 手東五郎 静岡  
 中村正雄 長野 吉田毅雄 千葉 登喜上野正雄 東京華  
 勝野 實 東京 森 徳治 福島 千田貞敏 鹿兒島  
 東郷 實 鹿兒島華 若尾悌次郎 高知 岸本雅夫 香川

七月十九日 第四十一期生徒三上武今村幸彦第四十二期ニ編入ス  
 第四十二期生徒小林富男第四十三期ニ編入ス  
 七月廿九日 第四十期生徒山本正彦第四十二期生徒島村太ノ兩名本校條例第二十二條第四項ニ依リ生  
 徒ヲ免ス

七月三十日 午前零時四十三分 明治天皇崩御遊ハサル大臣ヨリノ命令ニ依リ午前八時遙拜式終テ  
 御眞影奉拜本日ヨリ大正元年ト改メラル午後九時三十分休暇歸省中ノ生徒呼集ノ電報ヲ發ス  
 八月一日 午前八時 先帝陛下ノ奉弔式ヲ施行ス其ノ方法ハ一般ノ遙拜式ニ準シ哀ノ極ノ曲ヲ用ユ尙  
 軍艦ニ於テハ同時刻ヨリ分時弔砲六十發ヲ行フ  
 八月五日 ヨリ再ヒ休暇ヲ許ス  
 八月二十日 「エツチ、ヂエーバード」ヲ英語教師トシテ雇入ル  
 八月廿八日 勅令第十五號ニテ本校條例中左ノ通改正セララル  
 第三條海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 副官 教頭 教官  
 (按) 以前ハ何々教官ノ辭令ヲ用ヒタルモ之ヨリ單ニ教官ト稱ス  
 監事長 監事 軍醫長 主計長  
 前項ノ外海軍々醫官及主計官ヲ置ク  
 第四條ノ二 校長事故アルトキハ部下首席將校其ノ職務ヲ代理ス  
 第十三條中 「大主計」ヲ「主計」ニ改ム  
 第十六條中 左ノ如ク改ム



- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 三 復權ヲ得サル家資分散者又ハ破産者
- 四 削除

第十九條 生徒ノ修業期間ハ「三年四月」トス但シ戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

八月廿九日 達第十五號ヲ以テ本校規則左ノ通改正セラル

第四條 修業期間ハ之ヲ三學年ニ分チ第一學年ハ九月十一日ヨリ翌年十二月末日ニ至リ第二、第三

學年ハ一月一日ニ始マリ十二月末日ニ終ル

第十七條 校長ハ毎年學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ作り之ニ意見ヲ附シ二月末日迄ニ教育本部長ニ提出スヘシ

附 則

本則ハ大正元年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際現ニ海軍兵學校ニ在學スル生徒ノ大正元年ヨリ同二年ニ亘ル學年ハ九月十一日ヨリ翌年十二月末日ニ終ル

八月廿九日 官房第三四二號 (八月三十日海軍公報)

今般勅令第十五號ヲ以テ海軍兵學校條例中改正セラレタルニ付現ニ砲術教官、水雷術教官、運用術教官、航海術教官、機關術教官、普通學教官ノ職ニ在ル者ハ別ニ辭令ヲ用キスシテ教官ニ補セラレタルモノトス

九月一日 本校定員表中左ノ通改正セラル

中少佐 四

少佐大尉 一六

大尉 三

機關中少佐 一

機關少佐大尉 二

海軍教授 十六

九月六日 各科目試験點數表ヲ改正實施ス

九月九日 第三學年(四十一期)第二學年(四十二期)生徒二百三十四名 御大喪儀拜禮ノ爲メ東京へ出張十六日歸校

本年召募生徒富山縣平民濱野力以下百名入校ス其氏名族籍左ノ如シ

|       |      |       |       |       |      |
|-------|------|-------|-------|-------|------|
| 濱野 力  | 富山   | 花田 行  | 武 鹿兒島 | 石井 敬之 | 千葉   |
| 武田 貫  | 重 廣島 | 秦 知行  | 大分    | 黒木 剛一 | 宮崎   |
| 田部 明  | 廣島   | 有馬 修一 | 鹿兒島   | 横井 忠雄 | 大分   |
| 中島 千尋 | 北海道  | 武節 俊二 | 東京    | 矢野 志加 | 三 愛媛 |

大正元年



|            |           |           |
|------------|-----------|-----------|
| 高橋 業宮城     | 堀江義一郎 東京  | 鶴岡 信道 東京  |
| 佐藤 四郎 福島   | 橋本 象造 和歌山 | 近藤 次郎 東京  |
| 柴崎 惠次 兵庫   | 高木 惣吉 熊本  | 末廣 由巳 福岡  |
| 古川 保 鹿兒島   | 齋藤 正雄 山形  | 篠田 清彦 東京  |
| 近藤 脩三 愛媛   | 岩淵 三次 新潟  | 小田 爲清 鹿兒島 |
| 舟木 重利 石川   | 南 暉吉 東京   | 佐藤 寅次郎 山形 |
| 阿部 眞一 愛媛   | 片岡 義明 廣島  | 鳥越 新一 鹿兒島 |
| 龍岡 長久 宮崎   | 土井 直治 兵庫  | 田原 吉興 東京  |
| 佐藤 康夫 神奈川  | 堀内 多雄 香川  | 松下 武雄 鹿兒島 |
| 江口 誠 福岡    | 鎌田 正一 石川  | 山形 政二 鳥取  |
| 伊藤 良秋 廣島   | 松崎 彰 宮崎   | 岩本 常吉 石川  |
| 西川 清五郎 和歌山 | 大倉 留三郎 奈良 | 富永 昌三 長崎  |
| 林 清亮 石川    | 高池 脩三 兵庫  | 有馬 正文 鹿兒島 |
| 清水 正心 三重   | 小田 切義作 山梨 | 上坂 香苗 滋賀  |
| 蒲瀬 和足 福岡   | 鈴木 初三 群馬  | 小島 齊志 愛媛  |

|           |            |            |
|-----------|------------|------------|
| 矢野 英雄 香川  | 國枝 勝亞 東京   | 松本 篤 山形    |
| 横川 市平 岡山  | 中川 精雄 山口   | 星 埜才二 廣島   |
| 小野 虎太郎 香川 | 能美 實 島根    | 小倉 眞二 山口   |
| 吉田 喜一 佐賀  | 内田 亮之輔 岡山  | 古谷 啓次 静岡   |
| 藤村 白鷹 東京  | 中澤 佑 長野    | 渡邊 尙造 三重   |
| 伊澤 石之介 新潟 | 坂本 三郎 巖手   | 宇佐 騰 福岡    |
| 松尾 銀藏 福岡  | 磯部 淳 奈良    | 成田 茂一 青森   |
| 加藤 文太郎 三重 | 平井 泰次 静岡   | 田中 菊松 新潟   |
| 吉見 信一 長野  | 小畑 長左衛門 大阪 | 岡 憲一 廣島    |
| 柴山 直矢 東京華 | 小島 榮 愛知    | 渡邊 武 山口    |
| 益田 康彦 福岡  | 武田 勇 兵庫    | 安藤 榮城 岡山   |
| 加藤 尙雄 東京  | 野元 四郎 東京   | 伊集院 松治 東京華 |
| 大林 末雄 愛知  | 山内 秀夫 兵庫   | 關 郁乎 東京    |
| 澁谷 正巳 佐賀  | 木下 三雄 熊本   | 三好 輝彦 大分   |
| 小原 義雄 鹿兒島 |            |            |



九月十日 第四十一期生徒道野清疾病ノ爲メ試験未了ノ處本月二日ヨリ臨時試験開始同日結了及第ス

九月十三日 午後十一時遙拜式終テ 先帝陛下御眞影拜禮

九月三十日 本校生徒用兵器消耗年額改正セラル(砲術ノ部)

十月三十日 第二學年生徒石川又五郎疾病ノ爲メ茨城縣筑波郡島名村ニ轉地療養中死亡ス

十一月十三日 本校午砲規則ヲ定ム

十一月廿日 數學教令、物理學教令、化學教令、英語教令別冊ノ通定ム (別冊略)

十一月廿九日 左記ノ營造物ヲ受領ス

一 信號橋 鐵柱 一基

一 信號橋 木柱 一基

附屬旗箱木製 二ヶ所

十二月十一日 第四十三期生徒野元四郎本校條例第二十二條第四項ニヨリ生徒ヲ免ス

力學教令別冊ノ通定ム (別冊略)

十二月三十一日 英語教師「マーク、マン」本日履ヲ解ク

(按) 本人ノ希望ニ依リ

十二月三十一日 現在職員氏名

校長 中 將 山下源太郎

副官少 佐 山口傳一

教頭兼 大 佐 加藤寛治

同兼大 尉 福田武男

監事長 航海術教官兼監事 少 佐 宮村曆造

同兼大 尉 加藤勳次郎

同 米村末喜

大 尉 岩崎 猛

大 尉 植村茂夫

同 山本土岐彦

同 太田質平

砲術教官兼監事 中 佐 丸山壽美太郎

少 佐 山名寛一郎

兼副官 少 佐 兼坂 隆

大 尉 秋山 榮

同 大 尉 福田武男

水雷術教官兼監事 少 佐 南郷次郎

同 大 尉 山口熊平

大 尉 園田義治

同 高木平次

同 園田義治

同 高木平次

同 園田義治

同 高木平次

同 園田義治

同 高木平次

同 園田義治

同 高木平次

同 園田義治

同 高木平次



運用術教官兼監事

中佐 川上正一  
少佐 平田四郎  
大尉 橋本才輔  
同 小林省三郎

兼造船少監

少佐 横山一  
大尉 林清二  
立川常次

機關術教官

機關中佐 齋藤恒四郎  
同 大尉 本間文一郎  
同 同 山田章三

同 大尉 小西省三  
同 同 眞鍋正男

普通學教官

教授 保坂丑太郎  
同 早川金之助  
同 田中西熊  
同 細川源三郎  
同 山本他家松

同 鹽治應太郎  
同 内田雄太郎  
同 堀英四郎  
同 登石善二  
同 内藤信夫

教授 川井田藤助

同 野滿隆治  
同 岩佐重一

同 梅谷興一

同 西村常吉

同 神本國太郎

同 根來祐春

同 石黒順二

同 中村綱吉

同 「ヂェー、グラハム、マーター」

同 後藤勝太郎

同 川合春四郎

同 川合春四郎

同 深見松之助

同 深見松之助

同 十一名

大正元年



信號術教員

下士官 二名

機關術教員

上等機關兵曹 大條哲郎

機關兵曹長 中原清之進  
外下士官 六名

囑託教員

劍術 猿田東之助

同 守口福三郎

同 寺島留五郎

柔道 平田仲次郎

柔道 松田謙三

同 作本昇五

本校附

上等筆記 堀江吾八

書記 倉田龜三郎

書記 森脇熊次郎

同 大久保友市

同 上迫市平

技手 原田政吉

技手 福中松太郎

囑託 理科學助手 有田甚藏 (十二月二十七日解囑)

齒科醫 三宅寬平

十二月三十一日 現在生徒員數

總數 三四〇名 內譯

第三學年 (四十一期) 一一九名

第二學年 (四十二期) 一二〇名

第一學年 (四十三期) 一〇一名



大正二年

一月四日 海軍省告示第一號ヲ以テ本校生徒百名召募セラル

試験場所(十二箇所)前年ニ同シ

試験規格課目中地文ヲ削リ圖書ヲ除却ス且ツ振落シハ代數、英文和譯、平面三角、算術及英文法ノ各科目ニ於テ行ヒシカ本年ヨリ科目ノ如何ニ拘ラス規格點數ニ達セサルモノニ試験ヲ繼續セシメサルコトトナセリ

一月十四日 海軍省達第二號ヲ以テ海軍文官進級増俸取扱規則中改正セラル

本日事務ノ都合ニ依リ教務部屬員ハ副官部屬員室ニ移轉ス

本校附書記倉田龜三郎ハ一月八日二級俸ヲ給シ同時ニ依願免官トナル

第三學年生徒石川縣平民小倉外吉ハ石川縣士族ニ變籍ス

一月三十一日 達第四號ヲ以テ海軍准士官下士卒任用進級規則中改正セラル

達第五號ヲ以テ海軍卒進級規則改正セラル

二月一日 本校英語學教師英國人「エツチ、ヂエー、バード」身分ノ義自今奏任ニ準シ取扱ハル

二月六日 本校競技褒賞規則相定ム

三月三日 本校生徒消耗兵器年額(水雷ノ部)改定セラル



三月四日 九州大學總長山川健次郎博士ノ講話アリ 「忠君愛國ニ就キテ」  
 三月十一日 內令第三十四號ヲ以テ海軍定員令改正セラル  
 三月二十二日 本校教務規程及準備教程施行細則別冊ノ通り制定方認許セラル(別冊略)  
 三月三十日 本日ヨリ四日間生徒野外演習施行(縣下加茂郡原村)  
 四月一日 內令第五十五號ヲ以テ海軍定員令中改正セラル本校定員表中書記ノ下「四」ヲ「三」ニ計ノ部  
 「六人」ヲ「五人」ニ改メラル  
 四月十七日 達第八十六號ヲ以テ海軍々人軍屬休暇規則中改正セラル  
 四月二十五日 副官部屬員室ト合併中ナリシ教務部屬員他室ヘ移轉ス  
 四月二十八日 勅令第六十六號ヲ以テ海軍准士官下士任用進級條例中改正セラレ准士官ノ任用ハ在籍  
 鎮守府司令長官之ヲ行フコト、ナリ五月一日ヨリ實施セラル  
 達第八十九號ヲ以テ海軍准士官下士任用進級取扱規則中改正セラル  
 五月三日 第一學年生徒小林富男生徒ヲ免ス(病氣)  
 五月七日 上村海軍大將(特命檢閱使)吳鎮守府檢閱ノ序ヲ以テ來校(訓示ヲ行ハル)  
 五月八日 第三學年生徒松村龍雄生徒ヲ免ス(本校條例第二十二條第一項ニ依リ)  
 五月十四日 吉松教育本部長來校視察十五日出發

官房第一三三四號ヲ以テ自今准士官ニ任用セラレタル者ノ兵籍ハ別ニ指定セラル限リハ下士在官中  
 ノ所管鎮守府ナル旨達セラル

五月二十一日 來ル九月ヨリ開始スヘキ準備教程修業中ノ生徒呼稱ヲ左ノ通り定ム

第一學年豫科生徒

五月二十四日 教官中多數異動者アリ、主トシテ練習艦職員ヘノ轉補及補缺教官ノ任命ナリ

五月二十六日 海軍省告示第六號

本年當省告示第一號ニ基ク海軍兵學校生徒志願者ニ對スル身體検査ハ左記日割ノ通施行ス(左記略  
 ス)

生徒訓育分擔及特別職務表ヲ改ム

五月二十八日 官房第一四七四號ヲ以テ外國人接待費支出金額改正セラル (本校二百圓)

六月一日 多田一郎ニ本校游泳術教員ヲ囑託セラル (九月三十日辭職)

六月六日 爾今生徒隊訓育日課及作業實施中指揮承行ニ關シ左ノ通り心得ヘシ

一 校長點檢、檢閲若クハ生徒隊ニ訓示講評ノ時

監事長生徒隊ヲ指揮シ日課若クハ作業ノ終始ヲ命ス

分隊監事(首席指導官)ハ人員ノ整頓若クハ作業ノ整備(終結)ヲ監事長ニ報告ス



二 監事長點檢若クハ監事長自ら生徒隊ヲ統裁スル時  
生徒隊監事(首席指導官)ハ生徒隊ヲ指揮シ分隊監事(指導官)ノ報告ヲ受ケ各分隊ノ整頓若クハ  
作業ノ整備(終結)ヲ監事長ニ報告ス

三 監事長事故アル時ハ生徒隊監事(首席監事)之ニ代リ第二項ノ通り指揮ヲ繼承ス  
四 當直將校生徒隊ヲ統裁スル時

當直將校自ら生徒隊ヲ指揮シ日課若ハ作業ノ終始ヲ命シ分隊伍長若クハ分隊首席者ヨリ必要ナ  
ル報告ヲ受ク

備考 雨天ノ際生徒館内ニ於テ校長點檢其ノ他校長ノ臨場スル諸儀式施行ノ場合ニ於テハ監事長  
階上分隊ヲ指揮シ其ノ報告ヲ受ケ生徒隊監事ハ階下分隊ヲ指揮シ其ノ整備ヲ監事長ニ報告  
ス

但シ監事長點檢ノ場合ニ於テハ生徒隊監事ハ階上分隊ヲ指揮シ次席監事ハ階下分隊ヲ指  
揮シ其ノ整備ヲ生徒隊監事ニ報告ス總員階下併合ニ於テハ第二項ニ準シ行フヘシ

六月九日 體操實習ノ爲左記三名ヲ陸軍戸山學校へ派遣出發セシム  
一等兵曹 高 島 金 藏 同 上土井申二 同 西 泰三

六月十一日 爾後雨天ノ際(必要ノ際)生徒館内ニ於ケル分隊點檢(定時點檢)整列位置ヲ左ノ如ク改ム

階下西 一、五、九分隊 東 二、六、十分隊

階上西 三、七、十一分隊 東 四、八、十二分隊

六月十八日 灣内練習艦繋留用浮標二個吳港務部ニテ設置ス

六月二十一日 吳鎮機密第三三四號ノ二ヲ以テ舊第二十五號水雷艇(發射管一門裝備ノ儘)雜役船トシ  
テ兵學校附屬トセラレタル旨通知アリ

六月二十五日 舊第二十五號水雷艇ヲ吳港務部ヨリ受領

六月二十七日 達第百一號ヲ以テ海軍ニ於テ用フル度量衡法改正セララル

七月四日 教本機密第二六五號ヲ以テ海軍部内雇外國人身分取扱内規内示セララル

七月十七日 故有栖川宮威仁親王殿下國葬當日ニ付謹慎授業ヲ行ハス生徒ハ温習所ニテ自習セシム

七月二十日 戸山學校へ派遣中タリシ下士三名歸校ス

八月一日 勅令第二六二號ヲ以テ文官任用令改正セララル

八月五日 公稱第一九六六號(舊第十五號水雷艇)ヲ吳港務部へ引渡ス

官房第一九一〇號ノ三ヲ以テ海軍次官ヨリ 天皇陛下 皇后陛下 皇太后陛下 皇太子殿下ノ 御  
寫眞奉戴並奉揚方ニ付左ノ通牒アリ

一 天皇 皇后兩陛下 皇太子殿下ノ 御寫眞ハ追テ御下賜可相成答



二 先帝竝 皇太后陛下ノ御寫眞ハ現ニ奉戴セル各部ニ於テ其ノ儘鄭重ニ格納シ置キ 先帝陛下ノ御寫眞ハ明治天皇祭其他特ニ先帝ヲ記念シ奉ルヘキ機會ニ之ヲ奉掲シ拜禮ヲ行ヒ 皇太后陛下ノ御寫眞ハ 兩陛下竝 皇太子殿下ノ御寫眞御下賜ノ節ニ至ラハ共ニ之ヲ奉掲シ從來ノ例ニ依リ奉拜スルコト

三 御寫眞奉掲ノ順序ハ左ノ如シ

天皇陛下ノ御位ハ右トシ(臣下ヨリ向テ左手ニ拜シ奉ル)順次左ニ 皇后陛下 皇太后陛下 皇太子殿下ノ御位トスルコト

八月十日 内令第二百二十八號ヲ以テ軍艦淺間及吾妻ヲ練習艦ト定メ練習ノ事ニ關シテハ兵學校長ノ指揮ヲ受ケシメラル

八月十六日 軍第二二四號ノ二ヲ以テ 御寫眞拜禮順序ニ關シ軍務局長ヨリ左ノ通牒アリ

一 御寫眞拜禮順序ハ宮中儀式上席次ニ依ルコト (後年改メラル)

二 御寫眞拜禮中ハ當該長一人ノミ侍立ノコト

八月二十二日 教本機密第三三二號ヲ以テ入校豫定者中入校セシメカタキ者アルトキハ本校規則第三條第二項ニ據リ豫定者中ヨリ其ノ豫定順序ヲ以テ補缺スヘキ旨訓令セラル

八月三十一日 囑託柔道教員松田謙三依願解囑

九月一日 鈴木利作へ本校柔道教員ヲ囑託セラル

九月三日 訓育提要別冊ノ通制定本日ヨリ之ヲ實施ス(別冊略)

入校式及始業式施行

本年度召集生徒百名入校其ノ族籍氏名左ノ通り

|        |     |        |     |       |     |
|--------|-----|--------|-----|-------|-----|
| 島田久五郎  | 和歌山 | 木本伍六   | 靜岡  | 中村愛三  | 福岡  |
| 西田兵四郎  | 島根  | 小島秀雄   | 兵庫  | 大和田昇  | 愛媛  |
| 岡本久行   | 鹿兒島 | 湊慶讓    | 鹿兒島 | 深町讓   | 佐賀  |
| 德永盛次   | 鹿兒島 | 大西敬一   | 岡山  | 中島正人  | 福岡  |
| 黒田麗廣島  |     | 澁谷紫郎   | 長野  | 高田俐   | 北海道 |
| 福田勇熊本  |     | 石橋滋    | 福島  | 志波國彬  | 長崎  |
| 三上射鹿廣島 |     | 松下操    | 鹿兒島 | 帖佐久   | 宮城  |
| 篠田勝清   | 福岡  | 岡井藤志郎  | 愛媛  | 奥島章三郎 | 愛媛  |
| 佐藤勝也   | 東京  | 中津成基   | 熊本  | 野元爲輝  | 鹿兒島 |
| 石河淡徳島  |     | 山高松次郎  | 廣島  | 篠田太郎八 | 廣島  |
| 嘉村嘉六   | 佐賀  | 今和泉喜次郎 | 鹿兒島 | 杉本丑衛  | 高知  |



|         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 福原吉野三重  | 常木千代治兵庫 | 外山克郎鹿兒島 |
| 西田正雄兵庫  | 森川亦男長崎  | 早川幹夫廣島  |
| 前原富義鹿兒島 | 牟田口格郎東京 | 井上左馬二鳥取 |
| 久宗武七和歌山 | 小西要人鹿兒島 | 川口駒太郎埼玉 |
| 飯盛善美佐賀  | 鹿目善輔神奈川 | 北浦豊男鳥取  |
| 有田貢山口   | 谷本計三廣島  | 田尻穰東京華  |
| 石原二郎山形  | 赤坂徳治巖手  | 栗原悦藏群馬  |
| 高橋道夫長崎  | 澤吹衷新潟   | 仁科宏造廣島  |
| 宮下頼永長野  | 藤吉直四郎福岡 | 黒島龜人廣島  |
| 澤正雄和歌山  | 島峯次佐賀   | 大熊讓東京   |
| 堀鴻一兵庫   | 町田秀實鹿兒島 | 柳本柳作長崎  |
| 高次貫一廣島  | 古村啓藏長野  | 杉坂一雄愛知  |
| 宇宿主一宮崎  | 千葉次雄巖手  | 菅沼忠正東京  |
| 大塚暢之助東京 | 加瀬三郎千葉  | 上田善夫石川  |
| 服部勝二廣島  | 朝倉豊次富山  | 龜山峯五郎岡山 |

|         |          |         |
|---------|----------|---------|
| 香春克己福岡  | 西村義治鳥取   | 中堂觀惠石川  |
| 村山尙志鳥取  | 萱場松次郎宮城  | 朝比奈秀雄山梨 |
| 島崎利雄福井  | 佐藤州雄福岡   | 岡村精一口   |
| 一宮義之徳島  | 松田千秋熊本   | 山澄貞次郎東京 |
| 曾山由之神奈川 | 伊集院竹二東京華 | 土師秀雄東京  |
| 井上隆福岡   | 磯惠群馬     | 長谷眞三郎兵庫 |
| 曾爾章島根   | 高橋雄次静岡   | 元吉貞朔高知  |
| 堀九郎山口   |          |         |

九月八日 艦本第二四三六號ヲ以テ本校附舊二十五號水雷艇へ公稱番號(第二〇四六號)附與ノ旨吳港務部ヨリ通牒アリ

九月九日 本校ト一番繋船浮標(練習艦淺間用)トノ間ニ電話線沈設ス

九月十三日 達第一二一號ヲ以テ證書授與式及御下賜品拜受式施行手續ヲ定メラル

九月二十一日 第四十四期生徒練習艦へ乗艦

十月六日 教本第九〇五號ノ三本校内則改正ノ件認許セラル

十月九日 官房第二六二二號ノ三ヲ以テ毎年十一月十日東京灣ニ於テ恒例觀艦式舉行セラル、旨達セ



十月十四日 官房第二七五二號ヲ以テ准士官以上結核患者取扱方ノ件達セラル

十一月一日 達第一三五號ヲ以テ傭人給與規則中改正セラル(守衛長ヲ置クノ件)

十一月八日 教本第六二二號ノ三ヲ以テ本校生徒小銃戰闘射撃及野砲射撃施行方認許セラル

十一月二十六日 雇教師「エツチ、ヂエー、バード」自今部内限リ高等官六等ノ上席ニ準シ取扱ハル  
(官房機密第七一四號ノ二)

十一月二十九日 第一學年豫科生徒練習艦退艦

十二月一日 内令第一八四號ヲ以テ練習艦淺間吾妻練習艦隊ニ編入セラル

勅令第三〇七號ヲ以テ海軍高等武官准士官服役令改正セラル

海軍大佐堀内三郎筑波艦長ヲ免セラレ本校教頭兼監事長ニ補セラル

十二月二日 内令第八十八號ヲ以テ雜役船種類所屬及定額改定セラル

十二月十五日 海軍省令第十三號ヲ以テ海軍高等武官准士官服役令施行細則ヲ定メラル

十二月十六日 達第一四八號ヲ以テ證書授與式及御下賜品拜受式施行手續中改正セラル

十二月十八日 達第一五一號ヲ以テ守衛長守衛服務規程定メラル

本日補授與式及進級告達式學術優等品行善良章授與式施行

學術優等章ヲ授與シタルモノ

第三學年生徒 三木繁二

第二學年生徒 濱野 力 武田貫望 石井敬之

品行善良章ヲ授與シタルモノ 三木繁二 山崎貞直

第三學年生徒 三木繁二 山崎貞直

第四十三期生徒小島榮第四十四期ニ編入ス

十二月十九日 第四十一期生徒卒業證書授與式施行

御沙汰ニ依リ 伏見宮博恭王殿下御臨場アラセラル

侍從武官松村純一ヲ差遣サル

成績優等者四名へ短劍一口宛下賜ハル

御物拜受者 小西干比古 中島省三郎 前田 稔 中原義正

卒業者氏名族籍左ノ如シ 小西干比古 岡山 中島省三郎 巖手 前田 稔 鹿兒島

中原 義正 山口 荒木 照島根 山口次平 神奈川

酒卷 宗孝 廣島 納富 貞市 佐賀 志村喜代作 山梨



|           |          |          |
|-----------|----------|----------|
| 鹿間政治 兵庫   | 德永 榮 熊本  | 草苺英治 福島  |
| 一瀬信一 福井   | 草鹿龍之介 石川 | 藤井清輔 山口  |
| 大森仙太郎 熊本  | 加藤尙雄 愛知  | 榑原正木 愛知  |
| 柿本權一郎 和歌山 | 山崎重暉 高知  | 伊藤賢三 和歌山 |
| 峯松寧夫 奈良   | 江口彌作 佐賀  | 大松澤俊實 宮城 |
| 芝崎葆綠 東京   | 澤田虎夫 岡山  | 杉本道雄 三重  |
| 保科善四郎 宮城  | 黒瀬 浩 埼玉  | 西尾秀彦 三重  |
| 中島 武 千葉   | 汐崎 進 愛媛  | 原 鼎三 和歌山 |
| 本間頼三 山口   | 平尾誠一 廣島  | 緒方真記 福岡  |
| 伊藤三郎 新潟   | 留岡 勵 岡山  | 星野應韶 京都  |
| 大杉守一 静岡   | 田代藤平 東京  | 山縣豪介 山口  |
| 橋本信太郎 和歌山 | 栗屋 眞 山口  | 高間 完 廣島  |
| 市九利之助 佐賀  | 原田 覺 福島  | 紫田瀧三郎 愛媛 |
| 吉利 貞 鹿兒島  | 園田 昇 岡山  | 菊地鶴治 宮城  |
| 平野六三 石川   | 古宇田武郎 大分 | 松野象三 東京  |

2-29  
2-6

|           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 鈴木豊次郎 神奈川 | 福山直治 鳥取   | 吉田榮之助 東京 |
| 重田巽郎 長野   | 末宗音藏 大分   | 石橋善吾 佐賀  |
| 高柳儀八 佐賀   | 神田芳夫 石川   | 坪郷悦馬 山口  |
| 大田 實 千葉   | 久宗米次郎 和歌山 | 三宅二郎 東京  |
| 秋山輝男 熊本   | 門脇盛吾 宮城   | 長野 巖 愛媛  |
| 福澤常吉 石川   | 圓山英勅 廣島   | 古木百藏 熊本  |
| 山口榮三郎 山形  | 田口威雄 東京   | 木暮軍治 群馬  |
| 山下宗治 鳥取   | 上野敬三 巖手   | 田村劉吉 群馬  |
| 白井孝次 埼玉   | 岩瀬正己 長崎   | 道野 清 大分  |
| 中川不二彦 愛知  | 垂水八五郎 大分  | 新貝恒雄 大分  |
| 驛元三郎 山口   | 石井靖彦 愛知   | 岩下 颯 長野  |
| 石原隆三郎 長崎  | 小野源吉 山形   | 青木泰二郎 東京 |
| 竹内平七 愛知   | 堀 勇五郎 鹿兒島 | 市村茂松 石川  |
| 下山二郎 愛知   | 門脇文吾 鳥取   | 米澤市太郎 德島 |
| 宮阪市郎 東京   | 中比良義太郎 滋賀 | 二村嘉八 愛知  |



|         |         |         |
|---------|---------|---------|
| 佐藤俊美巖手  | 國分正三福島  | 小倉外吉石川  |
| 鈴木虎男巖手  | 中山友藏高知  | 綠川憲之助佐賀 |
| 小早川準三廣島 | 木村昌福鳥取  | 星野慶幸福島  |
| 小澤真樹静岡  | 高橋美雄山形  | 阿部文太郎山形 |
| 藤井音四郎群馬 | 庄司芳吉山形  | 佐藤貫造廣島  |
| 岡恒夫千葉   | 東郷二郎東京華 | 岡本享平廣島  |
| 本田榮三朽木  |         |         |

十二月二十五日 原廣任海軍教授補海軍兵學校教官  
十二月三十一日 現在職員氏名

|     |    |       |     |   |       |
|-----|----|-------|-----|---|-------|
| 校長  | 中將 | 山下源太郎 | 副官中 | 佐 | 山口傳一  |
| 教頭兼 | 大佐 | 堀内三郎  | 同兼大 | 尉 | 植村茂夫  |
| 監事長 | 大佐 | 堀内三郎  | 同兼大 | 尉 | 植村茂夫  |
| 教官兼 | 監事 |       |     |   |       |
|     | 中佐 | 犬塚太郎  | 少佐  | 佐 | 迎邦一   |
|     | 少佐 | 兼坂隆   | 同   | 同 | 左近司政三 |
|     | 同  | 平田四郎  | 同   | 同 | 常盤盛術  |

|     |      |       |       |       |       |
|-----|------|-------|-------|-------|-------|
| 同   | 同    | 田岡勝太郎 | 同     | 同     | 林清二   |
| 同   | 同    | 岩澤安五郎 | 同     | 同     | 岩崎猛   |
| 兼教官 | 大尉   | 植村茂夫  | 大尉    | 同     | 松村和介  |
|     | 大尉   | 小栗信一  | 同     | 同     | 小森吉助  |
|     | 同    | 松崎直   | 同     | 同     | 吉川真清  |
|     | 同    | 小早川隆次 | 同     | 同     | 小林省三郎 |
|     | 同    | 太田質平  | 同     | 同     | 和田信房  |
|     | 同    | 増田乙三郎 | 同     | 同     | 御堀傳造  |
|     | 同    | 兩宮厚作  | 同     | 同     | 神本國太郎 |
| 教官  | 同    |       | 監事兼教官 | 同     |       |
|     | 機關中佐 | 齋藤恒四郎 | 同     | 同     | 鈴木清   |
|     | 同    | 真鍋正男  | 同     | 同     | 本間文一郎 |
|     | 同    | 山田章三  | 兼     | 造船大技士 | 佐々初喜  |
| 教授  | 同    | 保坂丑太郎 | 同     | 同     | 鹽治應太郎 |
| 同   | 同    | 早川金之助 | 同     | 同     | 内田雄太郎 |

大正二年



|       |                 |        |               |
|-------|-----------------|--------|---------------|
| 同     | 田中西熊            | 同      | 堀英四郎          |
| 同     | 細川源三郎           | 同      | 登石善二          |
| 同     | 山本他家松           | 同      | 内藤信夫          |
| 同     | 川井田藤助           | 同      | 野滿隆治          |
| 同     | 梅谷興一            | 同      | 岩佐重一          |
| 同     | 西村常吉            | 同      | 原廣            |
| 兼教官   | 軍醫大監 加賀美照太郎     | 附兼教官   | 大軍醫 吉田昌治      |
| 大軍醫   | 木村政男            | 同      | 内藤九市          |
| 主計長   | 主計中監 中村綱吉       | 附      | 大主計 小山房太郎     |
| 雇教師   | 「ヂエー、グラハム、マーター」 |        | 「エツチ、ヂエー、ボード」 |
| 教員    |                 |        |               |
| 兵曹長   | 東畑佐七            | 上等兵曹   | 川合春四郎         |
| 上等兵曹  | 鈴木浪治郎           | 同      | 井筒金藏          |
| 機關兵曹長 | 中原清之進           | 上等機關兵曹 | 大庭傳作          |
| 囑託教員  |                 |        |               |

|         |       |    |        |
|---------|-------|----|--------|
| 劍術      | 猿田東之助 | 同  | 守口福三郎  |
| 同       | 寺島留五郎 | 柔道 | 平田仲次郎  |
| 柔道      | 鈴木利作  | 同  | 藤村正三   |
| 理科學教授助手 | 長井照二  |    |        |
| 齒科醫     | 三宅寛平  |    |        |
| 本校附     |       |    |        |
| 上等筆記    | 堀江吾八  | 書記 | 森脇熊次郎  |
| 書記      | 大久保友市 | 同  | 仁戸田亥八郎 |
| 技手      | 原田政吉  | 同  | 福中松太郎  |

十二月卅一日 生徒總數 三百十八名

第三學年 (第四十二期) 百十八名  
 第二學年 (第四十三期) 九十九名  
 第一學年 (第四十四期) 百〇一名



大正三年

一月四日 海軍省告示第一號ヲ以テ本校生徒百名召募セラル

試験場所 前年ノ長野、名古屋、大分、熊本ノ四個所ヲ減シ福岡ヲ加フ即チ、東京、仙臺、金澤、京都、高知、鳥取、廣島、福岡、鹿兒島ノ九ヶ所ナリ

規格ハ前年ニ同シ出願期日四月三十日

一月九日 教授原廣へ體育擔任教官ヲ命ス

體育擔任教官服務内規草案

- 一 體育擔任教官ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務シ生徒體育ニ關スルコトヲ擔任ス
- 二 體育擔任教官ハ生徒隊監事ヲ補佐シ體育別科指導官ト聯絡ヲ保テ各體育別科ノ按配統一並其ノ改善進歩ノ途ヲ講究シ意見ヲ監事長ニ申告スヘシ
- 三 體育擔任教官ハ其ノ長スル技術ニ就テハ自ラ教授ノ任ニ當リ當該指導官ト協議シ其ノ贊同ヲ得テ直接指導ヲ掌ルモノトス

一月十日 午前九時始業式トシテ 勅諭奉讀終テ觀兵式ヲ行フ

一月三十一日 勅令ニヨリ海軍旗章令禮砲令公布セラレ海軍葬喪令改正セララル

二月十二日 勅令ニヨリ海軍禮式令公布セラレ達號ニテ海軍敬禮式ヲ廢セラル又省令ニテ海軍訪問規



則定メラル(舊訪問規則ハ達號ニヨリ廢セラル)達號ヲ以テ 勅語勅諭令旨奉讀方ニ付達セラル又海軍々屬禮式定メラル  
軍第五〇號ニテ 御寫眞奉拜ノ際數名乃至一分隊ヲ一團トシ奉拜又ハ一時奉移スル等ノ處置ヲ執ル件通牒アリ

二月二十五日 勅諭榮改訂委員ヲ組織ス

委員長 教頭 堀内大佐 委員 教官 全部 附筆生三(副官部一、教務部二)

二月二十六日 勅令第十九號ヲ以テ海軍高等武官進級條例中改正セラル

二月二十七日 勅令第二十三條ヲ以テ海軍服制改正セラル

勅令第二十四號ヲ以テ海軍服裝令公布セラル

達第二十三號ヲ以テ侍從武官差遣セラル、トキ迎送ニ關スル件達セラル

三月四日 第四十四期生徒小島榮本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

三月五日 校達 今回新タニ海軍禮式令及海軍服裝令發布セラレタルニ依リ之ニ關聯シ本校限リ左ノ

通規定又ハ改正シ之ヲ實施セシム

一 本校ニ於テハ室内ニ入ルトキ戸ヲ敲クヘキ室ヲ左ノ箇所ノミトシ其ノ他ハ之ヲ省略スルモノト

ス

生徒館内 御寫眞室 當直將校寢室

事務所内 校長室 教頭兼監事長室 各科教官室

二 劍ノ敬禮ハ海軍禮式令ニ規定シアリト雖モ教官監事ハ號令實習員等ニ對シテハ特ニ命シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得 (以下内則中改正略ス)

達第二十八號ヲ以テ海軍准士官以上履歷及身上取扱規則改定セラル (三月一日附)

達第二十九號ヲ以テ守衛長守衛服務規程中改正セラル (三月三日附)

(按) 本改正ニテ守衛長守衛ハ專務監事ノ所屬トナル

三月七日 大正元年七月三十一日ノ 勅諭拜受

三月二十二日 皇太子殿下雍仁宣仁兩皇子殿下御同伴御召艦薩摩ニテ午後二時半御入港供奉艦攝津、周防、筑波、石見、金剛

三月二十三日 校内御巡覽

三月二十四日 午前六時宮島へ向ケ御出艦(各艦出港)

三月二十九日 新舊校長迎送及披露式施行

新校長 中將 有馬 良橘 (將官會議員ヨリ)

舊校長 中將 山下源太郎 (軍令部次長兼將官會議員へ)



三月三十日 本日ヨリ五日間生徒野外演習ノ爲原村ヘ向ケ出發

三月三十一日 備教師「ヂエー、グラハム、マーター」契約期間滿了ニ付解備

四月一日 英國人「トーマス、エールス」本日ヨリ一箇年英語學教師トシテ備入「エツチ、ヂエー、ボード」

本日ヨリ一箇年備繼

達第五十九號ヲ以テ海軍上長官士官任用進級取扱規則中改正セラル (三月三十一日附)

達第六十號ヲ以テ海軍武官考課表規則中改正セラル (三月三十一日附)

内令第六十四號ヲ以テ秘密圖書供給表中改正セラル

四月七日 本校内則中改正 (教本第二二三號ノ四認許)

授業中上官臨場ノ際ノ敬禮及教授外國人教授ニ對スル生徒ノ敬禮ニ就キ新規定及改正アリ其他略  
本年度本校生徒志願者學術試驗委員ヲ組織ス

委員 教授 全部 但シ原教授ヲ除ク

四月十一日 皇太后陛下午前二時十分崩御アラセラル

十二日ヨリ三日間廢朝仰出サル

四月十四日 本校守衛長守衛服務細則ヲ定ム

四月十七日 當分ノ内訓育提要後編生徒心得起居及容儀ノ部第十一條ヲ左ノ通り改正明日ヨリ實施セ

シム

第十一條 事業服ヲ着用スルトキハ「フランネル」襦袢ヲ着用スヘシ木綿襦袢ヲ着用セシムルハ特令ニ依ル

軍裝ヲ爲ストキハ木綿襦袢ヲ着用スヘシ但シ時候ノ寒暖ニ應シ隨意「フランネル」襦袢ヲ木綿襦袢ノ下ニ併用スルコトヲ得

四月二十三日 第四十四期生徒福原吉野本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

五月十一日 訓育提要後編生徒心得中生徒預金取扱規程ヲ改正ス 規程略

五月十八日 教本第五二九號ヲ以テ二日以上ニ涉ラサル校長ノ公務旅行ハ伺出ヲ要セス事後報告スヘキ旨達セラル

五月十九日 大喪儀參列ノ爲有馬校長出發上京二十六日歸校

達第八〇號ヲ以テ海軍々人軍屬休暇規則中改正セラル (十五日附)

五月二十三日 犬塚中佐大喪儀參列ノ爲桃山ヘ出張二十九日歸校

五月二十四日 午後十一時葬場殿御式始ノ時刻ニ於テ遙拜式ヲ行ヒ終テ 御寫眞禮拜ヲ行フ

五月三十一日 備教師「トーマス、エールス」部内限高等官六等ニ準シ取扱フヘキ旨達セラル

六月一日 射的場番人解備 (從來一人ノトコロ解備ニ付以來番人ナキコト、ナル)



六月四日 校達 本校英語學教師「エツチ、ヂエー、ボード」身分取扱ノ儀ハ特ニ自今部内限高等官六等ノ上席ニ準シ取扱ハシメラル (二年十一月二十六日大臣訓令)

右訓令ニ基ツキ左ノ通り心得ヘシ

一 諸整列ノ順位等ハ勿論本校内限ニ於テ施行スル 御寫眞拜禮順ノ如キモ本訓令ニ從フヘキモノトス

二 本件待遇ハ卒業證書授與式等ニ於ケル 拜謁ノ場合ニハ適用スルノ限ニアラス

本校英語學教師「トーマス、エールス」身分取扱ノ儀ハ自今部内限高等官六等ニ準シ取扱ハシメラル (三年五月二十九日大臣訓令)

右訓令ニ基ツキ左ノ通り心得ヘシ

一 本人ハ本訓令ノ日ヲ以テ高等官六等ニ列シタルモノトシ本校限リ日附相當ノ席次ニ班列セシム

二 右ニ就キ諸整列ノ順位等ハ勿論本校内限リニ於テ施行スル 御寫眞拜禮順ノ如キモ其ノ席次ニ從フヘキモノトス

三 本件待遇ハ卒業證書授與式等ニ於ケル 拜謁ノ場合ニハ適用スルノ限ニアラス

六月十九日 名和教育本部長來校同二十一日退校

六月二十一日 本年三月 皇太子殿下啓ノ際御手植樹ノ玉垣集會所長寄附ノ聽許ヲ得吳鎮守府トノ

間ニ授受ノ手續ヲ了ス

六月二十五日 本年度本校入校試験委員及補助員ヲ指示シ同委員事務取扱心得及身體検査委員事務取扱心得ヲ定ム

六月二十八日 亞國軍艦「プレシデント、ザルミニエント」乗組士官及少尉候補生同艦碇泊地ヨリ來校々内觀覽ノ上即日退校

達第九十二號ヲ以テ雇員傭人規則中改正セラル

六月二十九日 佃映一本校射の場及貯水池番人志願ニツキ左ノ條件ヲ以テ許可ス

一 射の場及貯水池ノ取締ニ關シテハ本校命令通り勵行スルコト

二 官ノ都合ニ依リ許可ヲ取消スコトアルヘシ

三 許可ヲ得スシテ寸尺ノ開墾及樹木ノ伐採ヲ許サス

四 附近海軍用地ノ畑地竝家屋ノ使用差支ナシ

五 報酬ヲ給セサルコト

七月十五日 明治天皇 昭憲皇太后兩陛下御寫眞人事局へ還納ノ手續ヲ了ス

七月二十三日 達第一〇三號ヲ以テ海軍武官増俸規則中改正セラル

達第一〇二號ヲ以テ海軍文官進級増俸取扱規則改正セラル



八月四日 海秘人第一五九號ヲ以テ特任文官同待遇者増俸賞與内規定メラル

同第一六〇號ヲ以テ雇員傭人辭職ノ際ニ於ケル賞與内規定メラル

八月十一日 内令第一二五號ヲ以テ佐尉官教官一名臨時増置セラル

八月十二日 達第一〇五號ヲ以テ雜役船及除籍艦艇取扱規則ヲ定メラル

内令第一二九號ヲ以テ此際准士官以上及下士卒ノ配員上一時上級者ヲ以テ次級者ノ位置ニ充ツルコトヲ得セシメラル

八月十八日 内令第一五四號ヲ以テ宗谷阿蘇ヲ練習艦ト定メ練習ノコトニ關シテハ海軍兵學校長ノ指揮ヲ受ケシメラル

八月三十日 達第一二八號ヲ以テ停年計算規則中改正セラル

九月一日 練習艦阿蘇宗谷入港

九月四日 勅令ヲ以テ高等武官補充條例進級條例海軍准士官下士任用進級條例海軍高等武官准士官服役令海軍下士卒服役條例及達號ヲ以テ准士官下士任用進級取扱規則卒進級規則中改正セラル

九月五日 達一三三號ヲ以テ停年計算規則中改正セラル

九月七日 伏見宮博義王殿下御入學ノタメ御着

教官兼監事大尉住山徳太郎着任 (殿下附)

九月八日 達第一三五號ニテ將校勤務録改メラル

教本第九三六號ニテ文官増俸進級ハ毎年二月一日及八月一日ノ所屬ニ於テ調査シ其ノ月ノ十五日迄ニ到達スル様取扱方訓令セラル

九月十日 午後一時入校式施行

入校者族籍氏名左ノ如シ

|        |     |        |     |        |     |
|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 千田 金二  | 和歌山 | 徳永 忠雄  | 廣島  | 高田 利種  | 鹿兒島 |
| 澄川 道男  | 山口  | 橘 正雄   | 石川  | 勝原 満好  | 山口  |
| 中瀬 浜   | 宮崎  | 清水 健   | 神奈川 | 松原 博   | 長崎  |
| 中村 勝平  | 富山  | 酒井原 繁松 | 山形  | 山崎 啓爾  | 高知  |
| 竹崎 馨   | 愛媛  | 山口 文次郎 | 千葉  | 横山 義雄  | 鹿兒島 |
| 平出 英夫  | 青森  | 富岡 定俊  | 長野  | 市來 政雄  | 鹿兒島 |
| 山田 乾   | 佐賀  | 宇留島 千俊 | 鹿兒島 | 三浦 速雄  | 山形  |
| 佐藤 清茂  | 鳥取  | 長久保 俊夫 | 福島  | 瀬戸山 安秀 | 鹿兒島 |
| 藤原 喜代間 | 愛媛  | 荒居 清治  | 栃木  | 松島 慶三  | 熊本  |
| 荒木 傳長  | 長崎  | 小林 常太  | 岡山  | 森下 信術  | 愛知  |



|       |     |      |     |       |     |    |
|-------|-----|------|-----|-------|-----|----|
| 眞砂幸一  | 三重  | 永江正男 | 東京  | 森     | 敬吉  | 福岡 |
| 三好恒   | 東京  | 大竹壽雄 | 栃木  | 加藤唯雄  | 長野  |    |
| 菊地朝三  | 福島  | 和田純久 | 鹿児島 | 林一雄   | 愛媛  |    |
| 遠藤實   | 長野  | 田村保郎 | 三重  | 谷口信義  | 兵庫  |    |
| 佐々木半九 | 廣島  | 松本毅  | 山形  | 美藤正一  | 香川  |    |
| 橋雄次   | 兵庫  | 吉村真武 | 福岡  | 長井滿   | 福井  |    |
| 中岡信喜  | 高知  | 山縣駿二 | 山口  | 莊司喜一郎 | 山形  |    |
| 堀内茂忠  | 山梨  | 相德一郎 | 鹿児島 | 市坪正雄  | 鹿児島 |    |
| 吉崎猪一郎 | 鹿児島 | 林彙   | 埼玉  | 淺野新平  | 茨城  |    |
| 上田光治  | 兵庫  | 土井申二 | 兵庫  | 松本一郎  | 兵庫  |    |
| 岡村徳長  | 高知  | 上原義雄 | 廣島  | 新野荒太郎 | 香川  |    |
| 北川玉一  | 大阪  | 肥後市次 | 鹿児島 | 宇都宮綱術 | 鹿児島 |    |
| 佐々木靜吾 | 廣島  | 澁谷清見 | 高知  | 重廣篤雄  | 山口  |    |
| 小川弘   | 廣島  | 本田季長 | 熊本  | 松尾實   | 佐賀  |    |
| 鳥居卓哉  | 長崎  | 北村昌幸 | 石川  | 副田久幸  | 愛知  |    |

|       |     |       |       |       |       |    |
|-------|-----|-------|-------|-------|-------|----|
| 兄弟部   | 勇次  | 山口    | 玉木留次郎 | 東京    | 佐々木健爾 | 島根 |
| 淺羽源司  | 神奈川 | 古堀明藏  | 熊本    | 松本龜太郎 | 三重    |    |
| 脇岡虎次郎 | 鹿児島 | 加賀山外雄 | 福井    | 松田尊陸  | 島根    |    |
| 森玉賀四  | 兵庫  | 神岡重雄  | 新潟    | 今里博   | 長崎    |    |
| 小島歎一  | 廣島  | 山崎來代一 | 鹿児島   | 溝口征   | 大分    |    |
| 高島三治  | 兵庫  | 秋山啓治郎 | 高知    | 岡田爲次  | 奈良    |    |
| 志和勝   | 高知  | 白土鐵男  | 宮崎    | 宗雪新之助 | 愛媛    |    |
| 佐川彦太郎 | 福岡  | 山森龜之助 | 山形    | 小西行惠  | 長野    |    |
| 有賀幸作  | 長野  |       |       |       |       |    |

九月二十五日 勅令第一九八號ヲ以テ海軍高等武官補充條例中改正セラル

勅令第一九九號ヲ以テ海軍准士官下士任用進級條例中追加セラル

九月三十日 内田教授高等官三等ニ陞級セラル

十月一日 鹽冶教授休職ヲ命セラル

十月九日 達第一四七號ヲ以テ海軍兵曹長同相當官准士官下士叙位叙勳具申手續中改正セラル

松隈健彦任海軍教授叙高等官七等賜十一級俸補海軍兵學校教官(同十八日着任)



十月六日 準備教程施行細則中改正ヲナス

十一月一日 競技優勝楯授與式施行

十一月十日 官房第三三四五號ヲ以テ初メテ海軍將校同相當官又ハ候補生ニ任用セラレタル者ハ其ノ

際制服着用ノ寫眞(半身手札形)一葉ヲ海軍省人事局長ニ送付スヘキ旨達セラレ

十一月十一日 達第一六七號ヲ以テ海軍功績調査規定ヲ定メラル

十一月十六日 海秘人第二五四號ヲ以テ囑託者報酬増額内規定メラル

十二月一日 教頭兼監事長堀内大佐教育本部一部長兼二部長軍令部參謀臨時建築部部員ニ轉任

教官兼監事増田大尉兼職ヲ免シ兼副官ニ補セラレ

其他職員多數移動アリ

十二月二日 教官兼監事犬塚中佐本校教頭兼監事長缺員中同職代理兼務ヲ命セラレ

十二月三日 官房第三五六三號ヲ以テ儀式上ニ於ケル文官ノ服装一定ノ件次官ヨリ通牒アリ

十二月十二日 西村教授依願免官(罹病)

岡田吉郎任海軍教授高等官七等十一級俸本校教官(十七日着任)

十二月十八日 生徒進級命課告達式及學術優等章授與式ヲ施行ス

學術優等章受領者

第三學年生徒

濱野

力

武節俊二郎

矢野志加三

第二學年生徒

堀内 多雄

一宮 義之

黒田 麗

第四十二期生徒

萬膳幸吉第四十三期ニ編入

第四十三期生徒

片岡義明、佐藤康夫第四十四期ニ編入

第四十四期生徒

古村啓藏第四十五期ニ編入

十二月十九日 卒業式施行 卒業生徒百十七名

御沙汰ニ依リ 博恭王殿下ヲ被差遣

侍從武官關野謙吉ヲ差遣ハサレ成績優等者二名へ短劍一口宛下賜セラレ

御物拜受者 三木 繁 二

小林 謙 五

卒業者族籍氏名

三木 繁 二 兵庫

小林 謙 五 滋賀

大西 留 吉 東京

河野 千 萬 城 山口

山田 定 義 福岡

初瀬 精 一 長崎

安場 保 雄 東京華

福元 篤 藏 鹿兒島

近藤 泰 一 郎 愛知

市岡 壽 岐阜

舛田 仁 助 山口

富畑 琢 聞 奈良

辻村 武 久 静岡

伊藤 義 一 三重

辻 正 保 山梨

大正三年







本多 讓 石川華 松野俊郎 山口 齋藤直幹 東京

美濃部貞功 福島 伊藤尉太郎 廣島 中島新太郎 鳥取

河西虎三 山梨 小澤三良 福島 前田芳雄 熊本

二步三千秋 山口 島津信夫 兵庫 三上 武 東京

十二月三十一日 第二學年生徒中川精植本校條例第二十二條第一項ニ依リ生徒ヲ免ス

第一學年豫科生徒秋山啓次郎本校條例第二十二條第四項ニ依リ生徒ヲ免ス

十二月三十一日 本校現在職員氏名

校長 中將 有馬良橘 副官少佐 廣澤 恒

教頭兼 監事長 缺 員 兼同 大尉 増田乙三郎

教官兼 監事 中佐 犬塚太郎 中佐 迎 邦一

教頭兼 代理 少佐 左近司政三 少佐 島 祐吉

同 常磐盛衛 同 林 清二

同 砥川三郎 同 土方鎮雄

同 岩澤安五郎 同 小栗信一

少佐 小森吉助

同 志村 實

大尉 小早川隆次

兼副官 同 増田乙三郎

同 福島貫三

同 中村龜三郎

同 羽仁六郎

同 松山爲麿

教 官 同

機關中佐 關 重光

同 大尉 伊藤辰雄

同 澤田倉三

同 保坂丑太郎

同 內田雄太郎

同 堀 英四郎

少佐 松崎 直

大尉 濱田豐太郎

同 小林省三郎

同 松枝秀夫

同 清家岳三郎

同 原 敬太郎

同 住山德太郎

同

機關少佐 鈴木 清

同 大尉 鹽谷信武

同 大技士 鈴木格司

同 教授 早川金之助

同 田中西熊

同 細川源三郎

大正三年



|        |               |        |             |
|--------|---------------|--------|-------------|
| 同      | 登石善二          | 同      | 山本他家松       |
| 同      | 内藤信夫          | 同      | 川井田藤助       |
| 同      | 野滿隆治          | 同      | 梅谷興一        |
| 同      | 岩佐重一          | 同      | 原廣          |
| 同      | 松隈健彦          | 同      | 岡田吉郎        |
| 軍醫長兼教官 | 軍醫大監 梶原景清     | 附兼教官   | 軍醫少監 藤岡新    |
| 大軍醫    | 田中貞一          | 大軍醫    | 上田春治郎       |
| 主計長    | 主計少監 上田範治     | 附兼教官   | 大主計 喜田忠     |
| 雇教師    | 「エツチ、ヂエー、バード」 |        | 「トーマス、エールス」 |
| 教員     |               |        |             |
| 兵曹長    | 田中盛綱          | 上等兵曹   | 三瀬村太郎       |
| 上等兵曹   | 笠原寅吉          | 上等兵曹   | 井筒金藏        |
| 機關兵曹長  | 中村梅太郎         | 上等機關兵曹 | 大庭傳作        |
| 囑託教員   |               |        |             |
| 劍術     | 寺島留五郎         | 柔道     | 鈴木利作        |
| 柔道     | 藤村正三          | 同      | 江角健吉        |
| 囑託     |               |        |             |
| 理科學助手  | 長井照二          | 齒科醫    | 三宅寛平        |
| 本校附    |               |        |             |
| 上等筆記   | 大谷蕃           | 書記     | 森脇熊次郎       |
| 書記     | 大久保友市         | 同      | 仁戸田亥八郎      |
| 技手     | 原田政吉          | 同      | 福中松太郎       |

十二月三十一日 生徒總數 二百九十五名

第三學年 (第四十三期) 九十七名  
 第二學年 (第四十四期) 九十八名  
 第一學年 (第四十五期) 百 名



大正四年

一月四日 本校生徒百三十名召集セラル 出願期日三月二十五日ヨリ五月十五日迄

試験場所 前年ニ同シク九箇所、試験規格並ニ書式等前年ニ同シ

一月十日 始業式トシテ 勅諭奉讀終テ觀兵式ヲ施行ス

午後一時ヨリ劍術柔道上級者仕合體操終テ總短艇橈漕ヲ行ハシム

一月十四日 本日ヨリ寢臺ノ側板ヲ使用セシム

一月十五日 内令第十一號ヲ以テ學校ニ於テ教授スヘキ軍機兵器ノ種類及其ノ程度ヲ改メラル

一 海軍兵學校生徒 但シ(二)及(一)ハ第三學年ノ末期ニ教授スルモノトス

(イ) 伊集院信管ノ性能大意、取扱法

(ロ) 三年式一號信管ノ性能大意、取扱法

(ハ) 下瀬火藥ノ用途、性能大意、取扱保存法

(ニ) 甲種機械水雷並其ノ附屬具ノ構造及機能ノ大要

(ホ) 單術所視察弧器ノ構造使用法及調整法ノ大要

(ヘ) 網切器ノ構造及機能ノ大要

一月二十一日 (校達) 訓育提要後編競技褒賞授與式中改正ス

大正四年



一月二十二日 (校達) 本校教務規定中左ノ要領ヲ改正ス

教程科目表、教程實施及試験點數表、日課時間表、週課表等ヲ改ム又別科施行ニ當リテハ教練作業ノ種類ニ應シ分隊本位ヲ以テシ又學年ヲ聯合シテ行フモノハ之ヲ訓育別科トシ學年別ニ行フモノハ之ヲ教務別科ト定メラル

二月十三日 皇室令第一號ヲ以テ宮中席次令公布セラル

二月十八日 教本一四一號ノ二ヲ以テ山階宮武彥王殿下本年九月ヨリ本校へ入學御修業遊ハサル旨傳達セラル

二月二十二日 教本機密第六五號ノ二ヲ以テ陸海軍諸學校へ御入學セララルル 皇族殿下ノ御身分取扱ノ件傳達セラル

海軍大佐正木義太本校教頭兼監事長ニ補セラル (三月四日着任)

三月十九日 達第四一號ヲ以テ海軍兵學校規則中改正セラル (修學年限三年四箇月トナル、品行善良章廢止等)

三月二十二日 教本第二七八號ノ二ヲ以テ學術及品行善良章所持ノ分ハ繼續所有セシムヘキ旨訓令セラル

三月二十五日 加藤教育本部長視察ノ爲來校翌二十六日出發

三月三十一日 英語學教師「エツチ、ザエー、バード」契約期限滿了ニツキ解僱

四月一日 英語學教師「トーマス、エールス」本日ヨリ向フ一年間備繼

英國人「ハーバート、ベルス」ヲ英語學教師トシテ本日ヨリ一箇年備入

四月六日 本日ヨリ五日間原村ニ於テ野外演習ヲ行フ

四月九日 休職鹽冶教授依願免官

四月十二日 (校達) 爾今見學視察等ニ關スル報告左ノ通定ム

一 見學其ノ他出張ヲ命セラレタルトキハ先ツ校長ニ出頭シ之ニ關スル所要事項ニ就キ命ヲ受クヘ

二 見學視察等ヲ終リテ歸校シタルトキハ直ニ其ノ概要ヲ校長ニ復命シ且可成速ニ報告ヲ提出スヘ

四月二十九日 爾今生徒ニ對スル一切ノ送金ハ郵便振替貯金法ニヨルコトト定ム

四月三十日 體操實習ノ爲下士三名ヲ陸軍戶山學校へ派遣ス(五月二十一日歸校) 關中遊

五月一日 體操實習ノ爲教官小森少佐ヲ陸軍戶山學校へ派遣ス(同十九日歸校)

五月三日 勅諭採修正委員ヲ左ノ通ヲ指定ス 田中 雄 野 健 益 修 賢

委員長 (主席) 正 木 太 佐 (五月十四日拜會同月四日歸出)



委員(主査) 菅沼中佐 (九月十四日任命同月四日轉出)

島少佐 田中教授 岩佐教授

原教授

評議員 梶原軍醫大監 保坂教授 關 機關中佐

廣澤少佐 上田主計少監

五月十三日 教本第四六九號ノ二ヲ以テ本年度ヨリ夏季休暇ヲ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ニ短縮ノ件認許セラル

(按) 規定ハ九月十日マテナリ

六月三日 陸軍教育總監部本部長陸軍中將栗田直八郎來校

七月十九日 內令第二一〇號ヲ以テ本校定員中佐尉宮教官一名臨時増置セラル(殿下附)

七月二十一日 左ノ通り休暇ヲ許可ス

自七月二十一日至八月三十一日 生徒

自七月二十一日至八月三十一日 判任官以上二十日以内雇員二週間傭人一週間

自七月二十一日至八月二十日 下士卒各自十五日間

八月九日 內令第二一八號ヲ以テ本校定員中少佐大尉教官兼監事一人ヲ臨時増置セラル

八月十五日 內令第二二一號ヲ以テ警手吾妻ヲ練習艦ト定メ練習ノコトニ關シテハ海軍兵學校長ノ指揮ヲ受ケシメラル

八月二十三日 大尉相良達夫本校教官ニ補セラル (九月三日着任)

(按) 武彦王殿下御入學ニ就テ殿下附武官トシテ配セラレタルナリ

九月一日 練習艦警手吾妻ノ役務ヲ解カレ練習艦隊ニ編入セラル (內令第二二八號)

官房機密第一〇五七號ノ二大臣ヨリ練習艦隊司令官へ訓令、貴官ハ海軍兵學校長ノ協議ニ應ジ其ノ麾下各艦ニ於テ同校生徒ノ練習ヲ爲サシムヘシ

九月四日 山階宮武彦王殿下御入校遊ハサル

入校式施行左記百三十一名へ生徒ヲ命ス (内一名ハ入校後生徒ヲ免シ一名補缺入校)

入校生徒族籍氏名

武彦王

山本親雄 愛媛 勝田治夫 島根 梅谷 薰 埼玉

溝口康人 大分 澤 勇夫 北海道 柳澤藏之助 長野

名取顯喜 山梨 猪口敏平 鳥取 浦 孝一 石川

桑原重遠 熊本 山田文雄 東京 則滿 幸次 東京

大正四年



前田 精 鹿兒島 竹内 馨 鳥取 横井 俊之 愛知  
 野口 照隆 鹿兒島 寺崎 慶二 福井 久米 幾次 兵庫  
 内田 敏穂 熊本 金丸 清忠 佐賀 吉川 唯喜 高知  
 新宮 林吉 島根 森田 山樂 高知 濱本 光雄 鳥取  
 新島 信夫 東京 石田 主計 山口 香川 清登 廣島  
 高崎 正光 東京華 吉田 義行 福井 石原 繁 鹿兒島  
 河野 直二 鹿兒島 馬場 篤齋 鹿兒島 佐野 敬之 長崎  
 寺岡 正雄 岡山 安部 龜 大分 高尾 儀六 佐賀  
 出石 寛二 鳥取 坂田 義人 鳥取 宮崎 重敏 高知  
 佐土原 親光 鹿兒島 川村 真一 茨城 貝塚 武男 千葉  
 藤松 達次 佐賀 平林 隆樹 長野 後藤 光太郎 愛知  
 杉野 修一 三重 齋藤 泰藏 鹿兒島 近藤 三郎 東京  
 中山 哲夫 兵庫 吉富 利夫 山口 山田 雄二 福岡  
 大家 吾一 大分 野村 留吉 山口 小山 猛男 鹿兒島  
 石畑 四郎 廣島 倉永 恒記 長崎 川崎 進 岡山

田口 廣成 熊本 小西 成三 廣島 後藤 博夫 愛知  
 山本 岩多 群馬 山根 吉藏 鳥取 星 一男 福島  
 本多 厚 石川 華 鶴飼 憲 兵庫 馬場 良文 愛媛  
 加藤 榮吉 宮城 藤牧 美徳 栃木 川崎 晴實 高知  
 深谷 惣吉 茨城 石原 聿 廣島 溝島 定一 京都  
 川井 繁藏 神奈川 山口 三郎 福岡 山賀 守治 新潟  
 小田 操 鹿兒島 山川 幾藏 新潟 高柳 智 長野  
 宮崎 保人 福岡 田村 久三 栃木 山口 拾次 東京  
 和田 三郎 山形 高田 榮 熊本 古田 良夫 廣島  
 藤岡 敏三郎 富山 片山 謙治 宮城 梶原 季義 鹿兒島  
 鈴木 光信 東京 水口 兵衛 静岡 太田 秋藏 宮崎  
 大橋 富士郎 新潟 内藤 啓一 兵庫 岩上 英壽 栃木  
 小川 莚喜 高知 續木 禎弢 愛媛 加藤 八郎 山形  
 宮崎 武治 鳥取 岡崎 文勳 大阪 片山 司吾 六 廣島  
 西岡 左運 佐賀 安田 義達 廣島 井土 益三 京都



藤田友造 廣島 宮島利助 熊本 前田 直 東京  
 池田正隆 熊本 小林 正山 山口 杉浦嘉十 愛知  
 寺西武千代 石川 菅原正雄 兵庫 杉本 豊長崎  
 三木高秀 高知 高井隆一 大分 海東啓六 茨城  
 寺田彌三郎 京都 泊 滿義 鹿兒島 田中廣光 福岡  
 近藤勝治 廣島 山口米藏 福岡 遠藤敬勇 愛知  
 龜井凱夫 東京 藤谷安宅 山口 重久親志 宮崎  
 矢收 章 愛知 篠田武助 山形 小別當惣三 千葉  
 本田甚次郎 宮城 八重柏 徹巖手 阿部俊雄 愛媛  
 山本 榮 福岡 平井昌平 山梨(補缺トシテ十八日入校)

九月七日 大講堂内部設備委員左ノ通り指定ス  
 菅沼中佐 關 機關中佐 上田主計少監 保坂教授 廣澤少佐  
 九月十日 内令第二三四號ヲ以テ練習艦隊ノ行動區域ヲ當分ノ内第二海軍區ト定メラル  
 九月十一日 達第一一八號ヲ以テ海軍下士卒定員補充交代規則中改正セラル  
 (本校下士教員定員ノ六割ハ他鎮守府ヨリ補充ノコト、ナル)

九月十五日 第四十六期生徒池田正隆本校條例第二十二條第一項ニ依リ生徒ヲ免ス

九月三十日 官房第二七二九號ノニヲ以テ本校職員生徒京都ニ於テ鹵簿奉迎ノ件認許セラル

十月三日 豫科生徒練習艦隊ヘ分乘

十月十三日 天皇陛下御寫眞奉戴

官房機密第一二四八號ヲ以テ練習艦隊ニ於テ生徒ノ練習ヲナシムル間必要ニ依リ司令官ト協議シ  
 部下職員ヲ乗組マシムルコトヲ得ル旨訓令セラル

十月三十一日 楯授與式ヲ行フ

十一月一日 京都ニ於テ鹵簿奉迎ノ爲生徒ノ輸送ヲ開始ス發着左ノ如シ  
 一日 第三學年出發 用船本校附屬二河川丸

五日 第一、二學年出發 同

九日 第一、三學年歸校 同

十三日 第二學年歸校 同

十一月八日 校長御大禮ヘ參列ノ爲京都ヘ向ケ出發同十九日歸校

十一月十六日 集會所ニ於テ判任官二等以上ヘ褒儀ヲ賜ハル

十一月十八日 原田技手休職ヲ命セラル 分限令第十一條第四號(十七日附)



十二月十日 第四十三期生徒近藤次郎本校條例第二十二條第三號ニ依リ生徒ヲ免ス

十二月十三日 本日附職員中多數進級及轉補者アリ

十二月十五日 皇太子殿下御寫眞奉戴

第四十四期第四十五期生徒進級及命課告達式並優等章授與式ヲ施行ス

第四十四期生徒岡井藤志郎ハ本校條例第二十二條第三號ニヨリ第四十四期生徒片岡義明及第四十五

期生徒宇都宮綱衛ハ二十二條第四號ニヨリ共ニ生徒ヲ免ス

第四十四期生徒元吉貞朝第四十五期ニ編入、第四十五期生徒高田利種、美藤正一、堀内茂忠ノ三名ハ

共ニ第四十六期ニ編入ス

學術優等章授與セラレタル者左ノ如シ

第四十四期 一宮義之 西田正雄 黒田 麗

渡 慶讓 福田 勇

第四十五期 中村勝平 千田金二 長久保俊夫

德永忠雄 遠藤 實 澄川道男

十二月十六日 第四十三期生徒卒業式ヲ施行ス

御沙汰ニ依リ 依仁親王殿下御臨場

侍從武官松村純一ヲ被差遣優等卒業者左ノ四名ハ短剣一口宛下賜セラル

御物拜授者 濱野 力 堀内多雄 武節俊二郎 矢野志加三

卒業者族籍氏名

|        |    |       |     |       |     |
|--------|----|-------|-----|-------|-----|
| 濱野 力   | 富山 | 堀内多雄  | 香川  | 武節俊二郎 | 東京  |
| 矢野志加三  | 愛媛 | 横井忠雄  | 大分  | 花田行武  | 鹿兒島 |
| 安藤榮城   | 岡山 | 石井敬之  | 千葉  | 武田貫重  | 廣島  |
| 小畑長左衛門 | 大阪 | 鳥越新一  | 鹿兒島 | 矢野英雄  | 香川  |
| 岩淵三次   | 新潟 | 有馬修一  | 鹿兒島 | 橋本象造  | 和歌山 |
| 上阪香苗   | 滋賀 | 江口 誠  | 福岡  | 阿部真一  | 愛媛  |
| 中澤 佑   | 長野 | 横川市平  | 岡山  | 小島齊志  | 愛媛  |
| 大林末雄   | 愛知 | 木下三雄  | 熊本  | 土井直治  | 兵庫  |
| 武田 勇   | 兵庫 | 柴崎惠次  | 兵庫  | 松崎 彰  | 宮崎  |
| 高木惣吉   | 熊本 | 田原吉興  | 東京  | 渡邊 武  | 山口  |
| 田部 明   | 廣島 | 蒲瀬和足  | 福岡  | 有馬正文  | 鹿兒島 |
| 南 暉吉   | 東京 | 堀江義一郎 | 東京  | 小原義雄  | 鹿兒島 |



|       |     |       |      |       |     |
|-------|-----|-------|------|-------|-----|
| 鈴木初三  | 群馬  | 古川    | 保鹿兒島 | 山形政二  | 鳥取  |
| 黒木剛一  | 宮崎  | 三好輝彦  | 大分   | 田中菊松  | 新潟  |
| 鶴岡信道  | 東京  | 清水正心  | 三重   | 西川清五郎 | 和歌山 |
| 松本篤   | 山形  | 舟木重利  | 石川   | 龍岡長久  | 宮崎  |
| 佐藤四郎  | 福島  | 渡邊尙造  | 三重   | 磯部淳   | 奈良  |
| 高池脩三  | 兵庫  | 大倉留三郎 | 奈良   | 中島千尋  | 北海道 |
| 小野虎太郎 | 香川  | 岡憲一   | 廣島   | 松尾銀藏  | 神奈川 |
| 松下武雄  | 鹿兒島 | 林清亮   | 石川   | 伊澤石之介 | 新潟  |
| 岩本常吉  | 石川  | 益田康彦  | 福岡   | 近藤脩三  | 愛媛  |
| 小倉真二  | 山口  | 齋藤正雄  | 山形   | 富永昌三  | 長崎  |
| 坂本三郎  | 東京  | 篠田清彦  | 東京   | 關郁乎   | 東京  |
| 星埜才二  | 廣島  | 山内秀夫  | 兵庫   | 平井泰次  | 静岡  |
| 秦知行   | 大分  | 藤村白鷹  | 東京   | 万膳幸吉  | 鹿兒島 |
| 末廣由巳  | 福岡  | 吉田喜一  | 佐賀   | 小田爲清  | 鹿兒島 |
| 成田茂一  | 青森  | 能美實   | 鳥根   | 澁谷正巳  | 佐賀  |

十二月三十一日 現在職員左ノ通り

|       |     |       |      |         |    |
|-------|-----|-------|------|---------|----|
| 柴山直矢  | 東京華 | 内田亮之輔 | 岡山   | 小田切義作   | 山梨 |
| 佐藤寅治郎 | 山形  | 高橋 栗  | 宮城   | 加藤尙雄    | 東京 |
| 鎌田正一  | 石川  | 吉見信一  | 長崎   | 伊藤良秋    | 廣島 |
| 宇佐 騰  | 福岡  | 伊集院松治 | 東京華  | 國枝勝亞    | 東京 |
| 古谷啓次  | 静岡  | 加藤文太郎 | 三重   |         |    |
| 校長    | 中 將 | 有馬良橘  | 副官少  | 佐 坪田小猿  |    |
| 教頭兼   | 大 佐 | 正木義太  | 兼副官大 | 尉 原 敬太郎 |    |
| 監事長   | 大 佐 |       |      |         |    |
| 教官兼   | 監事  |       |      |         |    |

運用術

|     |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|
| 中 佐 | 菅沼周次郎 | 少 佐   | 砥川三郎  |
| 少 佐 | 土方鎮雄  | 同     | 岩澤安五郎 |
| 同   | 志村 實  | 大 尉   | 磯部三男吉 |
| 大 尉 | 高橋善四郎 | 造船大技士 | 鈴木格司  |

航海術

大正四年



中佐 迎 邦一  
少佐 松枝 秀夫  
大尉 井上 肇治  
少佐 南部道二郎  
同 福島 貫三  
大尉 小野 彌一

水雷術  
中佐 坂元 貞二  
少佐 亥角 喜藏  
少佐 小栗 信一  
同 小早川 隆次

砲術  
同 濱田 豊太郎  
大尉 吉岡 清  
同 小森 吉助

同 島 祐吉  
同 大谷 喜四郎  
大尉 清家 岳三郎  
同 原 敬太郎

大尉 相良 達夫  
同 羽仁 六郎  
同 松山 爲麿

大尉 澤田 倉三  
同 大尉 松山 爲麿

機關中佐 關 重光  
同少佐 鹽谷 信武  
同大尉 澤田 倉三

普通學  
教授 保坂 丑太郎  
同 內田 雄太郎  
同 登石 善二

同 內藤 信夫  
同 野滿 隆治  
同 岩佐 重一

同 松隈 健彦  
同 小林 賢藏

同 小林 賢藏

大正四年

四七七

「ハーバート、ベルス」

附兼教官 軍醫少監 草野 直夫  
大軍醫 松田 繁次郎

「トーマス、エールス」

軍醫大監 美濃部 綠治  
大軍醫 向山 美弘

雇教師  
兼教官 兼教官



主計長 兼教官 主計少監 上田 範治 附 大主計 清水 敬一

兵曹長 片上 市藏 同 三瀬村 太郎

機關兵曹長 中村 梅太郎 上等兵曹 中野 治太郎

上等機關兵曹 立野 唯祐 上等兵曹 森光 島吉

本校 附

上等筆記 大谷 蕃 書記 森脇 熊次郎

書記 大久保 友市 同 仁戶田 亥八郎

囑託教員 技手 福中 松太郎 技手 片山 萬藏

劍術 猿田 東之助 同 守口 福三郎

同 寺島 留五郎 柔道 鈴木 利作

柔道 藤村 正三 同 江角 健吉

理化學教授助手 長井 照二

十二月三十一日 生徒總數 三百二十七名

第三學年生徒 (第四十四期) 九十六名

第二學年生徒 (第四十五期) 九十八名

第一學年生徒 (第四十六期) 百三十三名



大正五年

一月四日 生徒百三十名召募ス



出願期日 四月一日ヨリ五月十五日迄

試験箇所 左ノ十三ヶ所トス

青森、仙臺、東京、長野、名古屋、金澤、京都、高知、鳥取、廣島、福岡、熊本、鹿児島

試験規格及書式等前年ニ同シ

一月十日 始業式トシテ 勅諭奉讀、觀兵式、柔道、擊劍仕合終テ總短艇漕漕施行

一月十八日 猿田劍術教員依願解囑金百四十一圓ヲ賞與セラレ

二月一日 教本第九〇號ヲ以テ本校生徒修業期變更本年度ヨリ實施ノ旨訓令セラレ其結果卒業期ハ十一月下旬トナル

二月十二日 訓育提要中改正ス

三月一日 三谷復太郎ヲ劍術教員ニ囑託報酬月額四十二圓部内限判任待遇

本校生徒懲戒規則中改正ス (品行點ノ件)

三月二十二日 第四十四期生徒飯盛善美本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

三月廿四日 教務規程中改正ス

大正五年



三月廿九日 雇員備人使役内規第一表中定員及配員筆生九ヲ十ニ教務部ノ二ヲ三ニ改正ス  
 四月十五日 教科書及參考書編纂規程中改正ス  
 四月二十四日 第四十六期生徒美藤正一本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス  
 四月二十九日 羽仁大尉外下士三名體操實習ノ爲陸軍戸山學校ヘ派遣ス  
 生徒教授部編制法及教授並試驗法内規左ノ通定ム (四月十二日校達)

第四十六期以降生徒教授部編制法及教授並試驗法内規 (大正五年二月)

一 總 則

第一條 本教授部編制ノ趣旨トスル所ハ生徒ノ學力ニ應シ自然ノ進歩ヲ促シ優良者ヲシテ他ヨリ障  
 碍ヲ受クルコトナクシテ其天賦ヲ發揚セシメ又智識ノ開發遲緩ナルモノハ堅牢ナル根柢ヲ作リ漸  
 次其歩ヲ進メテ有終ノ結實ヲ得セシムルニアリ

第二條 生徒ノ席次ハ第一學年ニアリテハ入校席次ニヨリ第二、第三學年ニアリテハ各其前學年ニ  
 於テ得タル綜合成績ノ順序ニ依ル該席次ハ一學年間變更スルコトナシ

二 教授部編制

第三條 第一學年豫科ニアリテハ入校試驗成績順序ニ從ヒ首席ヨリ第四番迄ヲ順次第一、二、三、  
 四部トシテ各其部長ニ命シ五番以下ハ四名毎ニ循環シテ順次各部ニ編入ス

第四條 第一學年第一學期ニアリテハ豫科教授部ニ同シ

第一、第二學年第二、第三學期ニアリテハ各其前學期成績ニヨリ第二學年第一學期ハ前學年成績  
 ニヨリ理科文科各別ノ成績順序ニ從ヒ約四分順次第一、二、三、四部ノ名稱ヲ與ヘ文科ニア  
 リテハ部ノ上ニ文科ナル特稱ヲ附シ文科第何部ト稱ス

第五條 第三學年ニアリテハ第二學年綜合成績中文科成績ニヨリ前項ノ如ク第一學期教授部ヲ定メ

第二、第三學期ニアリテハ各第一、第二學期ノ文科成績ニヨリ教授部ヲ變更ス

第三學年ハ文科ノ特稱ヲ與ヘス單ニ第何部ト稱ス

第六條 兵科ノ教授ハ第一、第二學年ニアリテハ理科ト共通トシ第三學年ニアリテハ文科ト共通ト  
 ス

第七條 兵科文科共各部内ニ於ケル序列ハ席次順トシ兵科各部首席者ニ部長ヲ命ス第一、第二學年  
 文科各部ノ首席者ハ部長ニ準シ關係事項ヲ處置スルモノトス

第八條 教授部ハ各大小試驗毎ニ編制換ヲ行フト雖分隊編制ハ學年ノ綜合成績ニヨリ之ヲ定メ一學  
 年間變更スルコトナシ

三 教 授

第九條 兵科ハ劃一教育ヲ施ス



第十條 普通學ハ各教授部同一教科書ニヨリテ教授シ其進度ハ第四部ヲ基準トス即チ各學期ノ初ニ於テハ各部共同一個所ヨリ始メ其學期中ニ於テハ第四部豫定到達箇所ニ止メ第三部以上ノ各部ハ教授時間ニ餘裕ヲ生セハ適宜ニ應用若クハ一層高等ナル教授ヲ行フモノトス

四 試 驗

第十一條 普通學大小試驗ニハ第四部ヲ基準トスル問題約四分ノ三及其學年生徒全般ノ實力ヲ衡定スル問題約四分ノ一ヲ課題シ各部同一問題ニ就キ檢定ス

五月二十日 官房機密第六九〇號ヲ以テ本校兵器簿航海長主管雜役船加除豫定ノ件訓令セララル

五月二十三日 第四十五期生徒元吉貞朔本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

六月十二日 午後五時四十五分 天皇陛下御寫眞ヲ奉迎ス(吳迄運送船勞山吳ヨリ小野大尉奉持)

六月二十九日 本校防火部署改正ス

七月十三日 官房第二二四〇號ヲ以テ生徒消耗兵器年額表中改正セララル

七月十七日 內令第一五八號ヲ以テ海軍定員令別表改正セララル

(右改正ニ依リ本校武官教官五人下士十四人卒三十人増加ス)

內令第一六一號ヲ以テ特修兵教員配置規則ヲ定メラル(本校特修兵十九名教員十名増加セララル)

七月十九日 本校教務規程中準備教程施行細則ヲ左ノ通り改正ス

準備教程施行細則

第一章 總 則

第一條 本則ハ教務規程ニ基キ準備教程實施中本校職員及練習艦々長ノ憑據スヘキ事項ヲ規定ス

練習艦隊所屬軍艦ニ於テ準備教程ヲ施行スル場合ニアリテハ練習艦教育ニ關シテハ海軍大臣ノ訓令ニ基キ當該司令官ト協議ノ上別ニ之ヲ定ムルモノトス

第二條 準備教程ハ新生徒ニ對シ軍人精神及軍紀ノ大綱ヲ誨ヘ且海軍ニ關スル概括的智識ヲ授ケ以テ基本教程ニ入ルノ素地ヲ作ラシムルヲ目的トナス

第三條 準備教程ハ毎年八月ヨリ同年十一月ニ至ル四ヶ月間ニ於テ次ノ三期ニ分チ實施ス

前期陸上教育 自八月下旬至九月下旬

練習艦教育 自九月下旬至十月下旬

後期陸上教育 自十月下旬至十一月下旬 (又ハ自十月初旬至十月下旬)

第二章 前期陸上教育

第四條 前期陸上教育ニ於テハ非紀律的習慣ヲ矯正シ思想ヲ統一シテ練習艦乘艦ニ差支ナキ程度ニ達セシムル爲メ主トシテ訓育ヲ勵行シ且嚴肅ナル校風ニ馴致セシムルヲ主眼トス

第五條 新生徒入校セハ教務規程第二編第一章第三條及第三章第二十七條ニ準シ適宜之ヲ區分シ教



授並ニ訓育ヲ實施ス

第六條 新生徒ノ教育ハ校長ノ命ヲ受ケ教頭之ヲ統轄ス

訓育ハ監事長之ヲ擔任シ其ノ實施ニ關シテハ分隊内ノ訓育ニ在リテハ當該分隊監事其ノ他ノ訓育ニ在リテハ豫科生徒指導官各監事長ノ命ヲ受ケ之ニ當ルモノトス

第三章 練習艦教育

第七條 練習艦教育ニ於テハ艦内軍務ノ實況軍艦戰鬥力ノ諸要素海上生活ノ艱苦等ヲ了解セシメ以テ基本教程ニ進移スルニ當リ興味ヲ喚起シ其理解力ヲ容易ナラシムルト同時ニ海軍々人ハ特ニ身體強健ナラサレハ其ノ任務ヲ遂行スル能ハサルコトヲ自覺セシムルヲ主眼トス

第八條 練習艦ノ艦長ハ本則總則ノ旨趣ニ據リ生徒乗艦中ノ教育ノ責ニ任ス

第九條 練習艦ノ艦長ハ準備教程學曆及教程科目表ニ依リ教授ニ連絡スヘキ作業及行動豫定ヲ作製シ校長ノ承認ヲ承ケ實施スヘシ

第十條 練習艦ノ艦長ハ生徒退艦ノ直前乘艦中ノ教程ニ就キ檢定試験ヲ行ヒ其ノ成績、教務規程第五十七條ノ考課表及教育實施ノ詳報ヲ校長ニ提出スヘシ

第四章 後期陸上教育

第十一條 後期陸上教育ハ前期陸上教育及基本教程ニ準シ施行ス

第五章 檢定試験

第十二條 檢定試験ハ兵學及試問トシ兵學ハ練習艦ニ於テ試問ハ後期陸上教育中本校ニ於テ施行ス而シテ學術品性及體質ニ於テ將校生徒タルニ適セスト認ムルモノアルトキハ之ヲ校務會議ニ附シ處分ス

檢定試験科目及試験點數表

| 試驗科目 | 全點  | 試驗施行期   | 備考  |
|------|-----|---------|---|
| 砲術   | 五〇  | 後期陸上教育中 | 一、試問ハ訓育提要軍人精神及各兵學科ノ緊要事項ニ付各科首席教官及指導官ヲ會同シ主任指導官之ヲ行フ<br>二、試問々々題ハ主任指導官調製シ監事長教頭審査ノ上校長之ヲ定ム   |
| 水雷術  | 五〇  |         |   |
| 運雷術  | 五〇  | 艦上教育終期  | 一、教習見學ノ事項ニ付各自習得ノ度及技倆ヲ檢定ス<br>二、試驗問題ハ各科目ノ教育擔任者之ヲ調製シ艦長之ヲ定ム<br>三、試驗點數ハ其ノ五分ノ一以内ヲ平常點トスルコトヲ得 |
| 航海術  | 五〇  |         |   |
| 合計   | 四〇〇 |         | 成績決定ハ教務規程第二編第六章ノ規程ニ依ル   |



第六章 學曆、教程科目表

第十三條 準備教程學曆ハ附表第一ニ準シ毎年五月三十一日迄ニ教頭之ヲ調製シ校長ニ提出ス  
第十四條 準備教程科目表ハ教務規程第一表ノ二ニ依ル

| 教程科目表        |   | 準備教程(前期陸上教育) 基準日數 二五日 |     |
|--------------|---|-----------------------|-----|
| 網要科目         | 項目  | 節                     | 目   |
| 精神教育         | 勅諭奉讀並行義、講話、國體、軍人ノ本分、戰鬪、軍人精神、軍紀、將校ノ權能及責任、生徒守訓、軍艦旗制定ノ由來並權威                    | 一三ノ外                  |     |
|              |   | 日曜祭日                  |     |
| 教諸法規         | 海軍々制一般、海軍指揮系統、軍令及軍令ノ承行、將校ノ分限、軍人ノ階級、軍機保護ノ概要、海陸軍服制、勳章徽章、祝祭日及戰役記念日、兵學校沿革、海軍禮式令 | 其他温習時間中適當ノ時           |     |
|              |   | 一〇八                   |     |
| 授            | 砲術 隊各個教練、各個並軍隊ノ敬禮   | 四二                    |     |
|              |   | 艇名稱、燒艇運用法             |     |
| 英語應用讀方、會話、書取 | 英語基本譯讀、附譯文練習、文法作文   | 三七                    |     |
|              |   | 二二                    |     |
| 體育科          | 教練及體育敬禮法實習、手旗信號、體操、游泳、柔道、劍術   | 適當ノ時                  |     |
|              |   | 小計                    | 合計  |
|              |   | 二二                    | 一〇八 |

準備教程(練習艦教育) 基準日數 二三日

| 網要科目 | 項目                                 | 節  | 目  |
|------|------------------------------------|--|----|
| 精神教育 | 勅諭奉讀並行義、講話、其他艦團隊教育規則ニ準ス            | 日曜祭日其他適當ノ時                                 |    |
|      |                                    | 適當ノ時                                       |    |
| 教    | 海軍一般要、軍艦職員勤務令概要、海軍禮式令(艦内ノ敬禮、軍艦ノ敬禮) | 八  |    |
|      |                                    | 砲術 砲攻撃力防禦力概念、裝備砲煩彈藥ノ概念、砲戰概念                |    |
| 授    | 水雷 砲攻撃力防禦力概念、裝備兵器概念、水雷戰概念          | 八  |    |
|      |                                    | 運用 艦内勤務、短艇實業、船體各部及屬具ノ名稱、軍艦構造及艦裝ノ概要、其他運用術一般 |    |
| 實習見學 | 航海術 海上ノ諸現象講話、水路計器、水路圖誌ノ概要、旗章及信號器具  | 八  |    |
|      |                                    | 機關術 軍艦機械及罐(實物説明)運轉其他重要ナル機關ノ見學              |    |
| 體育科  | 教練及體育 銃隊教練、手旗信號、登橋、體操、劍術、柔道、短艇燒漕   | 適當ノ時                                       |    |
|      |                                    | 小計   | 合計 |
|      |                                    | 八  | 六〇 |



準備教程(後期陸上教育)基準日數 一五日

| 網要科目  | 項目                          | 節                   | 目  |    |
|-------|-----------------------------|---------------------|----|----|
|       |                             |                     | 小計 | 合計 |
| 精神教育  | 教育規程提要ニヨリ古參生徒ト同シ            | 砲術                  | 一四 | 二〇 |
|       |                             | 小銃射擊                | 六  |    |
|       |                             | 小銃射擊                | 六  |    |
|       |                             | 短艇運用法               | 六  |    |
|       |                             | 船體構造及具              | 四  |    |
|       |                             | 船體構造、船體各部及屬具ノ名稱     | 四  |    |
|       |                             | 學機械的思想養成上必要ナル圖學大要   | 四  |    |
|       |                             | 外國英語基本譯讀、附譯文練習、文法作文 | 八  |    |
|       |                             | 英語應用讀方、會話、書取        | 八  |    |
|       |                             | 代數對數(ヴェリエーション)      | 三  |    |
| 授     | 數學                          | 三角法、平面、弧度法並三角函數ノ定義  | 三  | 九  |
|       | 物理                          | 熱                   | 三  |    |
|       | 力學                          | 運動學                 | 三  |    |
|       | 化學                          | 基礎本ノ定律              | 三  |    |
| 訓練及體育 | 銃隊教練、手旗信號、體操、柔道、劍術、短艇橈漕、術   | 基礎本ノ定律              | 三  | 三  |
|       | 銃隊教練、手旗信號、體操、柔道、劍術、短艇橈漕、術   | 基礎本ノ定律              | 三  |    |
| 備考    | 後期陸上教育教授時數ハ基本教程第一學年教授時數ニ算入ス |                     |    |    |

七月二十二日 本校教務規程第五十七條ヲ左ノ通り改正ス

考課表ハ別紙生徒考課表調製心得及第六表ニ依リ各學年ノ終リニ於テ分隊監事其ノ擔任ノ生徒ニ就キ之ヲ調製シ監事長ニ提出シ監事長ハ教頭ヲ經由シ校長ニ提出ス

準備教程練習艦教育ニ於テハ特徴アル生徒ニ對シテハ艦長ハ教育主任ヲシテ其ノ考課表ヲ調製セシメ副長ヲ經テ艦長之ヲ審査シ校長ニ提出ス

八月一日 本日附教官數名移動アリ

八月三十一日 午後三時第四十七期生徒入校式ヲ行ヒ左ノ通り生徒ヲ命ス

入校生徒族籍氏名

|           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 加世田哲彦 鹿兒島 | 濱田吉次郎 鹿兒島 | 田中義雄 兵庫  |
| 光延東洋 岡山   | 河野忠道 香川   | 松原明夫 兵庫  |
| 太田信之輔 京都  | 芹澤文夫 山形   | 岸良幸 長野   |
| 大江覽治 岡山   | 西村英三 鳥取   | 飯塚太郎 京都  |
| 町野善雄 東京   | 高島秀夫 福井   | 安川正治 福井  |
| 清野誠二郎 香川  | 山本善雄 山形   | 堀貫 鹿兒島   |
| 川畑正治 東京   | 平岡義方 鹿兒島  | 三浦艦三 愛知  |
| 加藤憲吉 愛知   | 石水泰 北海道   | 箕田貫一 和歌山 |

大正五年



|           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 山手眞三 廣島   | 天野重隆 大阪   | 山内嘉兵衛 福岡 |
| 城英一郎 熊本   | 辻橋文吉 三重   | 藤間良島根    |
| 大田香苗 廣島   | 佐佐木高信 東京華 | 勉塚武二 鹿兒島 |
| 栗原喬次郎 熊本  | 淺井四郎 東京   | 横山一郎 高知  |
| 川井巖 山形    | 平山武俊 宮崎   | 服部邦男 廣島  |
| 龜田寬見 山形   | 田中穰 廣島    | 直井俊夫 栃木  |
| 宮坂義登 長野   | 山崎謙三 東京   | 城田九萬雄 東京 |
| 山岡昭一 東京   | 河原謹爾 石川   | 新谷寅之助 奈良 |
| 中山喜春 東京   | 福住不二男 山梨  | 大西茂昭 福井  |
| 上岡小彪 高知   | 川口雅雄 和歌山  | 高橋農夫 群馬  |
| 北村富美雄 神奈川 | 植村庭三 新潟   | 中村寬 愛媛   |
| 佐々木廣輔 東京  | 門田健吾 廣島   | 堤道三 廣島   |
| 速水克巳 東京   | 天谷嘉重 茨城   | 福地義一 廣島  |
| 別府時夫 鹿兒島  | 江口直 佐賀    | 杉浦矩郎 新潟  |
| 羽田次郎 新潟   | 加藤行雄 和歌山  | 島田泰興 鳥取  |

|          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 高原久術 岡山  | 高田猪吉 東京  | 長井武夫 群馬  |
| 板垣昂 青森   | 田口太郎 長崎  | 細谷資彦 東京  |
| 田中正道 高知  | 上田泰彦 高知  | 前田孝成 東京  |
| 大山豐次郎 高知 | 本告唯次 佐賀  | 河野康 宮崎   |
| 佐久間公平 千葉 | 降旗朝茂 長野  | 仲條公治 山形  |
| 東兵一 鹿兒島  | 菊部健太郎 東京 | 西野喜悅 富山  |
| 江島久雄 鳥取  | 杉野健次 三重  | 湊乾助 石川   |
| 沖野亦男 東京  | 丸山逞 長野   | 友重丙 廣島   |
| 勢經雄 神奈川  | 安武史郎 佐賀  | 齋藤正久 宮城  |
| 岡田有作 愛媛  | 人見錚一郎 東京 | 有馬純廣 鹿兒島 |
| 廣瀬貞年 福井  | 草野維 鹿兒島  | 有村不二 鹿兒島 |
| 内藤福男 熊本  | 鹿江隆 佐賀   | 那須博 廣島   |
| 松尾義保 兵庫  | 眞崎利吉 長崎  | 大野周 福島   |
| 青山慶三 廣島  | 福館高次 北海道 | 山代勝守 神奈川 |
| 藤野寛 東京   | 山田正佐 東京  | 高橋千隼 宮城  |



|    |    |    |    |    |     |    |     |     |
|----|----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 沖  | 元成 | 福岡 | 鳥居 | 威美 | 廣島  | 濱野 | 元一  | 佐賀  |
| 黛  | 治夫 | 群馬 | 丸安 | 金兎 | 東京  | 田村 | 禮三  | 鳥取  |
| 鬼束 | 鐵夫 | 宮崎 | 塚野 | 道雄 | 鹿兒島 | 毛利 | 剛二郎 | 神奈川 |
| 中本 | 義助 | 山口 | 松村 | 建次 | 長野  | 細川 | 安藏  | 北海道 |
| 貞方 | 靜雄 | 福岡 | 西哲 | 雄  | 青森  | 馬場 | 正治  | 鳥取  |
| 柳川 | 正男 | 兵庫 |    |    |     |    |     |     |

九月一日 常磐八雲練習艦隊ニ編入セラル

官房機密第一〇八六號ノ二ヲ以テ練習艦隊ニ於ケル兵學校生徒ノ練習ニ關シテハ同隊司令官ハ兵學

校長ノ協議ニ應ジ麾下各艦ニ於テ練習ヲナサシムヘキ旨通達セラル (本日附教官數名移動アリ)

九月二十五日 第四十五期生徒長久保俊夫本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十月一日 豫科生徒練習艦隊へ乗組 (同二十日歸校)

十月十二日 第四十六期生徒山田文雄本校條例第二十二條第一號ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月八日 第四十七期生徒城田九萬雄本校條例第二十二條第一號ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月十七日 大正六年度學曆 別表ノ通り定ム (別表省略)

同 基本教程時數配分表 同 (同)

同 基本教程訓育時數配分表 同 (同)

教務規程改正ス

十一月十九日 第四十五期生徒白土鐵男本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月二十日 第四十五期生徒佐川彦太郎同吉崎猪一郎本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月二十一日 進級命課告達式及優等章授與式施行

優等章受領者

|      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 第三年學 | 中村勝平 | 德永忠雄 | 千田金二 |
| 第二學年 | 澄川道男 | 遠藤實  |      |
|      | 高田利種 |      |      |

第四十六期生徒藤岡敏三郎本校條例第二十二條第三號ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月二十二日 第四十四期生徒一宮義之以下九十五名ノ卒業式施行

豫科生徒中「バラチナス」患者多數發生ノ爲 皇族殿下侍從武官ノ御差遣ヲ御辭退申上ケタル結果御差遣ナシ

優等卒業者左ノ四名ニ短劍一口宛下賜セラル

一宮義之 黒田麗 西田正雄 湊慶讓



第四十四期卒業者族籍氏名

|         |         |          |
|---------|---------|----------|
| 一宮義之德島  | 黒田麗廣島   | 西田正雄兵庫   |
| 湊慶讓鹿兒島  | 福田勇熊本   | 島本久五郎和歌山 |
| 小島秀雄兵庫  | 大和田昇愛媛  | 山本隆福岡    |
| 木本伍六静岡  | 磯惠群馬    | 西田兵四郎島根  |
| 長谷真三郎兵庫 | 松田千秋熊本  | 山澄貞次郎東京  |
| 大熊讓東京   | 北浦豊男鳥取  | 三上射鹿廣島   |
| 中村愛三福岡  | 曾爾章島根   | 柳本柳作長崎   |
| 篠田勝清福岡  | 石原二郎山形  | 中島正人福岡   |
| 赤坂徳治巖手  | 佐藤勝也東京  | 龜山峯五郎岡山  |
| 山高松次郎廣島 | 仁科宏造廣島  | 菅沼忠正東京   |
| 藤吉直四郎福岡 | 澁谷紫郎長野  | 朝比良秀雄山梨  |
| 黒島龜人廣島  | 西村義治鳥取  | 外山克郎鹿兒島  |
| 早川幹夫廣島  | 中津成基熊本  | 村山尙志鳥取   |
| 高橋道夫長崎  | 篠田太郎八廣島 | 佐藤州雄福岡   |

|           |         |         |
|-----------|---------|---------|
| 今和泉喜次郎鹿兒島 | 千葉次雄巖手  | 町田秀實鹿兒島 |
| 志波國彬長崎    | 鹿目善輔神奈川 | 朝倉豊次富山  |
| 伊集院竹二東京華  | 澤正雄和歌山  | 香春克己福岡  |
| 嘉村嘉六佐賀    | 石橋滋福岡   | 服部勝二廣島  |
| 堀鴻一兵庫     | 野元爲輝鹿兒島 | 中堂觀惠石川  |
| 上田善夫石川    | 高田俐北海道  | 小西要人鹿兒島 |
| 島崎利雄福井    | 徳永盛次鹿兒島 | 栗原悦藏群馬  |
| 高橋雄次静岡    | 谷本計三廣島  | 石河淡徳島   |
| 岡本久行鹿兒島   | 高次貫一廣島  | 大西敬一岡山  |
| 常木千代治兵庫   | 奥島章三郎愛媛 | 島峯次佐賀   |
| 松下操鹿兒島    | 田尻稷東京華  | 杉本丑術高知  |
| 深町讓佐賀     | 澤吹衷新潟   | 川口駒太郎埼玉 |
| 岡村精一山口    | 宇宿主一宮崎  | 土師秀雄東京  |
| 帖佐久宮崎     | 堀九郎山口   | 井上左馬二鳥取 |
| 佐藤康夫神奈川   | 加瀬三郎千葉  | 村上暢之助佐賀 |

大正五年



牟田口格郎 東京

曾山由之 神奈川

森川亦男 長崎

有田 貢 山口

萱場松次郎 宮城

前原富義 鹿兒島

宮下頼永 長野

杉坂一雄 愛知

十一月二十五日 賜二級俸依願免官 内田 教授

陸叙高等官三等賜三級俸文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職 堀 教授

任海軍教授高等官七等十一級俸 陸軍歩兵少尉正八位 橘 四郎

十二月一日 本日本校職員ニ多數ノ進級者及移動者アリ

十二月二日 本年四月通達ノ第四十六期生徒教授部編制法及教授並試験法内規ヲ第四十七期生徒ニ適用ス

十二月五日 山下校長轉任披露式ヲ行フ同日退廳

十二月十三日 本校活版所内規改正ス

大正六年度基本教程試験點數表ヲ定ム

十二月十四日 (省令第十號)

海軍生徒採用規則ヲ制定セラル

試験場所 東京、仙臺、盛岡、山形、青森、札幌、新潟、長野、静岡、名古屋、金澤、京都、鳥取、和歌山

德島、高知、岡山、廣島、松山、山口、大分、福岡、長崎、熊本、鹿兒島

試験時期 五月中旬 (前年迄ハ七月施行セリ)

試験規格 體格學術共 (前年ニ同シ)

書式 學校長宛ノ願書身元明細書ヲ海軍大臣宛ニ改メラル又承認書ニ何校志願ト明記セシムル事トス

告示第十號ニテ兵學校百五十名、機關學校六十名、經理學校二十二名募集セラル

願書提出期日大正六年三月十五日迄

試験場所 前記ニ付略ス東京外二十四ヶ所

學術試験期日 五月十一日ヨリ十六日ニ至ル六日間

同 規格前年ニ同シ

(接) 前年度迄兵學校、機關學校、經理學校共各別ニ入校試験ヲ施行ナシタリシカ大正六年度ヨリ教

育本部長此カ試験委員長トシテ各校ノ必要ナル教官ヲ委員トシ三校志願者ヲ同時ニ各地ニ於

テ施行其成績ヲ調査シ夫々其志願別ニ依リ各校ニ配布スルコトニ定メラル

十二月十九日 達第一八七號ヲ以テ兵學校規則中改正セラレ修學期ハ三學年ニ分チ第一學年ハ八月ヨ

リ翌年十一月ニ至リ第二、第三學年ハ十一月ヨリ翌年十一月迄夏季休暇ハ七月二十五日ヨリ八月二



十五日迄トナル (從前自七月二十一日至九月十日)

十二月二十日 判任文官及雇員備人へ年末賞與

本校雇員備人定員中賄夫一〇ヲ一ニ改正ス

十二月二十一日 野間口校長着任ニ付披露式ヲ行フ

十二月二十六日 達第二〇一號ヲ以テ海軍生徒採用試験委員規定左ノ通り定メラル

海軍生徒採用試験委員規程

第一條 海軍生徒採用試験委員ハ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校生徒採用試験ニ關スルコトヲ掌ル

第二條 海軍生徒採用試験委員長ニハ海軍教育本部長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ海軍高等官中ヨリ海軍大臣之ヲ命ス

委員ハ之ヲ分チテ常置委員臨時委員ノ二トス

第三條 委員長ハ海軍大臣ニ隸シ採用試験ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第四條 常置委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ採用規格試験問題其ノ他試験ニ關スル事項ヲ調査立案シ志願書ノ審査試験ノ實施及試験成績ノ調査ヲ擔任ス

第五條 委員長ハ前條ニ依リ常置委員ノ調査セル試験成績ニ基キ海軍兵學校、海軍機關學校及海軍

經理學校生徒ニ採用スヘキ者ヲ各校別ニ豫定シ海軍兵學校及海軍機關學校ノ分ハ海軍教育本部長

ニ海軍經理學校ノ分ハ海軍省經理局長ニ通知スヘシ

第六條 委員長ハ常置委員ノ外海軍教育本部及海軍省經理局所管ノ海軍高等官准士官下士卒又ハ判

任文官等ヲシテ試験事務ヲ補助セシムルコトヲ得

但シ海軍省經理局所管ノモノニ關シテハ該局長ト協議スルコトヲ要ス

第七條 臨時委員ハ委員長ノ命ヲ承ケ各試験場ニ就キ試験ノ實施ニ任スルモノニシテ其ノ都度海軍

大臣之ヲ命ス

第八條 委員長ハ鎮守府司令長官又ハ要港部司令官ト協議ノ上臨時委員ノ外當該廳下准士官下士卒

又ハ判任文官等ヲシテ試験事務ヲ臨時補助セシムルコトヲ得

十二月三十一日 現在職員名

校長 中 將 野間口兼雄 副官 少 佐 坪田小猿

教頭兼 大 佐 正木義太 同兼 大 尉 原 敬太郎

監事長 大 佐 正木義太

教官兼 監 事

航海科 中 佐 福村篤男 少 佐 南部道二郎



水雷科

|    |     |    |      |
|----|-----|----|------|
| 少佐 | 片山登 | 同  | 小野彌一 |
| 大尉 | 間崎霞 | 大尉 | 高橋健二 |

中佐

|      |    |       |
|------|----|-------|
| 坂元貞二 | 少佐 | 福本百太郎 |
|------|----|-------|

大尉

|      |    |     |
|------|----|-----|
| 亥角喜藏 | 大尉 | 吉岡清 |
|------|----|-----|

同

|      |   |      |
|------|---|------|
| 倉田七郎 | 同 | 伊藤貞一 |
|------|---|------|

運用科

|    |     |    |      |
|----|-----|----|------|
| 少佐 | 廣瀬豊 | 少佐 | 木田新平 |
|----|-----|----|------|

同

|      |   |       |
|------|---|-------|
| 緒方三郎 | 同 | 磯部三男吉 |
|------|---|-------|

同

|       |   |      |
|-------|---|------|
| 高橋善四郎 | 同 | 柳澤恭亮 |
|-------|---|------|

同

|     |     |       |      |
|-----|-----|-------|------|
| 是恒隆 | (兼) | 造船大技士 | 正木宣恒 |
|-----|-----|-------|------|

砲術科

|    |      |    |       |
|----|------|----|-------|
| 少佐 | 吉川真清 | 少佐 | 大谷喜四郎 |
|----|------|----|-------|

同

|      |     |    |      |
|------|-----|----|------|
| 相良達夫 | 兼副官 | 大尉 | 原敬太郎 |
|------|-----|----|------|

大尉

|     |   |   |       |
|-----|---|---|-------|
| 羽仁潔 | 同 | 同 | 谷本馬太郎 |
|-----|---|---|-------|

教官

|   |      |
|---|------|
| 同 | 中島隆吉 |
|---|------|

機關術

|      |      |   |      |
|------|------|---|------|
| 機關中佐 | 安部富次 | 同 | 村上季彦 |
|------|------|---|------|

同

|     |      |   |      |
|-----|------|---|------|
| 同少佐 | 杉山順二 | 同 | 鈴木重友 |
|-----|------|---|------|

同

|     |      |
|-----|------|
| 同大尉 | 淺井保治 |
|-----|------|

普通學

|    |       |   |       |
|----|-------|---|-------|
| 教授 | 保坂丑太郎 | 同 | 早川金之助 |
|----|-------|---|-------|

同

|   |      |   |      |
|---|------|---|------|
| 同 | 田中西熊 | 同 | 登石善二 |
|---|------|---|------|

同

|   |       |   |      |
|---|-------|---|------|
| 同 | 山本他家松 | 同 | 内藤信夫 |
|---|-------|---|------|

同

|   |       |   |      |
|---|-------|---|------|
| 同 | 川井田藤助 | 同 | 野滿隆治 |
|---|-------|---|------|

同

|   |      |   |      |
|---|------|---|------|
| 同 | 梅谷興一 | 同 | 岩佐重一 |
|---|------|---|------|

同

|   |    |   |      |
|---|----|---|------|
| 同 | 原廣 | 同 | 松隈健彦 |
|---|----|---|------|

同

|   |      |   |      |
|---|------|---|------|
| 同 | 岡田吉郎 | 同 | 小林賢藏 |
|---|------|---|------|

同

|   |     |   |      |
|---|-----|---|------|
| 同 | 橘四郎 | 同 | 齋藤文質 |
|---|-----|---|------|



雇教師

「トーマス、エールス」

「ハーバート、ベルス」

監事

中 佐 鳥崎保三

監事兼教官 大尉 隱岐鴻太郎

軍醫長兼教官

軍醫大監 美濃部録治

附兼教官 軍醫少監 竹居光積

大軍醫 向山美弘

主計長兼教官

主計少監 高木 道

附 大主計 清水敬一

教員

機關兵曹長 中村梅太郎

兵曹長 吉田藤五郎

兵曹長 今井文四郎

上等機關兵曹 立野唯祐

上等兵曹 原賀島吉

上等兵曹 柴垣政一

本校附

上等筆記 村岡 茂

書記 森脇熊次郎

書記 大久保友市

同 仁戸田亥八郎

技手 福中松太郎

同 片山萬藏

囑託教員

劍術 三谷復太郎

同 守口福三郎

同 寺島留五郎

柔道 藤村正三

柔道 松原志郎

同 篠原孝義

理化學教授助手 長井照二

十二月三十一日 生徒總數 三百五十一名  
內 譯

第三學年生徒 (四十五期) 九十一名

第二學年生徒 (四十六期) 百二十六名

第一學年生徒 (四十七期) 百三十四名



大正六年

一月十日 午前八時三十分始業式ヲ行ヒ終テ觀兵式施行

一月十五日 校長歸校 午後着任披露式ヲ行フ

一月十八日 敎本第六二號ヲ以テ大正六年度海軍生徒採用試験問題作製及答案調査各校ニ指定セララル  
ヘキ課目左ノ通り決定ノ旨通報アリ

兵學校 算術 代數 和文英譯 英文法 國漢文 物理 作文

機關學校 幾何 三角 英文和譯 化學

經理學校 歴史 地理

一月二十六日 從來兩副官同室中ノ處後任副官ハ監事部ニ移轉監事部ハ敎務部ト相互移轉ス

二月十二日 第四十七期生徒貴島直二本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

二月十三日 省令第一號ヲ以テ省令其ノ他海軍大臣ノ發セル命令ニ依リ文書ニ族籍記載ヲ要スルモノ  
アルトキハ族稱華族又ハ士族ナルトキニ限り之ヲ記載スヘキ旨公布セララル

二月二十日 皇后陛下御寫眞ヲ奉迎ス 羽仁大尉東京へ出張歸途 奉戴

三月十九日 敎本第二九〇號ヲ以テ 華頂宮博忠王殿下大正七年八月ヨリ本校へ御入校ノ御豫定ニテ  
其ノ御準備ノ爲來ル四月ヨリ本校ニテ御修學遊ハサル、コト、ナリタルニ付先例ニ依リ御敎育取計



フヘキ旨訓令セラル 右ニ付打合ノ爲本月中ニ校長上京スヘキ旨併テ訓令セラル  
三月二十六日 達第三九號ヲ以テ生徒採用試験委員規程中左ノ通り改正セラル

第八條 委員長ハ鎮守府司令長官、要港部司令官、海軍造兵廠長又ハ海軍省醫務局長ト協議ノ上臨  
時委員ノ外當該部下(醫務局ニアリテハ其ノ所管)准士官下士卒又ハ判任文官等ヲシテ試験事務ヲ  
補助セシムルコトヲ得

三月二十八日 校長教育本部長ノ訓令ニ依リ出發上京

三月三十一日 英語學教師「ハーバート、ベルス」給料月額四百五十圓ニ増給(三月一日附)同人契約期  
限滿了ニ付解僱

四月一日 久邇宮若宮殿下御見學ノ爲御來校

「エールス」教師本日ヨリ一箇年履繼

四月二日 殿下吳ニ向ケ御出發

四月七日 華頂宮博忠王殿下御着甲第三號官舎へ御住居遊ハサル

四月九日 六年度學歷改正

四月十日 第四十七期生徒本多厚本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

四月十九日 本校内則勳章授與式ノ項改正ス (圖ハ略ス)

四月二十一日 大講堂落成吳海軍經理部ヨリ引渡ニ付受領

五月三日 村上教育本部長巡視ノ爲來校翌四日吳ニ向ケ出發

五月二十五日 履英語教師タルヘキ英國人「クリストファー、フエヤーフワツクス、スコット」着校ニ  
付給料月額四百圓ニテ大正七年三月三十一日迄一箇年備入 (四月一日附)

五月二十七日 大講堂開堂式ヲ行フ

六月十八日 高等官食堂ヲ事務所ヨリ大講堂内ニ移シ舊食堂ニ展覽所ヲ移轉ス

七月十四日 雇員備人使役内規中左ノ通り改正ス

第一表 印刷工定員及教務部ノ欄「二〇」ヲ「一六」ニ改ム

給仕定員「六」ヲ「一〇」ニ改メ教務部ノ欄「四」ヲ追加ス

教務部附屬印刷工「一六」及給仕「四」ハ合計「二〇」ヲ超ヘサル範圍内ニ於テ相互ニ其ノ數ヲ

増減スルコトヲ得

七月十六日 生徒構内遊歩區域ヲ改ム

七月十九日 赤城記念碑移設ノ爲吳ヨリ運送シ來ル

右ハ吳市八幡神社境内ニアリシヲ保管其他ノ關係上本校構内へ移設方發企者松岡海軍少將ヨリ官有  
地借用手續履行ノ運ニ至リシモノナリ



工費百圓 (發企者負擔) 吳建築科請負施行

移設後ノ保管者 江田島海軍下士卒集會所々長

七月二十三日 官房第二三〇五號ヲ以テ本校生徒消耗兵器年額表中改正削除セラレ

八月二日 本校教務規定中改正ス (略歴及考課表ノ件)

八月二十二日 「スコット」教師身分ノ儀ハ自今奏任ニ准シ取扱ハルル旨七月三十一日附海軍大臣ヨリ

訓令アリタリ

八月二十五日 「エールス」教師身分ノ儀ハ自今奏任五等以上ニ准シ取扱ハル、旨海軍大臣ヨリ訓令ア

リタリ

内令第一九〇號ヲ以テ八雲、常磐練習艦隊ヨリ除カレ警手、淺間練習艦隊ニ編入セラル

八月二十九日 大正六年學曆第四十八期生徒準備教程學曆同陸上教育時間配分表中改正ス

八月三十一日 午前八時始業式ヲ行フ

午後二時左記新生徒ノ入校式ヲ行フ

生徒族籍氏名

|      |     |       |    |    |        |    |
|------|-----|-------|----|----|--------|----|
| 片山 準 | 三廣島 | 高橋繁次郎 | 廣島 | 長屋 | 茂      | 山口 |
| 岡田 茂 | 東京  | 大石    | 保  | 高知 | 小野田捨次郎 | 新潟 |

|       |     |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 山澄忠三郎 | 東京  | 曾田隆宗  | 新潟  | 塚田英夫  | 東京  |
| 山田 豐  | 岡山  | 岡田要造  | 東京  | 左座 弘  | 熊本  |
| 栗本敏樹  | 栃木  | 佐藤治三郎 | 秋田  | 山田周枝  | 山口  |
| 荒木龜男  | 長崎  | 大竹嘉重郎 | 栃木  | 小田原俊彦 | 鹿兒島 |
| 花田卓夫  | 廣島  | 間 直顯  | 高知  | 宮崎俊男  | 兵庫  |
| 野口 司  | 佐賀  | 島井善次郎 | 新潟  | 江木伯二  | 廣島  |
| 廣岡忠男  | 奈良  | 渡部 力  | 山口  | 佐藤 佐  | 三重  |
| 平林長元  | 長野  | 早川與助  | 福岡  | 小原 尙  | 東京  |
| 野田 實  | 愛媛  | 西澤誠二  | 三重  | 袴田 烈  | 静岡  |
| 梶本 要  | 廣島  | 林田綱雄  | 熊本  | 本郷 眞  | 千葉  |
| 小山 茂  | 東京  | 倉上孝雄  | 石川  | 後藤 汎  | 三重  |
| 竹下宜豐  | 高知  | 加藤良之助 | 愛知  | 一門善記  | 熊本  |
| 藤本 傳  | 東京  | 篠原 弘  | 石川  | 土田 周  | 静岡  |
| 小林武雄  | 群馬  | 高岡 潔  | 鹿兒島 | 山田武次  | 石川  |
| 金岡知二郎 | 和歌山 | 宮本佐市  | 廣島  | 小田純治  | 新潟  |



|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 岡友三郎 三重   | 大橋恭三 愛知   | 古賀洋平 長崎   |
| 磯久研磨 高知   | 船木守衛 青森   | 大川邦之助 栃木  |
| 兼藤重雄 廣島   | 鮫島素直 鹿兒島  | 副島富士太郎 佐賀 |
| 佐藤五郎 兵庫   | 植田松太郎 兵庫  | 田口正一 群馬   |
| 武田榮一 佐賀   | 平上常則 熊本   | 川添正則 鹿兒島  |
| 井上乙彦 福岡   | 奧村新新 新潟   | 志岐常雄 佐賀   |
| 宿谷平治 東京   | 金岡國三 和歌山  | 香田英雄 佐賀   |
| 中島民部 東京   | 垣田照之 熊本   | 朝倉榮松 北海道  |
| 檜原省吾 高知   | 川元徳次郎 鹿兒島 | 西島綾夫 長野   |
| 奧山鎮雄 愛知   | 和田六三郎 神奈川 | 永井長太夫 和歌山 |
| 志和繁猪 高知   | 進信藏 福岡    | 遠藤滋 長野    |
| 脇田喜一郎 鹿兒島 | 後藤茂山 山口   | 岩瀬與市 愛知   |
| 松永義孝 長崎   | 福田弘二 佐賀   | 多田野佐七郎 熊本 |
| 廣瀬潔 茨城    | 壁山與吉 鹿兒島  | 矢田正度 秋田   |
| 山屋太郎 東京   | 市川重福 島    | 大野小郎 山形   |

|          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 濱浩 長野    | 植田景三 茨城   | 福岡徳治郎 東京 |
| 佐々木丙二 廣島 | 三和義勇 岐阜   | 鈴木忠良 鳥取  |
| 兒玉義清 山口  | 吉田利喜藏 京都  | 清水太郎 大阪  |
| 小西康雄 大阪  | 光井正義 福島   | 小林一 福井   |
| 佐藤忠壽 群馬  | 安藤繁信 香川   | 青山茂雄 鹿兒島 |
| 中村謙治 新潟  | 小田原憲一 鹿兒島 | 井上良雄 埼玉  |
| 鶴尾定雄 鳥取  | 中島傳 熊本    | 西野耕三 東京  |
| 白水洋 福岡   | 原秀彦 岡山    | 飯田麟十郎 千葉 |
| 松村翠 高知   | 佐藤有國 福岡   | 青山哲二郎 大分 |
| 柳原増藏 廣島  | 佐藤述 廣島    | 長岡博吉 京都  |
| 高木三郎 香川  | 中原義一郎 高知  | 關誠三 秋田   |
| 柳川重雄 廣島  | 加藤秀吉 大阪   | 片桐雄司 新潟  |
| 諏訪澤龜 高知  | 永井太郎 山形   | 廣瀬季男 石川  |
| 谷村芳一 山口  | 棚澤孝吉 長野   | 横井稔 高知   |
| 丸山政司 千葉  | 萬里小路通雄 千葉 | 橋本宙二 東京  |



西川 一男 福井 志賀 正成 和歌山 林 侃四郎 千葉  
 宮崎 房雄 愛媛 前島 壽英 和歌山 高橋 釜市 岐阜  
 森 寛 岡山 中島 第三 福岡 南里 勝次 佐賀  
 小野 良二郎 福岡

九月五日 第四十八期生徒高岡潔本校條例第二十二條第一號ニ依リ生徒ヲ免ス

九月十日 事務所内機關科ヲ應接室ニ移シ舊機關科ヲ應接室トナス

九月十一日 雇員備入定員表中左ノ通り改正ス

技生ノ欄定員「五」ヲ「六」ニ 技生ノ欄教務部「四」ヲ「五」ニ 印刷工ノ欄「十六」ヲ「十五」ニ同上欄教務部「十六」ヲ「十五」ニ

備考 印刷工「一六」及同給仕「四」ハ合計「二〇」ヲ云々トアルヲ印刷工「一五」及同給仕「四」ハ合計「一九」云々ニ

九月二十七日 第四十六期生徒加藤八郎本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十月二日 官房第二九六九號ヲ以テ「ランチ」及「ビンネース」ノ帆走具ヲ廢セラル

十月五日 本校副官官印磨滅ニ付改刻交付シ海軍大臣ヘ報告ス

十月十日 午後一時追加採用ノ第四十八期生徒二十九名(内一名ハ十五日)入校式ヲ行フ

|            |           |           |
|------------|-----------|-----------|
| 有田 雄三 東京   | 末澤 慶政 香川  | 都築 登 宮城   |
| 豊田 徹 兵庫    | 濱田 武夫 長崎  | 伊藤 富男 北海道 |
| 川田 義雄 鹿児島  | 鈴木 正明 千葉  | 近野 信雄 山形  |
| 山隈 和喜人 熊本  | 北島 彌太郎 佐賀 | 鳴 遊波夫 福島  |
| 峰松 巖 奈良    | 山田 達也 佐賀  | 池原 義見 兵庫  |
| 神 重徳 鹿児島   | 山田 勇助 山形  | 角田 光揚 石川  |
| 野間口 森助 鹿児島 | 西川 忠夫 高知  | 宮崎 定榮 北海道 |
| 池端 鉄郎 廣島   | 俵 安岐夫 廣島  | 上妻 廣 東京   |
| 丹野 慶五郎 宮崎  | 川島 良雄 千葉  | 吉永 彌太郎 滋賀 |
| 田村 次郎 京都   | 武富 武光 佐賀  |           |

内令第二二七號ヲ以テ本校ヘ一、二等筆記一名臨時増置セララル

(按) 本校書記一名教育本部ヘ轉勤本年度中ハ之ヲ補ハレサル爲 (十月三十日記事参照)

十月十八日 本校内則中左ノ通り改正ス (本日附教本第九七〇號ノ二認許)

第二十四節第三百十四條ノ全文ヲ削除シ同條ニ「下士教員ハ識別ノ爲校内ニアリテハ第一種軍裝ノ

場合ハ帽日覆ヲ附シ第二種軍裝ノ場合ハ帽日覆ヲ附着セシメス(酷暑ノ候ニアリテハ朝食後ハ日



覆ヲ用ユルコトヲ得)但儀式點檢等ノ場合ハ此ノ限ニアラス」ヲ加フ  
訓育提要中右同様ノ改正ヲナス

十月二十四日 校長演習地ニ出張

(接) 海軍小演習審判官トシテナリ (十一月七日歸校)

十月二十六日 本年度學曆中改正

十月三十日 內令第二四七號ヲ以テ本校定員表左ノ通り改正セラル

兵學校定員表書記ノ下「三」ヲ「二」ニ

任第六高等學校教授 松隈 教授 (十一月一日附)

大尉間崎霞 博忠王殿下附ヲ命ス (十月二十四日附)

十一月十五日 第四十五期生徒德永忠雄ハ本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月十六日 海軍省告示第八號ヲ以テ左記ノ通り海軍生徒ヲ募集セラル

豫定採用員數 兵學校百八十名、機關學校六十名、經理學校二十二名

志願書提出期日 七年一月三十一日迄

試驗場所左ノ二十六箇所

- 東京 水戸 仙臺 盛岡 山形 青森 札幌 新潟 長野 静岡 名古屋 金澤 京都

- 鳥取 和歌山 徳島 高知 岡山 廣島 松山 山口 大分 福岡 長崎 熊本 鹿兒島

書式 前年迄ノ履歷書、身元明細書、承認書ヲ廢シ志願票トナシ之ニ履歷及身元明細ヲ記シ市區町

村長ノ證明ヲ受クルコト、ナレリ

大正七年度學曆同年度教授時間配分表同年度基本教程訓育時數配分表ヲ定ム

十一月二十一日 左記ノ者各生徒ヲ免ス

本校條例第二十二條第三號ニ依リ 第四十七期生徒 淺井 四郎 西村 英三

本校條例第二十二條第四號ニ依リ 第四十八期生徒 和田 六三郎 豊田 徹

十一月二十二日 第四十六期、第四十七期、第四十八期生徒進級告達優等章授與及命課告達式ヲ行フ優

等章授領者左ノ通り

第四十六期生徒 高田 利種 山本 親雄 石田 主計

第四十七期生徒 石水 泰 湊 乾助 加世田 哲彦

濱田 吉次郎

教一第九號ヲ以テ教官受持及教授時間表ハ毎年十二月十五日調ヲ以テ又生徒入院等ハ其ノ都度通報  
セラレタキ旨通牒アリタリ

十一月二十四日 第四十五期生徒 博義王殿下中村勝平以下八十九名ノ卒業式舉行當日 博恭王殿下



向井侍從武官ヲ御差遣アラセラル

優等卒業者左ノ四名ニ短劍一口宛ヲ下賜セララル

卒業者族籍氏名  
中村勝平 千田金二 澄川道男 長井 滿  
博義 王

|      |    |       |     |       |    |
|------|----|-------|-----|-------|----|
| 中村勝平 | 富山 | 千田金二  | 和歌山 | 澄川道男  | 山口 |
| 長井 滿 | 福井 | 山口文次郎 | 千葉  | 山崎啓爾  | 高知 |
| 遠藤 實 | 長野 | 平出英夫  | 青森  | 古村啓藏  | 長野 |
| 中瀬 泝 | 宮崎 | 鳥居卓哉  | 長崎  | 林 一雄  | 愛媛 |
| 佐藤清茂 | 鳥取 | 横山義雄  | 鹿兒島 | 松本 毅  | 山形 |
| 岡田爲次 | 奈良 | 勝原滿好  | 山口  | 森 敬吉  | 福岡 |
| 橋 正雄 | 石川 | 富岡定俊  | 長野華 | 林 彙邇  | 埼玉 |
| 山縣駿二 | 山口 | 佐々木靜吾 | 廣島  | 山田 乾  | 佐賀 |
| 竹内 馨 | 愛媛 | 三浦速雄  | 山形  | 藤原喜代間 | 愛媛 |
| 小川 弘 | 廣島 | 岡村徳長  | 高知  | 三好 恒  | 東京 |

|       |     |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
| 佐々木半九 | 廣島  | 澁谷清見  | 高知  | 兄部勇次  | 山口  |
| 森玉賀四  | 兵庫  | 永江正男  | 東京  | 加藤唯雄  | 長野  |
| 大竹壽雄  | 栃木  | 森下信衛  | 愛知  | 中岡信喜  | 高知  |
| 松原 博  | 長崎  | 玉木留次郎 | 東京  | 今里 博  | 長崎  |
| 山森龜之助 | 山形  | 荒木 傳  | 長崎  | 清水 健  | 神奈川 |
| 松本一郎  | 兵庫  | 田村保郎  | 三重  | 菊地朝三  | 福島  |
| 淺野新平  | 茨城  | 荒居清治  | 栃木  | 副田久幸  | 愛知  |
| 吉村眞武  | 福岡  | 小西行惠  | 長野  | 上原義雄  | 廣島  |
| 谷口信義  | 兵庫  | 本田季長  | 熊本  | 有賀幸作  | 長野  |
| 相徳一郎  | 鹿兒島 | 市來政雄  | 鹿兒島 | 松本龜太郎 | 三重  |
| 小島 歎一 | 廣島  | 肥後市次  | 鹿兒島 | 淺羽源司  | 神奈川 |
| 土井申二  | 兵庫  | 佐々本健爾 | 島根  | 眞砂幸一  | 三重  |
| 橋 雄次  | 兵庫  | 古堀明藏  | 熊本  | 石塚千俊  | 鹿兒島 |
| 酒井慶三  | 熊本  | 溝口 征  | 大分  | 莊司喜一郎 | 山形  |
| 志和 勝  | 高知  | 重廣篤雄  | 山口  | 新野荒太郎 | 香川  |



上田 光治 兵庫  
 和 田 純久 鹿兒島  
 神 岡 重雄 新潟  
 加賀山 外雄 福井  
 松 田 尊陸 島根  
 瀬 戸 山安秀 鹿兒島  
 高 島 三治 兵庫  
 宗 雪 新之助 愛媛  
 山 崎 來代一 鹿兒島  
 北 川 玉一 大阪  
 市 坪 正雄 鹿兒島  
 北 村 昌 幸 石川  
 肱岡 虎次郎 鹿兒島

十一月二十六日 教本第一一四一號ヲ以テ生徒ニ關スル統計表作製ニ要スル諸表毎年一月十五日迄ニ到達スル様教育本部ニ提出ノコトニ定メラル

十一月二十七日 教務規程中基本教程教授科目表同日課時間表中改正

十二月十二日 訓育及特別職務表中改正ス

十二月十九日 第四十七期生徒山口縣中本義助ハ同縣士族岡本民三ノ養子トシテ入籍ノ旨届出

十二月二十一日 本日ヨリ明年一月九日迄ヲ冬期休業トシ同期間ニ於テ生徒ノ歸省旅行ヲ許可ス  
 同期間ニ於テ下士卒ニ各自十日間ノ休業外出ヲ許可ス

十二月二十四日 内令第三一四號ヲ以テ本校教授定員「十六」ヲ「十七」ニ改正セラル  
 十二月三十一日 現在職員左ノ如シ

校長 中 將 野間口兼雄  
 副官 少 佐 松原彦介

教頭兼 大 佐 大石正吉  
 兼副官 大 尉 竹原九一郎  
 監事長  
 教官兼 監事

航海科

中 佐 福村篤男  
 少 佐 高橋健二  
 大 尉 北 正一郎  
 兼副官 同 竹原九一郎

砲術科

中 佐 松坂 茂  
 少 佐 高力 諱藏  
 大 尉 井澤春馬  
 同 谷本馬太郎  
 兼副官 同 相良達夫  
 大 尉 羽 仁 潔  
 同 矢持輝治

水雷術

中 佐 坂元貞二  
 大 尉 伊藤貞一  
 同 少 佐 福本百太郎  
 同 日 高 劍



運用術 同 平田昇

中佐 今橋重良

少佐 鈴木勇

同 是恒隆

大尉 香椎哲二郎

同 鳥崎保三

同 安部富次

同 淺井保治

同 神田親太郎

同 梅谷興一

同 原廣

同 小林賢藏

同 齋藤文質

同 光永常次郎

同 山城榮治郎

同 三輪寛

同 今井文四郎

同 木村光之介

同 十一市藏

同 久山常一

同 岩見儀助

同 柴垣政一

少佐 緒方三郎  
同 磯部三男吉  
大尉 合葉庄司  
兼教官 造船大技士 穂積律之助  
監事兼教官 大尉 隱岐鴻太郎

同 杉山順二  
同 近澤末太郎  
同 早川金之助  
同 登石善二

「トーマス、エールス」 「クリストフラー、スコット」

軍醫大監 光永常次郎 附兼教官 軍醫少監 三井圭造

大軍醫 山城榮治郎 大軍醫 宮崎千秋

主計少監 三輪寛 大主計 伊藤正雄

兵曹長 今井文四郎 同 久山常一

機關兵曹長 木村光之介 同 岩見儀助

上等兵曹 十一市藏 同 柴垣政一

本校附  
大正六年  
五二三



上等筆記 福田實造

書記 森脇熊次郎

書記 大久保友市

技手 福中松太郎

技手 片山萬藏

囑託教員

劍術 三谷復太郎

同 守口福三郎

同 寺島留五郎

柔道 藤村正三

柔道 松原志郎

同 篠原孝義

理化學教授助手 長井照二

十二月三十一日 生徒總數 四百三十五人

內譯

第三學年生徒(第四十六期)百二十六名

第二學年生徒(第四十七期)百二十二名

第一學年生徒(第四十八期)百八十七名

大正七年

一月十日 午前八時始業式終テ觀兵式ヲ施行シ次テ第一學年生徒短艇競漕第二三學年ノ生徒野仕合ヲ行フ

二月八日 官房第二七八號ノ三ヲ以テ本校八島艦模型ヲ橫須賀海兵團長ノ上申ニ對シ同團へ保管轉換方認許ノ旨訓令セラル

二月十八日 教本第一一二號ノ二ヲ以テ 華頂宮博忠王殿下大正七年度ヨリ本校へ入學御修業相成様御沙汰アリタル旨訓令セラル

教本第一〇六號ノ二ヲ以テ 久邇宮朝融王殿下大正七年度ヨリ本校へ入學御修業相成候様御沙汰アリタル旨訓令セラル尙御準備ノ爲來ル四月ヨリ御修學アラセラル、ニ付先例ニ據リ御教育方取計ヘシ御資格御服裝ハ 博忠王殿下ノ例ニ依ルヘキ義ト心得ヘキ旨附記セラル

二月二十一日 米國人「ハーデー」來校六十餘年前渡來ノトキト現在トノ感想ニ關スル講演ヲナシ退出セリ

三月六日 大正七年度學曆左ノ通改正ス

五月十八日 午後體操競技ヲ取止メ

五月十一日及五月十八日 午後體操檢定ヲ加フ

大正七年



三月十一日 大正七年度ヨリ其ノ校へ御入學可被遊 兩殿下御在學中御同列ノ場合ニ於ケル御席次ハ左記宮家ノ順序ニ依ル義ト心得ヘシ (三月五日教育本部長訓令)

宮家ノ順序

華頂宮

久邇宮

三月十九日 教育本部長ノ訓令ニ依リ

校長 久邇宮朝融王殿下御教育打合ノ爲上京 (二十六日歸校)

三月二十日 海軍少佐小檜山具二本校教官ニ補セラル 但シ朝融王殿下附

三月二十三日 陸軍大將 閑院宮載仁親王殿下御視察ノ爲午前九時十五分御來校同十時五十分御歸還  
アラセラル

四月一日 丙令第一〇七號ヲ以テ本校書記定員「二」ヲ「三」ニ改正セラル

丙令第一一一號ヲ以テ大正六年丙令第二二七號ニテ本校ニ一、二等筆記一名臨時増置ノ處之ヲ廢セラル 英語教師「エールス」スコット「兩名本日ヨリ一箇年雇繼

四月五日 歐米各國へ出張被仰付 教授 早川金之助

四月七日 久邇宮朝融王殿下午前七時御着校棧橋ヨリ御上陸校長御先導甲三號官舎御假寓ニ被爲成

高等官一同棧橋ニ奉迎シ午前八時半甲三號官舎御假寓ニ於テ 殿下ニ伺候

四月二十五日 本日ヨリ生徒野外演習ヲ縣下賀茂郡原村ニ於テ施行生徒總員演習地ニ向ケ出發

華頂宮博忠王 久邇宮朝融王兩殿下生徒野外演習御見學ノ爲生徒ト共ニ御出發

四月二十六日 野間口校長生徒野外演習査閲ノ爲演習地へ向ケ出發 (副官隨行)

博忠王 朝融王兩殿下演習地ヨリ御歸校被爲在

四月二十七日 野間口校長演習地ヨリ歸校

四月二十九日 生徒野外演習終結歸校

五月七日 野間口校長海軍生徒採用試験狀況視察ノ爲廣島、岡山、京都、金澤、鳥取ニ向ケ出發 (副官隨行) (五月十六日歸校)

五月二十七日 午前八時大講堂ニ於テ海軍記念式施行

三十七八年戰役ニ於ケル 詔勅奉讀次ヲ鳥崎中佐ノ講話アリ終テ觀艇式施行

五月三十日 山階宮武彥王殿下第三學年ニ御進級午後二時進級告達式ヲ施行ス

(按) 御病氣御靜養ノ爲メ御旅行中ノ處御歸校ニ付試験ノ上御進級被遊

大正七年度海軍生徒採用試験ヲ東京市外二十五箇所ニ於テ左ノ通り施行セラル

自五月二日至同九日

身體検査



自五月十一日至同十六日

學術試驗

身體檢查及學術試驗合格者數 六百四十六人

各試驗地ヨリ發送セル本校擔當答案幾何、作文、物理、英文和譯、國語及漢文、三角法全部異狀ナク到着ス

五月十八日ヨリ右答案調査開始

五月三十一日 午前十一時第一艦隊軍艦山城、攝津、河内、當灣内ニ入港午後生徒全員乘艦見學セシム

六月一日 午前九時ヨリ右軍艦校員家族ニ拜觀ヲ許サル

午後本校備外國人英語教師及同家族ニ艦内拜觀ヲ許ス(特ニ艦隊司令長官ノ口頭認許ヲ得テ之ヲ許ス)

第四十八期生徒 片山 準 三

本校條例第二十二條第一號ニ依リ生徒ヲ免ス

六月六日 加藤海軍大臣、井手軍務局長本校視察ノ爲午前九時半來校午後一時半退去 高等官一同事務所前ニ迎送ス

六月十九日 第三學期(本日ヨリ)各學年共理、文科教授部編成ヲ廢シ一學年生徒ハ入校試驗成績二、三學年生徒ハ前學年成績ニ依リ首席ヨリ順次ニ一名宛四箇部ニ配分シ教授部ヲ編成ス

六月二十六日 教本第五四一號ヲ以テ本校生徒採用豫定者中兵學校規則第三條第二項中身體檢查不合格ニ依リ入校ヲ止ムル者ニ關シテハ爾後本校長ニ於テ處理ノコトニ委任セラル但シ事後其ノ旨教育本部長ヘ報告ノコト

教本第五四一號ノ二ヲ以テ右ノ場合文書報告ノ外不採用ノ理由及教育上補充採用ノ可否ト共ニ至急電報ヲ以テ報告相成度旨一部長ヨリ依命追申アリ

六月二十九日 七年度本校生徒採用豫定者百九十三名官報ニテ發表セラル  
七月十五日 大正七年度學曆改正

七月二十日 智利國軍艦「ヘチラル、パクタノ」本日宮島入港艦長以下乗組士官六名候補生十七名本校見學ノ爲午後三時來校同五時本校棧橋發歸艦ス

七月二十四日 第四十七期生徒細川安藏本校條例第二十二條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス  
八月一日 內令第二五〇號ヲ以テ本校ニ左ノ通人員ヲ臨時増置セラル

- 少佐、大尉 一人 教官兼監事
- 兵曹 二人 (掌帆兵)
- 機關兵曹 一人 (高等科掌電機兵)
- 木工 一人



看護

一人

八月十四 勅令第三百十八號ヲ以テ海軍兵學校條例改正セララル  
(按) 兵學校令トナル

八月十五日 達第一三〇號ヲ以テ海軍兵學校規則中左ノ通り改正セララル

第一條中 「海軍兵學校條例及本則ニ依リ」ヲ削ル

第一條ノ二 校長ハ海軍兵學校令第五條ノ規定ニ依リ部下職員ニ代理ヲ命シタルトキ又ハ之ヲ解キ  
タルトキハ士官以上ニ就テハ之ヲ海軍大臣ニ其ノ他ノ者ニ就テハ之ヲ本人在籍ノ鎮守府司令長官  
ニ報告スヘシ

第一條ノ三 海軍兵學校職員ニシテ海軍兵學校令第六條ノ規定ニ依リ校長ノ職務ヲ代理シタルトキ  
ハ代理者ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ  
同條但書ノ場合亦之ニ準ス

第三條中 「身體検査ヲ行フヘシ」ヲ「身體検査ヲ行ヒ」ニ改メ其ノ下ニ「將來ニ於ケル海軍ノ服務ニ  
關シ宣誓ヲ爲サシムヘシ」ヲ加フ

第四條 修學期間ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年ハ八月ヨリ翌年七月ニ至ル

第十六條 「海軍兵學校條例第二十二條」ヲ「海軍兵學校令第二十三條ノ規定」ニ改ム

第十七條中 「二月末日迄ニ」ヲ削ル

附 則

本達施行ノ際海軍兵學校ニ在學スル生徒ノ學年變更期ハ大正七年ニ在リテハ十一月大正八年ニ在  
リテハ十月トス

官房第一四四三號ノ三ヲ以テ海軍兵學校教育綱領制定セララル (教育本部長上申ニ對シ大臣認許)

八月十九日 八月十五日官房第二八五四號ヲ以テ左ノ通練習艦隊司令官ヘ訓令セラレタル旨教育本部  
長ヨリ傳達

貴官ハ海軍兵學校長ノ協議ニ應シ其ノ揮下各艦ニ於テ同校生徒ノ練習ヲ爲サシムヘシ

八月二十六日 午前八時始業式終テ觀兵式ヲ舉行ス  
午後二時大講堂ニ於テ第四十九期生徒博忠王、朝融王兩殿下元生磯次郎外百八十七名ニ對スル入校  
式ヲ施行ス

入校生徒族籍氏名

|            |          |             |    |
|------------|----------|-------------|----|
| 博 忠 王      | 朝 融 王    | 元生磯次郎       | 京都 |
| 田 中 勝 北海道  | 石 原 雄 東京 | 杉浦經三郎       | 東京 |
| 藤 井 茂 山口   | 松 浦 義 島根 | 丹 野 蔚 宮城    |    |
| 尾 辻 清 信 兵庫 | 板 橋 清 宮城 | 内 野 信 二 鹿兒島 |    |

大正七年



町田再男 高知 潮田千代吉 佐賀 白濱重豐 鹿兒島  
 白石長義 東京 柳村義種 高知 國府田 清茨城  
 森 榮 千葉 高馬正義 兵庫 木村行藏 巖手  
 藤井明義 三重 田口威士 高知 近藤新一 鳥取  
 北川金光 石川 一色高富 愛媛 小林清治 新潟  
 長澤浩 福島 細谷資芳 東京 伊藤利吉 島根  
 勝見基 山形 西山鐵藏 鳥取 小倉藤三郎 茨城  
 室由之 岐阜 原田信 山口 柏原保親 愛媛  
 山内提象 鹿兒島 島内吉次 佐賀 左悅辰雄 熊本  
 村上三郎 福井 戶村清 千葉 齋藤誠治 宮城  
 吉田章次 和歌山 高塚忠夫 大阪 三神正 秋田  
 座間榮敬 東京 日高實保 鹿兒島 香西弓夫 香川  
 前田茂穂 鹿兒島 佐々木朗 廣島 笹川虎之介 新潟  
 石川信雄 神奈川 今村了之介 大分 中島榮吉 鹿兒島  
 福島喜男 廣島 山下 榮山口 武田龜治 宮城

松田源香 佐賀 佐々木茂夫 廣島 谷口寅市 佐賀  
 新宅重雄 廣島 小林正意 東京 佐藤峯一 山形  
 華名三郎 石川 橋本敏郎 鳥取 村田美穂 山口  
 吉原正良 福岡 青砥鳳二 宮城 山口俊一 廣島  
 竹内虎四郎 千葉 齋藤富士郎 宮城 田中光夫 佐賀  
 馬渡重和 鹿兒島 鹿岡圓平 福島 坂本丈雄 佐賀  
 渡邊正弘 大阪 伊藤清六 三重 山岡三子夫 大阪  
 奈良孝雄 福井 山本皓 新潟 富山繁彦 鹿兒島  
 中原牧夫 廣島 吉見鐵夫 山口 菊岡徳次郎 東京  
 折田常雄 鹿兒島 淺野楠太郎 大阪 御船傳藏 鳥取  
 原爲一 香川 河野毅 兵庫 湯地孝 神奈川  
 尾池茂美 高知 宮崎良人 山口 木村健二 廣島  
 島田貞藏 茨城 林孝善 石川 江口次壽雄 神奈川  
 中島金三郎 佐賀 小林淑人 鳥取 安田 蔚 石川  
 大田春男 神奈川 平田文助 山口 河合秀夫 愛知



|           |          |          |
|-----------|----------|----------|
| 岡林子郎 高知   | 大谷清敏 高知  | 山崎規矩夫 千葉 |
| 加治木喜久雄 千葉 | 森田千里 静岡  | 古川文次 佐賀  |
| 隈部 傳 熊本   | 越智長太郎 愛媛 | 森 圭 作 愛媛 |
| 藤村正亮 山口   | 大原利通 高知  | 曾我義治 東京  |
| 公文惠章 高知   | 宮本貞行 香川  | 八卷芳夫 宮城  |
| 友成 潔 東京   | 大石新一 京都  | 渡邊 功 島根  |
| 小泉麒一 千葉   | 岩政虎男 廣島  | 平田 勉 島根  |
| 伊達 昌 三重   | 馬場金治 巖手  | 齋藤 勳 廣島  |
| 岩下金太郎 鹿兒島 | 小灘利夫 廣島  | 加藤三郎 京都  |
| 齋藤正實 佐賀   | 古谷野 均 茨城 | 水永利應 廣島  |
| 宮田榮造 鹿兒島  | 山本政治 大分  | 仁藤仁之助 静岡 |
| 澤村成二 石川   | 谷口秀志 福井  | 江頭政七 佐賀  |
| 石原英男 岡山   | 遠藤吾一 静岡  | 松田喜一 山口  |
| 前田清馬 熊本   | 根岸 實 秋田  | 佐藤誠五郎 宮城 |
| 花田 廣 新潟   | 前田清海 鹿兒島 | 大塚貞治 神奈川 |

武員十二 植田福壽 茨城 井野一正 兵庫 渡邊保正 茨城

武員十一 古閑孫太郎 熊本 梶永慶次郎 福岡 林 弘 新潟

武員十 原田耕作 鳥取 鈴木保厚 山形 天本益次 佐賀

武員九 圓山 齊島根 山田 隆 佐賀 田原芳重 長崎

上妻 清 東京 高山繁治 大阪 武藤 明 大分

菊地喜市郎 佐賀 生澤本一 栃木 刈間武麿 長野

杉岡幸七 廣島 小幡鎌治 福井 作間英暹 山口

田中順次 新潟 木塚正男 佐賀 畑中純彦 三重

永橋為茂 佐賀 川中一郎 兵庫 青木德松 佐賀

岡田四郎 東京 山田 洋 佐賀 淺香良一 熊本

土屋光二 愛知華 井筒義三 京都 七字恒雄 茨城

高橋長十郎 愛媛 若松重志 鹿兒島 久場良雄 沖繩

山口 要作 富山 上田政一 山口 五十嵐康彦 愛知

渡邊謙次郎 山形 久野 修三 兵庫 堀越芳太郎 群馬

前田光治 鳥取 山中龍太郎 山口 山路一行 愛媛

大正七年



高橋龜四郎 宮城 貴志久吉 和歌山 堤 繁春 佐賀

八月二十九日 午前十一時第四十九期生徒山中龍太郎(補缺採用)ニ對スル入校式ヲ施行ス  
(校長室ニ於テ)

九月一日 本校雇員傭人使役内規中左ノ通改正ス

第一表雇員傭人定員及配置表中

印刷工ノ欄各「一五」ヲ「十九」ニ改ム

使丁ノ欄各「一四」ヲ「一六」ニ改ム

賄夫ノ欄各「一一」ヲ「一六」ニ改ム

備考 定員及配置ハ年度豫算ノ爲増減スルコトアルヘシ

教務部附屬印刷工「一九」及給仕「四」ハ合計「二三」ヲ超ヘサル範圍ニ於テ相互ニ其ノ數ヲ増減  
スルコトヲ得

九月三日 午前十一時第四十九期生徒(補缺採用)ノ山路一行外三名ニ對スル入校式ヲ施行ス  
(校長室ニ於テ)

九月十日 野間口校長教育本部長ノ訓令ニ依リ出發上京 (同十八日歸校)

九月十二日 本校教務規程中改正(本校上申ニ對シ教本機密第三五〇號ノ四ヲ以テ認許セラル)

九月十七日 午前八時記念式ヲ行フ (黃海海戰)

詔勅奉讀終テ大石大佐講話

九月十九日 本年達第一二六號ニ依リ現役海軍々人及軍屬ノ父兄妻子ニシテ本校軍醫官ノ診察ヲ願出  
ツル場合之カ取扱法ヲ定ム (校達)

九月二十八日 第四十八期生徒池原義見本校令第二十三條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十月一日 雇員傭人ニ對シ平均二割強ノ臨時増給ヲ行フ

十月二日 劍術競技ヲ施行ス

午前八時半海軍教育本部長(海軍大將村上格一)本校視察ノ爲來校

十月四日 教育本部長午前八時本校發吳ニ向ハル

十月十日 海軍省告示第八號ヲ以テ左ノ通り大正八年度生徒ヲ募集セラル

兵學校三百名 機關學校百二十名 經理學校三十五名

十月十二日 第四十八期生徒 箕田貫一 志和繁猪

本校令第二十三條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十月三十日 武彥王殿下宮中ノ御都合ニ依リ出發御上京 (大臣ヨリ教育本部長ヘ訓令)

十一月一日 大正八年度學曆ヲ定ム



十一月四日 武彦王殿下御歸校

日課時間表ヲ改メ十一月十日ヨリ實施セシム

十一月十一日

十一月四日附兵學第五號ノ五八卒業證書授與式費定額外特ニ金百圓増額支出方上申ニ對シ官房第三八四一號ノ二ヲ以テ特ニ認許セラレ

十一月二十日 午後九時第四十七期、第四十八期生徒進級告達式優等章授與式命課告達式ヲ施行ス  
學年進級左ノ通

第三學年ニ進級 第四十七期生徒 湊 乾助 以下百十六名

第二學年ニ進級 第四十八期生徒 高橋繁次郎 以下百七十六名

修業成績優等品行善良ニ付優等章ヲ授與セシ者左ノ如シ

第四十七期生徒 湊 乾助 山内嘉兵衛 光延 東洋

加世田哲彦

第四十八期生徒 高橋繁次郎 佐藤治三郎 鶴尾定雄

次期編入者左ノ如シ

第四十七期ニ編入 第四十六期生徒 金丸清忠 森田山樂

第四十八期ニ編入 第四十七期生徒 八重柏 徹 上岡小彪

堀 貫 龜田寬見

第四十九期ニ編入 第四十八期生徒 田口正一 横井 稔

西川忠夫

退校者

本校令第二十三條第四號ニ依リ 第四十八期生徒 佐藤五郎

同 同 植田景三

同 同 早川與助

同 同 宮本佐市

同 同 廣瀬 潔

同 同 廣瀬 潔

右各頭書ノ事由ニ依リ生徒ヲ免ス

十一月二十一日 達第二二三號ヲ以テ大正二年達第一二一號ノ證書授與式及 御下賜品授與式施行手

續ヲ廢シ新ニ卒業式施行手續ヲ定メラル

第四十六期生徒武彦王高田利種以下百二十四名ノ卒業證書授與式ヲ舉行ス  
當日博恭王殿下四寇侍從武官ヲ御差遣アラセラル



左記四名成績優等ニ付 御下賜品(短劍)ヲ拜受ス

高田利種 山本親雄 松尾實 石田主計

武彦王 武彦王殿下御卒業ニ際シ記念トシテ本校ニ 御寫眞(額縁共)ヲ下賜セラル

武彦王

|          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 高田利種 鹿兒島 | 山本親雄 愛媛  | 松尾實 佐賀  |
| 石田主計 山口  | 野村留吉 山口  | 竹内馨 鳥取  |
| 前田精 鹿兒島  | 梅谷薰 埼玉   | 猪口敏平 鳥取 |
| 貝塚武男 千葉  | 堀内茂忠 山梨  | 井上益三 京都 |
| 則滿幸次 東京  | 石原聿 廣島   | 小西成三 廣島 |
| 柳澤藏之助 長野 | 川井繁藏 神奈川 | 宮崎重敏 高知 |
| 新島信夫 東京  | 泊滿義 鹿兒島  | 鶴飼憲 兵庫  |
| 平林隆樹 長野  | 新宮林吉 島根  | 平井昌平 山梨 |
| 勝田治夫 島根  | 後藤光太郎 愛知 | 高尾儀六 佐賀 |
| 篠田武助 山形  | 大家吾一 大分  | 田村久三 栃木 |

|          |           |         |
|----------|-----------|---------|
| 久米幾次 兵庫  | 藤谷安宅 山口   | 吉川唯喜 高知 |
| 宮崎武治 鳥取  | 酒井原繁松 山形  | 水口兵衛 静岡 |
| 桑原重遠 熊本  | 名取顯喜 山梨   | 濱本光雄 鳥取 |
| 高井隆一 大分  | 川崎晴實 高知   | 宮島利助 熊本 |
| 池田廣光 佐賀  | 山口捨次 東京   | 吉田義行 福井 |
| 出石寛二 鳥取  | 内藤啓一 兵庫   | 杉本豊長 崎  |
| 阿部俊雄 愛媛  | 横井俊之 愛知   | 高田榮 熊本  |
| 香川清登 廣島  | 川村真一 茨城   | 内田敏穂 熊本 |
| 片山司吾六 廣島 | 山賀守治 新潟   | 深谷惣吉 茨城 |
| 田口廣成 熊本  | 佐土原親光 鹿兒島 | 浦孝一 石川  |
| 寺岡正雄 岡山  | 矢攸章 愛知    | 坂田義人 鳥取 |
| 三木高秀 高知  | 岡崎文勳 大阪   | 安田義達 廣島 |
| 加藤榮吉 宮城  | 寺崎慶二 福井   | 小川莚喜 高知 |
| 近藤三郎 東京  | 後藤博夫 愛知   | 馬場良文 愛媛 |
| 溝口康人 大分  | 星一男 福島    | 小林正 山口  |



|       |     |       |    |       |     |
|-------|-----|-------|----|-------|-----|
| 山川幾藏  | 新潟  | 小別當惣三 | 千葉 | 藤松達次  | 佐賀  |
| 菅原正雄  | 兵庫  | 杉浦喜十  | 愛知 | 石原繁   | 鹿兒島 |
| 溝島定一  | 京都  | 安部龜   | 大分 | 遠藤敬勇  | 愛知  |
| 和田三郎  | 山形  | 山田雄二  | 福岡 | 高柳智   | 長野  |
| 小林常太  | 岡山  | 藤牧美德  | 栃木 | 黒水光信  | 静岡  |
| 岩上英壽  | 栃木  | 川崎進   | 岡山 | 本田甚次郎 | 宮城  |
| 齋藤泰藏  | 鹿兒島 | 近藤勝治  | 廣島 | 高崎正光  | 東京華 |
| 寺田彌三郎 | 京都  | 石畑四郎  | 廣島 | 野口照隆  | 鹿兒島 |
| 太田秋藏  | 宮崎  | 西岡左運  | 佐賀 | 大橋富士郎 | 千葉  |
| 小田操   | 鹿兒島 | 古田良夫  | 廣島 | 山口昌克  | 福岡  |
| 馬場篤麿  | 鹿兒島 | 藤田友造  | 廣島 | 吉富利夫  | 山口  |
| 海東啓六  | 茨城  | 中山哲夫  | 兵庫 | 山本岩多  | 群馬  |
| 倉永恒記  | 長崎  | 前田直   | 東京 | 龜井凱夫  | 東京  |
| 山口三郎  | 福岡  | 山本榮   | 福岡 | 杉野修一  | 三重  |
| 深勇夫   | 北海道 | 片山謙治  | 宮城 | 小山猛男  | 鹿兒島 |

續 木 禎 弋 愛 媛 宮 崎 保 人 福 岡 寺 西 武 千 代 東 京

右少尉候補生ヲ命セラル 常磐乗組ヲ命セラル

少尉候補生 武彦王高田利種以下六十二名 吾妻乗組ヲ命セラル

十二月一日 本日附職員ノ進級者及移動者多數アリ 訓育及特別職務表中改正ス

十二月三日 本校令第二十三條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス 第四十八期生徒 山田正佐

十二月四日 午後〇時十分野間口舊校長退廳披露式ヲ終テ送リ式ヲ施行ス

十二月五日 午後三時十五分鈴木新校長着任迎式ノ後校長室ニ於テ判任官以上(從道小學校長ヲ含ム)ノ伺候ヲ受ケラレ終テ披露式ヲ施行ス

十二月六日 午後一時ヨリ校長校內巡覽順序ハ校內點檢ニ準ス

十二月七日 官房第四一八六號ヲ勳章記章及略綬佩用方ニ付海軍省副官ヨリ通牒アリ

本件ニ關シ本校觀兵式及人員調査ノ際ハ常ニ勳章全部佩用ノコトニ本校限リ定ム

十二月九日 達第二一七號ヲ以テ海軍兵學校規則第十條ヲ消除セラル

參照 第十條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

(按) 卒業式舉行手續中ニ規定セラレタルニ依ル



十二月十日 官房第四二一五號ヲ以テ左ノ通海軍省副官ヨリ通牒アリ

五四四

各學校等ノ卒業式其ノ他海軍部内ニ於ケル重ナル儀式舉行ノ際

皇族御差遣ト同時ニ侍從武官ヲモ差遣セラレタル場合ニ於テ侍從武官ニ對スル待遇並其ノ御差遣ニ對スル御禮等ニ關シ疑議ヲ生スル向モ有之哉ニ及聞候處右ノ場合ニ於ケル侍從武官ハ特ニ差遣セラレタル次第ニテ皇族之隨員ノ儀ニハ無之ニ付其ノ待遇並御禮申出等ニ就テモ單獨ニ侍從武官御差遣ノ場合ト同様御取計相成度 右依命通牒ス  
追テ東宮武官御差遣ノ場合モ同様ノ儀ニ有之候

十二月十八日 第四十八期生徒堀貫本校令第二十三條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

十二月二十日 十二月六日官房機密第一七五八號及官房第四一六四號ニヨリ高等武官以下一箇月分乃

至二箇月分(俸給額)ノ賞與又ハ臨時手當ヲヲ給ス

十二月二十一日 本日ヨリ八年一月九日迄冬休暇トシテ生徒ニ歸省旅行及外宿ヲ許可シ下士卒ニ各十日間ノ休業外出ヲ許可ス

博忠王 朝融王兩殿下ニハ冬期休暇御旅行ノ爲本日出發御上京

第四十九期生徒田中勝本日吳海軍病院ニ於テ死亡同二十二日吳市火葬場ニ於テ茶毘ニ附シ同二十四日本村教法寺ニテ海軍葬儀執行遺骨ハ即日第三學年生徒石水泰ヲシテ郷里北海道旭川田中寅五郎方

へ護送セシム

十二月三十一日 現在職員左ノ如シ

|     |     |       |     |     |      |
|-----|-----|-------|-----|-----|------|
| 校長  | 中 將 | 鈴木貫太郎 | 副官  | 中 佐 | 松原彦介 |
| 教頭兼 | 大 佐 | 大石正吉  | 兼副官 | 大 尉 | 神田嘉穂 |
| 監事長 | 大 佐 | 大石正吉  |     |     |      |
| 教官兼 | 大 尉 | 高柳勝次郎 |     |     |      |
| 監事  |     |       |     |     |      |

砲術科

|     |       |     |      |
|-----|-------|-----|------|
| 中 佐 | 松坂茂   | 少 佐 | 高力諱藏 |
| 少 佐 | 羽仁潔   | 大 尉 | 矢持輝治 |
| 大 尉 | 高柳勝次郎 | 同   | 古田中博 |

航海科

|     |      |     |      |
|-----|------|-----|------|
| 中 佐 | 米村末喜 | 少 佐 | 間崎霞  |
| 少 佐 | 奥名清信 | 同   | 北正一郎 |
| 大 尉 | 神田嘉穂 | 大 尉 | 坂本正  |
| 同   | 斑目健介 |     |      |

水雷科

大正七年

五四五



|    |      |    |       |
|----|------|----|-------|
| 中佐 | 木村豐樹 | 少佐 | 福本百太郎 |
| 少佐 | 日高 釗 | 大尉 | 北條釐三郎 |
| 大尉 | 石橋敏成 |    |       |

運用科

|    |       |    |       |
|----|-------|----|-------|
| 中佐 | 山本土岐彦 | 少佐 | 鈴木 勇  |
| 少佐 | 是恒 隆  | 同  | 小檜山真二 |
| 同  | 合葉庄司  | 同  | 川名 彪雄 |

監事

|    |       |       |      |       |
|----|-------|-------|------|-------|
| 中佐 | 香椎哲二郎 | 兼教官   | 造船少監 | 穂積律之助 |
| 同  | 矢野馬吉  | 監事兼教官 | 大尉   | 足立 潤  |

教官

機關科(短時日一名缺員)

|      |       |     |       |
|------|-------|-----|-------|
| 機關中佐 | 木田盛徳  | 同少佐 | 淺井保治  |
| 同少佐  | 近澤末太郎 | 同大尉 | 松井亥太郎 |

普通學

|    |       |   |       |
|----|-------|---|-------|
| 教授 | 保坂丑太郎 | 同 | 早川金之助 |
|----|-------|---|-------|

|   |       |   |      |
|---|-------|---|------|
| 同 | 田中西熊  | 同 | 登石善二 |
| 同 | 山本他家松 | 同 | 内藤信夫 |
| 同 | 川井田藤助 | 同 | 野滿隆治 |
| 同 | 梅谷興一  | 同 | 岩佐重一 |
| 同 | 原 廣   | 同 | 岡田吉郎 |
| 同 | 小林賢藏  | 同 | 橘 四郎 |
| 同 | 齋藤文質  | 同 | 豊島慶彌 |
| 同 | 阿部隆次  |   |      |

英語教師 (英國人)

「トーマス、エールス」

「クリストフワ、スコット」

軍醫長

|      |       |      |      |      |
|------|-------|------|------|------|
| 軍醫大監 | 光永常次郎 | 附兼教官 | 軍醫少監 | 丸山 博 |
|------|-------|------|------|------|

兼教官

|     |      |     |      |
|-----|------|-----|------|
| 大軍醫 | 水野虎吉 | 中軍醫 | 小林堯太 |
|-----|------|-----|------|

主計長

|      |      |     |      |
|------|------|-----|------|
| 主計少監 | 藤田直一 | 中主計 | 横尾石夫 |
|------|------|-----|------|

兼教官

|     |       |       |       |
|-----|-------|-------|-------|
| 兵曹長 | 林 三郎治 | 機關兵曹長 | 木村光之介 |
|-----|-------|-------|-------|

兵曹長

|     |      |      |      |
|-----|------|------|------|
| 兵曹長 | 加藤貞吉 | 上等兵曹 | 十一市藏 |
|-----|------|------|------|



上等機關兵曹 平田金太郎

上等兵曹 齋田作二

本校附

上等書記 福田實造

書記 森脇熊次郎

書記 大久保友市

同 齋藤久男

技手 仁井谷龜一

同 片山萬藏

囑託教員

劍術 三谷復太郎

同 守口福三郎

同 寺島留五郎

柔道 藤村正三

柔道 篠原孝義

理化學教授助手 福島 啓

十二月三十一日 生徒總數 四百九十三名

內譯

第三學年生徒(第四十七期)百十八名

第二學年生徒(第四十八期)百七十八名

第一學年生徒(第四十九期)百九十七名

大正八年

一月九日 博忠王殿下冬期休暇御旅行中ノ處御歸校

一月十日 午前八時半始業式 觀兵式終テ總短艇、野仕合ヲ施行ス

海祕人第二號ヲ以テ囑託者身上取扱内規ヲ定メラル

一月十七日 朝融王殿下冬期休暇御旅行中ノ處御歸校

二月五日 第四十八期生徒八重柏徹吳海軍病院ニ於テ死亡同日吳市火葬場ニテ荼毘ニ附シ翌六日午後

三時四十五分江田島教法寺ニ於テ海軍葬儀施行

二月十七日 器械手長井時太郎急病ニテ死亡ス明治三十年以來ノ勤續者ナリ其功勞不尠ニ付金百貳拾

六圓ヲ賞與セラル

二月二十六日 第四十九期生徒潮田千代吉兵學校令第二十三條第四號ニヨリ生徒ヲ免ス

三月十五日 准士官判任文官以下ニ夫々月俸十分ノ九以下ノ賞與又ハ臨時手當ヲ給セラル

三月十九日 教育本部長ノ訓令ニ依リ校長上京三十日歸校

三月二十一日 午後三時四十分 久邇宮邦久王殿下御見學ノ爲御來校甲三號官舎ニ御三泊二十三日殿

島御遊覽二十四日午前九時半本校御發吳工廠御見學ノ上御歸京ノ途ニ就カセラル

三月二十四日 午前十時半英國大使館附武官海軍少將リー氏視察ノ爲メ來校(宮島ヨリ)同日午後一時



半本校發吳ニ向フ

五五〇

四月一日 英語教師「トーマス、エールス」本日ヨリ一ケ年間俸給月額五百圓ヲ以テ履繼ク

同「クリストファー、スコット」本日ヨリ二ケ月間四百五十圓ヲ以テ履繼ク

内令第八三號ヲ以テ横須賀鎮守府在籍軍艦周防ヲ吳鎮守府ニ轉籍シ同八〇四號ヲ以テ練習艦ト定メ練習ノコトニ關シテハ海軍兵學校長ノ指揮ヲ受ケシメラル

内令第九一號ヲ以テ本校定員表改定セラル 主ナル増員 教官兼監事 少佐大尉一 教官 教授 五 其他略ス 看護師 一

四月七日 第一學年奇數部生徒(博忠王殿下外九十名)實地練習ノ爲メ周防乘艦近海航行同十三日退艦

四月十四日 第一學年偶數部生徒九十二名實地練習ノ爲メ周防乘艦近海航行(朝融王殿下ハ十八日御乘艦)同二十日退艦

四月二十五日 本日ヨリ生徒總員縣下賀茂郡原村ニ於テ野外演習施行二十九日歸校

四月二十六日 校長野外演習査閲ノ爲メ原村へ出張二十八日歸校

五月一日 第四十七期生徒山内嘉兵衛ハ本校令第二十三條第一號ニ依リ生徒ヲ免ス

五月三日 校長海軍生徒採用試験視察ノ爲メ本日出發東京其他へ旅行十七日歸校(體格検査ハ初旬學術試験ハ十一日ヨリ十六日ニ至ル)

五月七日 皇太子殿下御成年式ヲ舉ケサセラル 午前九時十分遙拜式ヲ行ヒ次テ御寫眞ヲ拜ス

五月九日 達第八五號ヲ以テ左ノ通り達セラル

兵學校、機關學校又ハ經理學校生徒卒業シタルトキハ當該校長ハ各其ノ教務規程ニヨリ調査シテ略歴及考課表(若クハ之ニ準スルモノ)ヲ順序ヲ經テ海軍大臣ニ進呈スヘシ

五月二十日 來ル十月九日卒業式後引續キ本校創立五十週年記念式舉行方上ニ對シ認許セラル

米國大使館附海軍武官「ワットソン」大佐來校參觀

五月二十一日 支那公使館附武官海軍中佐林國廣同補佐官少佐黃緒虞本校參觀

五月二十六日 本校水道掛守則ヲ定ム(略ス)

第四十七期生徒幅館高次、第四十九期生徒湯地孝ノ兩名本校令第二十三條第四號ニ依リ生徒ヲ免ス

六月一日 英國人「フランク、ハーバート、リー」ヲ英語教師トシテ本日ヨリ大正九年三月三十一日迄月俸四百圓ヲ以テ雇入ル(「スコット」五月三十一日滿期解雇ニ付代リトシテ英國ヨリ招聘七月一日着任)

第二學年偶數部生徒佐藤治三郎外八十三名實地練習ノ爲メ周防乘艦近海航海(同四日退艦)

六月十九日 養育本部長ノ訓令ニヨリ八年度生徒採用豫定者銓衡會議ノ爲メ上京同二十八日歸校

六月二十七日 八年度生徒採用豫定者廣島縣藤尾勝夫以下三百名官報ニテ發表

大正八年

五五一



六月三十日 本校教官海軍教授岩佐重一(勤續八ヶ年)松本高等學校教授ニ轉任

七月一日 午前八時十五分詔書奉讀(歐州戰爭平和克復祝日一般休暇)終テ 講和ニ關シ校長講話

七月十六日 午前七時十五分第四十九期生徒進級命課告達式ヲ行フ

第四十九期生徒 博忠王、朝融王、松浦義以下百八十二名第二學年ニ進級

第四十九期生徒 松浦義、石原雄ハ修業成績優等品行善良ニ付優等章ヲ授與ス

(按) 第四十九期生徒ヨリ新教程ニヨリ七月進級ノ事トナレリ

第二學年生徒中左記二十四名ニ獨語專修ヲ命ス

- |       |       |       |      |      |
|-------|-------|-------|------|------|
| 小林清治  | 藤 才   | 茂     | 内野信二 | 大塚貞治 |
| 中原牧夫  | 柏原保親  | 室 由之  | 島内吉次 |      |
| 小倉藤三郎 | 前田清厚  | 加藤三郎  | 一色高富 |      |
| 今村了之介 | 青木徳松  | 菊岡徳次郎 | 伊達 昌 |      |
| 齋藤富士郎 | 青砥鳳二  | 小林正意  | 上妻 清 |      |
| 八卷芳夫  | 左悦良雄  | 公文惠章  | 前田茂穂 |      |
| 福島喜男  | 高橋長十郎 | 北川金光  | 宮崎良人 |      |

第二學年生徒左記二十四名ニ佛語專修ヲ命ス

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 香西弓夫  | 白石長義  | 柳村義種  | 中島金三郎 |
| 山崎規矩夫 | 西山鐵藏  | 土屋光二  | 馬渡重和  |
| 宮本貞行  | 松田源吾  | 藤井明義  | 淺野楠太郎 |
| 越智長太郎 | 仁藤仁之助 | 林 弘   | 岩下金太郎 |
| 小灘利夫  | 古谷野 均 | 佐々木 朗 | 尾池茂美  |

(按) 新教程ニヨリ第四十九期生徒ヨリ獨語及佛語專修者ヲ定ム是等ハ英語ノ修學ヲ已メ專ラ獨語又ハ佛語ヲ研究セシムルモノナリ

七月十九日 生徒隊從來ノ十二分隊制ヲ廢シ十六分隊制ニ改ム依テ第二生徒館ニ於テ新ニ温習所四室ヲ準備セリ(電燈設備等)

七月二十一日 午後一時大講堂ニ於テ七月三日海軍出征部隊全部ニ對シ賜ハリタル勅語

七月九日横須賀軍港ニ於テ第一第二特務艦隊艦船、工作船關東及舊獨逸潜水艦御親閱ノ節該艦船ニ賜ハリタル勅語及七月十日海陸軍大臣、參謀總長、軍令部長ヲ御前ニ召サセラレ賜ハリタル勅語

右三 勅語傳達式ヲ行フ

七月二十五日 本日ヨリ八月二十五日迄生徒ニ休暇旅行歸省ヲ許ス  
博忠王、朝融王兩殿下午後零時半棧橋御發東上被遊



七月三十一日

第二生徒館、食堂増築、第二普通學講堂、浴室洗面所、賄所、機械場、便所等改築竣成ス

八月十八日

高松宮宣仁親王殿下海軍ノ教育可被爲受旨御治定相成候趣宮内大臣ヨリ海軍大臣へ通謀

(本日附教育本部長ヨリ本校長宛通知)アリ但シ時機ハ更ニ御通知可有之筈

(按) 十二月二十三日附明年四月ヨリ江田島ニテ御修學ノ事ニ御治定相成タル趣大臣ヨリ通謀アリ

八月二十五日 休暇御旅行中ノ博忠王殿下午前七時御歸校被遊(朝融王殿下ハ御微恙ニ付御歸校延期

被遊)

八月二十六日 午前八時始業式 午後二時入校式施行廣島縣藤尾勝夫以下二百九十八名ニ(第五十期)

生徒ヲ命ス

入校生徒族籍氏名

|      |     |    |   |    |     |    |    |   |     |    |
|------|-----|----|---|----|-----|----|----|---|-----|----|
| 藤尾勝夫 | 廣島  | 築田 | 收 | 廣島 | 中野  | 實  | 廣島 |   |     |    |
| 井上憲一 | 佐賀  | 貴島 | 掬 | 德  | 鹿兒島 | 佐野 | 孝  | 夫 | 群馬  |    |
| 高崎能彦 | 鹿兒島 | 有近 | 六 | 次  | 兵庫  | 長井 | 純  | 隆 | 鹿兒島 |    |
| 江田誠雄 | 朽木  | 上倉 | 秀 | 夫  | 山口  | 森川 | 秀  | 也 | 東京  |    |
| 中村健夫 | 福島  | 内  | 俊 | 範  | 鹿兒島 | 田中 | 瑞  | 穂 | 東京  |    |
| 土手義勝 | 高知  | 田村 | 三 | 郎  | 大阪  | 稻野 | 榮  | 一 | 郎   | 石川 |

|       |     |    |   |   |     |    |   |   |     |    |    |    |   |
|-------|-----|----|---|---|-----|----|---|---|-----|----|----|----|---|
| 宮近信一  | 長崎  | 中村 | 敏 | 雄 | 山口  | 平  | 利 | 正 | 鹿兒島 |    |    |    |   |
| 下村周三  | 三重  | 岡島 | 孝 | 熊 | 本   | 佐  | 雅 | 毅 | 愛媛  |    |    |    |   |
| 大前敏一  | 大阪  | 寺崎 | 隆 | 治 | 群馬  | 今里 | 義 | 光 | 宮崎  |    |    |    |   |
| 石井永   | 千葉  | 瀬戸 | 喜 | 久 | 太   | 神  | 奈 | 川 |     |    |    |    |   |
| 室田勇次郎 | 鹿兒島 | 矢野 | 寛 | 二 | 山口  | 岩  | 上 | 次 | 一   | 石川 |    |    |   |
| 山下鎮雄  | 宮崎  | 江見 | 哲 | 四 | 郎   | 東京 | 時 | 永 | 縫   | 之  | 助  | 岡山 |   |
| 大迫東   | 鹿兒島 | 岡  | 三 | 知 | 夫   | 廣島 | 若 | 槻 | 龍   | 三  | 德  | 島  |   |
| 藤田菊一  | 山口  | 佐藤 | 吉 | 見 | 福   | 島  | 石 | 坂 | 竹   | 雄  | 石川 |    |   |
| 松永敬介  | 熊本  | 野崎 | 虎 | 雄 | 鹿兒島 | 大  | 島 | 一 | 太   | 郎  | 山  | 形  |   |
| 藤田勇   | 静岡  | 寺島 | 昌 | 善 | 長   | 野  | 有 | 本 | 輝   | 美  | 智  | 鳥  | 取 |
| 松村寛治  | 山口  | 森田 | 秀 | 一 | 鹿兒島 | 根  | 木 | 純 | 一   | 新  | 潟  |    |   |
| 神代猛男  | 山口  | 浮田 | 信 | 家 | 熊本  | 友  | 野 | 林 | 治   | 長  | 野  |    |   |
| 石原宇市  | 愛媛  | 門田 | 一 | 治 | 廣島  | 重  | 富 | 諦 | 一   | 山  | 口  |    |   |
| 松木直俊  | 愛媛  | 瀧  | 要 | 大 | 阪   | 福  | 留 | 宗 | 之   | 助  | 神  | 奈  | 川 |
| 阿部勝男  | 千葉  | 内野 | 信 | 一 | 福   | 岡  | 阿 | 部 | 茂   | 宮  | 崎  |    |   |



|          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 平田太郎 佐賀  | 中俣 勇 鹿兒島  | 井出作治郎 長野 |
| 遠藤喜代平 新潟 | 神原義久 静岡   | 柚木重德 富山  |
| 志和 彪 高知  | 清水谷 武 東京華 | 渡邊英治 佐賀  |
| 安並正俊 高知  | 高瀬五郎 德島   | 佐藤春夫 神奈川 |
| 近藤一聲 静岡  | 三井淳資 山口   | 吉村三夫 廣島  |
| 森 萬作 大分  | 眞田雄二 廣島   | 岡本次郎 福岡  |
| 宇垣 環 岡山  | 鈴木末七 栃木   | 齋藤忠康 埼玉  |
| 河合良彌 秋田  | 大畑 正福 井   | 塚本朋一郎 千葉 |
| 殿塚謹三 茨城  | 中川壽雄 鳥取   | 増田正吾 三重  |
| 新田義熊 宮崎  | 大野 格 熊本   | 古谷義二郎 東京 |
| 高島鐵郎 長野  | 谷井 保 廣島   | 新甫 清 宮崎  |
| 堀 義房 宮城  | 稻垣俊三 和歌山  | 小關 晟 北海道 |
| 吉元家彦 鹿兒島 | 相馬正平 新潟   | 林 利作 千葉  |
| 楯石鎮雄 熊本  | 長田謙三 静岡   | 本田勝熊 熊本  |
| 大坪藤馬 高知  | 土井美二 鳥取   | 寺井邦三 栃木  |

|          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 鈴木正金 愛知  | 岩本健三郎 和歌山 | 前田多智馬 鳥取 |
| 法元 廉 鹿兒島 | 堤 恭三 山梨   | 田代 格 鹿兒島 |
| 神川武夫 廣島  | 堀之内美義 鹿兒島 | 横山喜一 高知  |
| 溝口權七 新潟  | 大友文吉 千葉   | 緒方友兄 熊本  |
| 渡名喜守定 沖繩 | 尾崎俊春 東京   | 小倉正義 山形  |
| 岡部三四二 兵庫 | 神 晉 青森    | 春日 勇 宮城  |
| 岡村基春 高知  | 中西清一 京都   | 奥村時文 石川  |
| 高塚 嵩 佐賀  | 井上士郎 静岡   | 吉田正義 山口  |
| 松林元哉 佐賀  | 岡積清治 鹿兒島  | 菅間良吉 宮城  |
| 秋田 收 茨城  | 蒔田義郎 千葉   | 谷口俊雄 鹿兒島 |
| 宮川建策 高知  | 中川 肇 静岡   | 武 義照 鹿兒島 |
| 内堀與四郎 福岡 | 塚本守太郎 福岡  | 大野恒藏 東京  |
| 川瀬 薫 兵庫  | 西卷周弘 新潟   | 吉井五郎 高知  |
| 川崎松平 岡山  | 丸山貞芳 山口   | 白土 力 東京  |
| 北野 五石川   | 島 忠三郎 栃木  | 江藤敏行 大分  |



中澤義信 高知  
 三井消三 三重  
 有馬時吉 鹿兒島  
 江口徳次郎 福岡  
 日高震作 廣島  
 大谷孝之 島根  
 阿部徳馬 新潟  
 島崎繁一 山口  
 石城英夫 長野  
 佐久間良也 宮崎  
 市川榮 福岡  
 澤邊彰一 宮城  
 高内和義 岡山  
 下田久夫 熊本  
 岡巖 秋田  
 山田達彦 福島  
 安久榮太郎 福井  
 志摩庚子郎 和歌山  
 柴田文三 栃木  
 内田耕三 和歌山  
 揚田清猪 高知  
 江坂彌 新潟  
 春山淳 鹿兒島  
 稻葉直矢 福井  
 飛田健二郎 鹿兒島  
 村井貞敏 山形  
 椋田實 廣島  
 堀武雄 鹿兒島  
 福田瑞穂 茨城  
 人見豊治 栃木  
 藤田浩 廣島  
 田村四十松 新潟  
 田ヶ原義太郎 三重  
 森茂忠 奈良  
 菅原實 宮城  
 土谷貞雄 山口  
 新谷喜一 廣島  
 小澤美雄 岐阜  
 永松正敏 福岡  
 土橋豪實 長野  
 中村二郎 青森  
 山田薰 鳥取  
 栗野原仁志 長野  
 内田定五郎 神奈川  
 小野原政保 佐賀

渡邊薰雄 熊本  
 島村浩二 埼玉  
 笹川博 神奈川  
 瀧川正清 長崎  
 志柿謙吉 熊本  
 大林優愛知  
 笠井利男 静岡  
 田中正雄 岐阜  
 宮雄次郎 廣島  
 天野盛高 鹿兒島  
 深見盛雄 大分  
 馬場昇 東京  
 野池宗助 神奈川  
 竹大孝志 岡山  
 仙波繁雄 愛媛  
 能村次郎 東京  
 池田暎 佐賀  
 竹林秀五郎 香川  
 黒瀬淳 高知  
 中島啓吾 佐賀  
 山本正 高知  
 後藤重太郎 山形  
 小瀧久雄 兵庫  
 吉田英三 福島  
 塚本壽雄 兵庫  
 青木久治 三重  
 西岡三郎 佐賀  
 坂口壽春 鳥取  
 菅井武雄 宮城  
 露口操 愛媛  
 木下康夫 佐賀  
 嘉川壽夫 山口  
 中尾熊太郎 福岡  
 一井貞則 熊本  
 松木通世 廣島  
 中澤知次郎 三重  
 勝原維顯 山口  
 田中豊吉 福岡  
 佐多直大 鹿兒島  
 中山一俊 石川  
 岡本忠雄 千葉  
 吉川潔 廣島  
 戸田與四郎 廣島  
 寺田美佐男 高知  
 田中英一 福井



|          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 宮田嘉信 長崎  | 和田重次 山形  | 佐竹由治 愛知  |
| 喜多山三郎 大阪 | 横井義雄 栃木  | 工藤計 大分   |
| 小山 貞 東京  | 美坂恒藏 鹿兒島 | 伊藤竹夫 大分  |
| 吉野 顯 千葉  | 大河原 肇 東京 | 田宮百之 廣島  |
| 前田寛次 京都  | 久保木英雄 群馬 | 竹内 岬 福井  |
| 山崎嘉吉 千葉  | 小川綱嘉 神奈川 | 角田隆雄 東京  |
| 猪治郎 富山   | 植村正夫 京都  | 關 與吉 鹿兒島 |
| 上野士郎 佐賀  | 永石正孝 東京  | 奥村三郎 長野  |
| 三田國雄 和歌山 | 莊林規矩郎 京都 | 前川新一郎 兵庫 |
| 橋本卯六 佐賀  | 岡 壽彦 佐賀  | 橋 周次 兵庫  |
| 梶原正見 愛媛  | 福島耕次郎 福井 | 内藤正秋 山梨  |
| 中野政知 東京  | 朝廣裕二 宮崎  | 岡村於菟彦 東京 |
| 上杉義男 廣島  | 小島兼男 愛知  | 津江 孝 宮崎  |
| 牧内忠雄 長野  | 金田清之 富山  | 蘆田部一 京都  |
| 中村鐵雄 山口  | 山口 肇 東京  | 堀内豊秋 熊本  |

十八日 米原壽雄 鳥取 中杉清治 奈良 泉 福次郎 愛媛

十九日 山住眞寅 東京 福田太郎 愛知 榑原憲三 愛知

二十日 中國多久治 福岡 篠崎長帥 栃木 古賀彌周次 佐賀

末武政 治 神奈川(二十六日入校) 齋藤彌吉 青森(三十日入校)

中垣義幸 廣島(三十一日入校) 田口威士 富山繁彦 遠藤五一 川中一郎(四名病氣ノ爲メ試験缺席者)

第四十九期生徒 右第五十期生徒ニ編入ス

八月三十一日 第四十八期生徒矢田正虔 第五十期生徒遠藤五一本校令第二十三條第四號ニ依リ生徒

ヲ免ス

九月一日 第五十期生徒齋藤彌吉、同中垣義幸(補缺採用)ニ對スル入校式ヲ校長室ニ於テ施行

ス

九月四日 第四十九期生徒伊藤清六臨時試験施行ノ結果第二學年ニ進級ス

九月八日 朝融王殿下夏季休暇延期御滯京中ノ處本日午前六時半御歸校アラセラル

九月十五日 本日附及二十日附ニテ本校職員ノ常磐吾妻へ轉任者五名



九月十六日 第四十八期生徒榎澤孝吉轉地療養先(郷里長野縣北佐久郡平根村)ニ於テ死亡ス  
九月二十三日 校長教育本部長ノ訓令ニ依リ出發上京(三十日歸校)

勅令第四二七號ヲ以テ海軍武官階表中改正セラレ從來ノ上長官士官ヲ佐官尉官ニ改メ軍醫、主計、造船、造兵、造機、水路官共總テ何々將、佐、尉ト稱スルコトニ改定セララル

九月二十五日 間崎少佐轉任ニ付班目大尉新タニ博忠王殿下附ヲ命セラル  
九月二十六日 教本第七九五號ヲ以テ卒業式施行手續ニ關シ改正ノ旨通達セララル

證書代表受領者及御物拜受者ノ列ヨリ出ツルヤ隊列ノ中央ヨリ轉回行進シタリシヲ中央位置ニ一旦停止シテ正面ニ向キ行進ヲ起スコトニ改メラル

同教本第七九六號ニヨリ御物拜受者ハ御下賜品ヲ拜受シテ舊位ニ復シテモ證書預所ニ預ケス式終了迄拜受者自カラ保持スルコトニ一定セララル  
九月三十日 午前十時 ○二號、○六號(舊獨逸)潜水艦入港(同日午後校員參觀翌一日生徒及一般參觀二日朝出港)

十月六日 第四十七期生徒降旗朝茂堀江ト改姓ス  
十月七日 練習艦隊常磐吾妻入港

十月八日 午後一時第四十八期生徒進級及命課告達式ヲ施行ス

第四十八期生徒佐藤治三郎以下百七十四名第三學年ニ進級

成績優等品行善良ニ付優等章ヲ授與サレタル者左ノ如シ

- 佐藤治三郎 小野田捨次郎 高橋繁次郎 鶴尾定雄
- 宮崎俊雄 花田卓夫 神重德 塚田英夫
- 岡田茂

第四十八期生徒山田豐第四十九期ニ編入

本日午後二時第一艦隊山城、扶桑、伊勢、日向、攝津、薩摩、鹿島、龍田、第四、三十二驅逐隊、阿蘇、十三潜水隊、若宮(飛行機隊)入港

十月九日 第四十七期生徒卒業式及本校創立五十周年記念式ヲ舉ク

午前十時御召艦淺間供奉艦周防入港 御差遣ノ東伏見宮依仁親王殿下御臨校同時ニ御差遣ノ向井侍從武官犬塚東宮武官モ臨場大講堂ニ於テ第四十七期生徒光延東洋以下百十五名ニ對スル卒業證書授與式舉行引續キ優等卒業者四名ニ短劍一口宛御下賜アリ次テ少憩ノ後再ヒ同所ニ於テ殿下ノ御臨場ヲ恭フシ(侍從武官及東宮武官御モ臨場)本校創立五十周年記念式ヲ舉行ス校長ノ式辭、大臣代理村上海軍大將ノ祝辭、出羽大將ノ來賓總代トシテノ祝辭アリ式了リテ殿下ニハ記念品陳列場御巡覽正午御退出零時半御召艦淺間ニテ宮島ニ向ハセラル



當日主ナル參校者 教育本部長村上大將(大臣代理)、軍事參議官出羽大將、八代大將、軍令部長島村大將、吳鎮守府司令長官加藤定吉大將、第一艦隊司令長官山下大將、日高大將、第二艦隊司令長官山屋中將、森山中將、肝付中將、若林廣島縣知事、廣島市長田部陸軍中將、大學校長佐藤中將、中野中將、第五師團留守司令官上田陸軍少將其他勅任官以上二十四名  
 當日本校五十周年記念トシテ東伏見宮殿下ヨリ銀製花瓶一個下賜セラル  
 成績優等ニ付御物ヲ拜受シタルモノ左記四名

光延 東洋 加世田哲彦 湊 乾助 石水 泰  
 卒業者族籍氏名

光延 東洋 岡山 加世田哲彦 鹿兒島  
 石水 泰 北海道 濱田吉次郎 鹿兒島  
 横山 一郎 高知 岸 良幸 長野  
 島田泰興 鳥取 松原明夫 兵庫  
 宮坂義登 長野 太田信之輔 京都  
 本告唯次 佐賀 山本善雄 山形  
 山根吉藏 鳥取 直井俊夫 東京  
 岡田有作 愛媛 田中義雄 兵庫  
 九安金 兎 兵庫

藤橋 良 島根 栗原喬次郎 熊本 人見鐸一郎 東京  
 城 英一郎 熊本 中村 寛 愛媛 田口太郎 長崎  
 上田泰彦 高知 安武史郎 佐賀 沖 元成 福岡  
 梶原季義 鹿兒島 杉浦矩郎 新潟 川井 巖 山形  
 町野善雄 東京 毛利剛二郎 神奈川 加藤行雄 和歌山  
 田中 穰 廣島 堀江朝茂 長野 福住不二男 山梨  
 河原謙爾 石川 安川正治 福井 北村富美雄 神奈川  
 川口雅雄 和歌山 天野重隆 大阪 藤野 寛 東京  
 大江覽治 岡山 中山喜春 東京 河野忠道 香川  
 天谷嘉重 茨城 内藤福男 熊本 細谷資彦 東京  
 高原久衛 岡山 植村庭三 新潟 佐々木高信 東京華  
 高橋千隼 宮城 松尾義保 兵庫 別府時夫 鹿兒島  
 大山豊次郎 高知 佐々木廣輔 東京 沖野亦男 東京  
 大西茂昭 福井 服部邦男 廣島 平岡義方 鹿兒島  
 山手真三 廣島 馬場正治 鳥取 河野 康 宮崎



|          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 門田健吾 廣島  | 佐野敬之 長野  | 黛治夫 群馬   |
| 大田香苗 廣島  | 清野誠二郎 香川 | 森田山樂 高知  |
| 貞方静夫 福岡  | 高島秀夫 福井  | 田村禮三 鳥取  |
| 丸山 逞 長野  | 岡本義助 山口  | 塚野道雄 鹿児島 |
| 有村不二 鹿児島 | 仲條公治 山形  | 重久親志 宮崎  |
| 友重 丙 廣島  | 齋藤正久 宮城  | 島居威美 廣島  |
| 前田孝成 東京  | 佐久間公平 千葉 | 杉野健次 三重  |
| 青山慶三 廣島  | 西野喜悅 富山  | 新谷寅之助 奈良 |
| 高田猪吉 東京  | 山岡昭一 東京  | 福地義一 廣島  |
| 江口 直 佐賀  | 西 哲雄 青森  | 濱野元一 佐賀  |
| 山代勝守 神奈川 | 江島久雄 鳥取  | 大野 周 福島  |
| 荻部健太郎 東京 | 高橋農夫 群馬  | 草野 維 鹿児島 |
| 速水克巳 東京  | 羽田次郎 新潟  | 松村建次 長野  |
| 平山武俊 宮崎  | 那須 博 廣島  | 有馬純廣 鹿児島 |
| 板垣 昂 青森  | 廣瀬貞年 福井  | 鬼東鐵夫 宮崎  |

田二中 正道 高知

即日少尉候補生トシテ常磐、吾妻ニ分乗セシメラル午後二時練習艦隊出港

第四十九期生徒齋藤清實第二學年ニ進級(臨時試験施行)

十月九日 現在生徒

華頂宮博忠王殿下(第二學年)

久邇宮朝融王殿下(第二學年)

第三學年(第四十八期)

第二學年(第四十九期)兩殿下共

第一學年(第五十期)

計 六百六十八名

職員現在

|               |             |
|---------------|-------------|
| 校長 中 將 鈴木貫太郎  | 副官中 佐 松原彦介  |
| 教頭兼 大 佐 大石正吉  | 兼副官大 尉 神田嘉穂 |
| 監事長 大 佐 大石正吉  |             |
| 砲術教官 中 佐 松坂 茂 | 少 佐 高力諒藏    |

大正八年



少佐 宇野積藏 同 高柳勝次郎  
大尉 古田中博 大尉 中山道源  
同 大川内傳七

水雷術教官  
中佐 木村豊樹 少佐 日高 釗  
大尉 北條釐三郎 大尉 石橋敏成  
同 岸本鹿子治

航海術教官  
中佐 米村末喜 少佐 立花 一  
少佐 奥 名清信 同 北 正一郎  
大尉 神田嘉穂 大尉 坂本 正

第十運用術教官  
中佐 山本土岐彦 少佐 鈴木 勇  
少佐 小林 晋 同 小檜山真二

同 合葉庄司 同 川名彪雄  
同 香椎哲二郎 造船少佐 穂積律之助  
同 武藤 浩

機關術教官  
機關中佐 木田盛徳 機關少佐 近澤末太郎  
同 大尉 松井亥太郎 同 大尉 立花才次郎  
同 加藤孝一

監事 中佐 矢野馬吉 大尉 足立 潤  
軍醫長 軍醫大佐 光永常次郎 附 軍醫少佐 牛島敬太  
附 同 大尉 倉澤 巖 同 中尉 小林堯太  
主計長 主計少佐 藤田直一 附 主計中尉 横尾石夫

普通學(理科)  
三等 保坂丑太郎 三等 早川金之助  
四等 登石善二 四等 山本他家松  
五等 野滿隆治 六等 岡田吉郎



六等 小林賢藏 同 橋 四郎  
 七等 豐島慶彌 同 阿部隆次  
 同 福村省三 同 佐藤公平

(文科)

三等 田中西熊 四等 内藤信夫  
 四等 川井田藤助 五等 梅谷興一  
 六等 原 廣 六等 齋藤文質  
 同(獨)市來義彦 七等 三島和介  
 七等(佛)關根秀雄 同 立花親民

外國人英語教師

五〇〇圓 トーマス、リドヤード、ロスギス、エールス  
 四〇〇圓 フランク、ハーバート、リー

教員

砲術 兵曹長 加藤貞吉 外 下士官 十九名  
 水雷術 兵曹長 林 三郎治 外 下士官 十一名

運用術 上等兵曹 十一市藏

上等兵曹 齋田作二

外 下士官 二十名

機關術 機關兵曹長 木村光之介

上等機關兵曹 平田金太郎

外 下士官 九名

航海術

附 上等筆記 福田實道

書記 三級 森脇熊次郎

技手 六級 仁井谷龜一

書記 九級 齋藤久男

看護師 百生豊市

書記 四級 大久保友市

技手 七級 片山萬藏

囑託

齒科醫 三十五圓 三宅寛平

劍術教員 五十圓 三谷復太郎

同 四十五圓 守口福三郎

同 四十圓 寺島留五郎

柔道教員 四十五圓 藤村正三



柔道教員 三十九圓 篠原孝義

同 三十五圓 結城源一

理化學教授助手 三十圓 福島 啓

下士(教員以外) 三十名 卒 百五十五名

雇傭人 百名

筆生 八名 技生 六名 器械手 三名

守衛 六名 印刷工 十二名 使丁 十五名

給仕 十五名 (内活版所九名) 割烹 二名

賄夫 十八名 倉庫丁 一名 定夫 九名

大工 三名 剃夫 一名 番人 一名

雇 二三名 備 七七名

### 附 錄

#### 校 域 面 積

(大正八年十月調)

校域總面積 一〇四九六二坪

内譯 山地 二〇八八六坪 買收地 三三三八坪

官舎地 二五三六八坪 校舎地 三二六〇六坪

練兵場 二二〇一五坪 貸與地(從道小學校) 九四六坪

備考 外ニ新買收豫定地(ネーブル山) 一一四八一坪(實積約一八二五〇坪)

#### 建築物總面積

四五六九坪

大講堂(石造) 四八七坪 第一生徒館(煉瓦) 七二二坪

第二生徒館(木造) 六九五坪 食堂(煉瓦) 二四〇坪

第一講堂(木造) 二六四坪 第二講堂(木造) 二七八坪

砲術教授所(重砲臺) 一〇六坪 第一運用講堂(木造) 六〇坪

第二運用講堂(木造) 一〇〇坪 水雷術講堂(一、二) 九五坪

附 錄



|           |      |         |      |
|-----------|------|---------|------|
| 氣象學講堂     | 六〇坪  | 機關術講堂   | 二四六坪 |
| 柔道場       | 一五七坪 | 擊劍道場    | 一七一坪 |
| 理化學講堂(煉瓦) | 一一九坪 | 事務所     | 三二五坪 |
| 兵舎        | 一〇五坪 | 洗面所、浴室  | 一四一坪 |
| 賄所        | 六五坪  | 機械室(煉瓦) | 六〇坪  |
| 鍛冶工業所     | 一〇二坪 | 活版所     | 八七坪  |
| 病室        | 一七八坪 |         |      |

備考 物理學講堂(木造)一棟一三五坪附屬機械室三二坪(舊有栖川宮御殿本館移築)目下建築中

講堂又ハ教授所

|     |       |                |
|-----|-------|----------------|
| 普通學 | 室數 二三 | 航海、砲術等ノ座學ニモ兼用ス |
| 物理學 | 一     | 外實驗室三          |
| 化學  | 一     | 外實驗室三          |
| 運 用 | 四     | 外海上短艇内ニ於テス     |
| 水 雷 | 四     | 其他屋外又ハ艇内ニ於テス   |

砲術 三 其他ハ練兵場ニ於テス  
 航海 一 其他屋外又ハ船内ニ於テス  
 機關 五 内三ハ兼實驗室  
 力學 二 外準備室一

建築中ノ物理學講堂竣成ノ上ハ物理學ニ同實驗室七ヲ增加ス但シ舊理化學講堂ハ化學講堂ト改稱  
 物理學教室ヲ化學教室ニ模様替ノ豫定

端 艇

|       |         |      |    |
|-------|---------|------|----|
| 汽 船   | (二河川丸)  | 九〇八噸 | 一隻 |
| 艦載水雷艇 | (第一、第二) | 一五噸  | 二隻 |
| 汽 艇   | (第一)    | 四七噸  | 一隻 |
|       | (第二)    | 三二噸  | 一隻 |
|       | (第三)    | 一七噸  | 一隻 |
|       | (第四)    | 一三噸四 | 一隻 |
|       | (第五)    | 一〇噸五 | 一隻 |



|         |      |      |    |
|---------|------|------|----|
|         | (第六) | 七噸   | 一隻 |
|         | (第七) | 六噸   | 一隻 |
| 「ランチ」   |      | 四〇呎  | 一隻 |
| 「ビンチース」 |      | 三三呎  | 一隻 |
| 「ガッター」  |      | 三〇呎  | 二隻 |
| 槽       |      | 三一呎二 | 三隻 |
| 艇       |      | 三〇呎  | 一隻 |
| 八隻      |      | 二七呎  | 三隻 |
|         |      | 二五呎  | 一隻 |

其他水船浮棧橋等

備考 「カッター」四隻新造中





(明治三十年)  
當初ノ江田島海軍兵學校位置圖

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 宇 | 路 | 水 | 田 | 畑 | 路 | 水 | 山 | 凡 |
| 宇 | 路 | 水 | 田 | 畑 | 路 | 水 | 山 | 凡 |
| 宇 | 路 | 水 | 田 | 畑 | 路 | 水 | 山 | 凡 |
| 宇 | 路 | 水 | 田 | 畑 | 路 | 水 | 山 | 凡 |



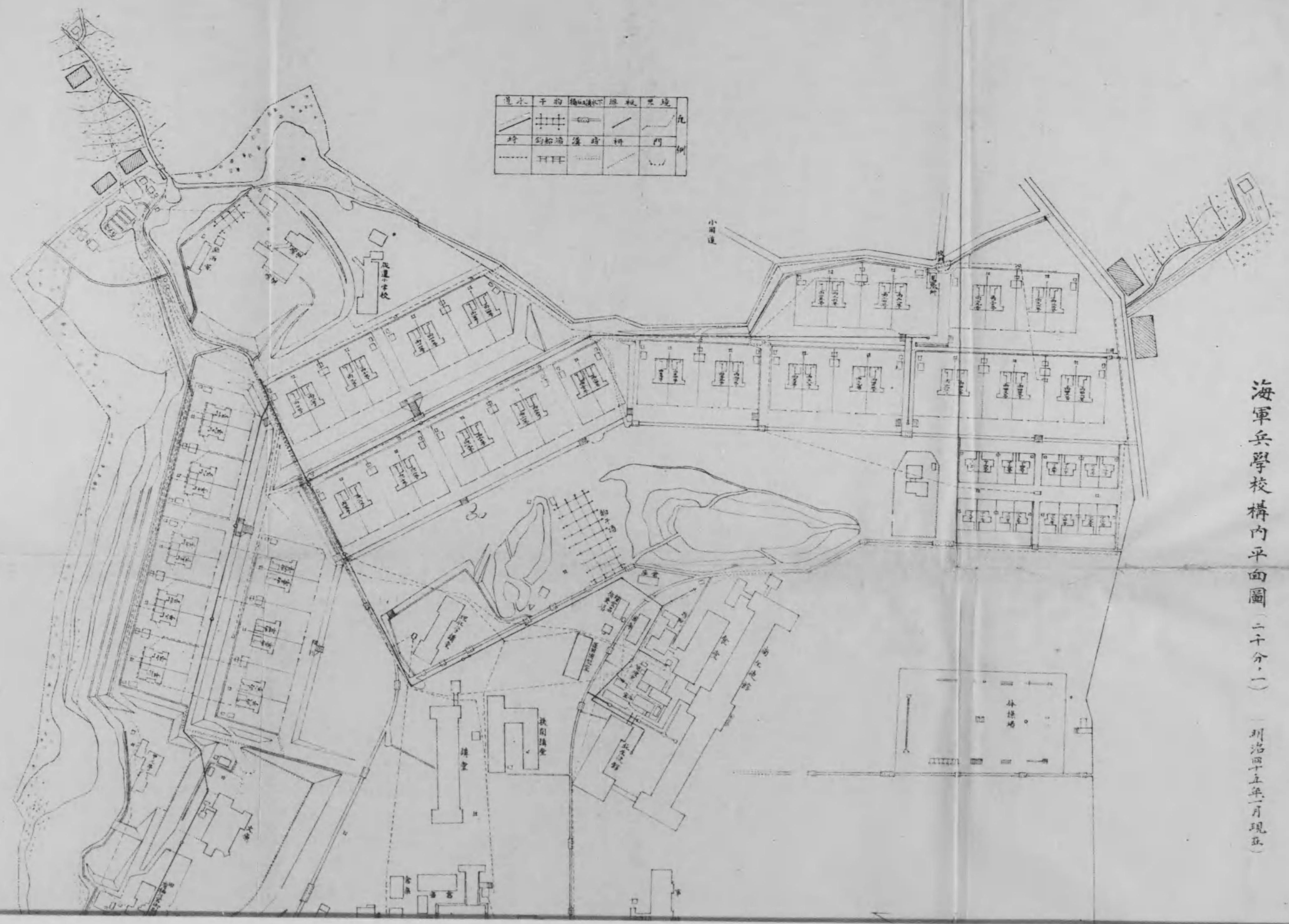


司海軍兵學校位置圖



(大東) 船留場

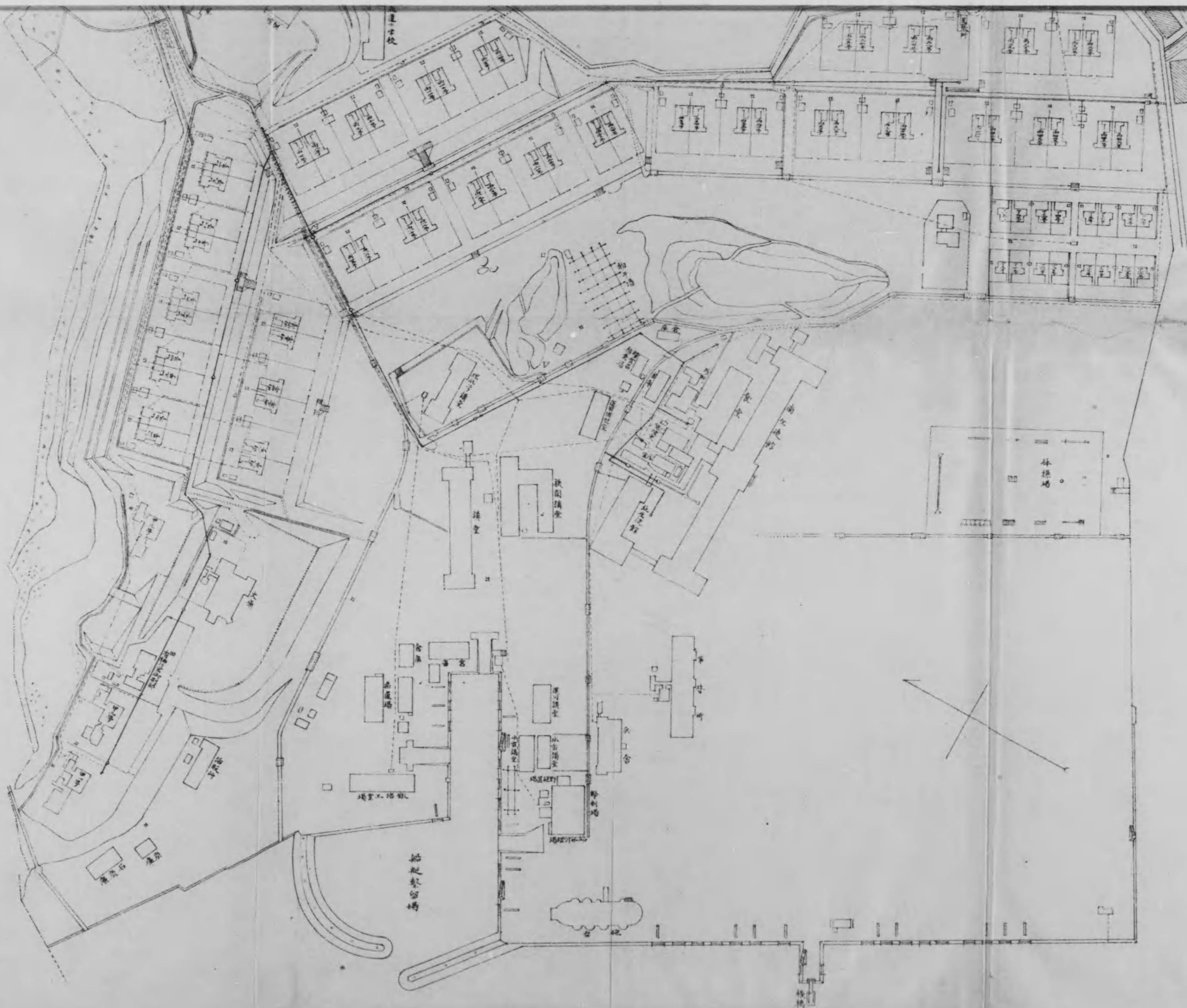




|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |

海軍兵學校構内平面圖 (二十分一) 明治四十五年一月現在





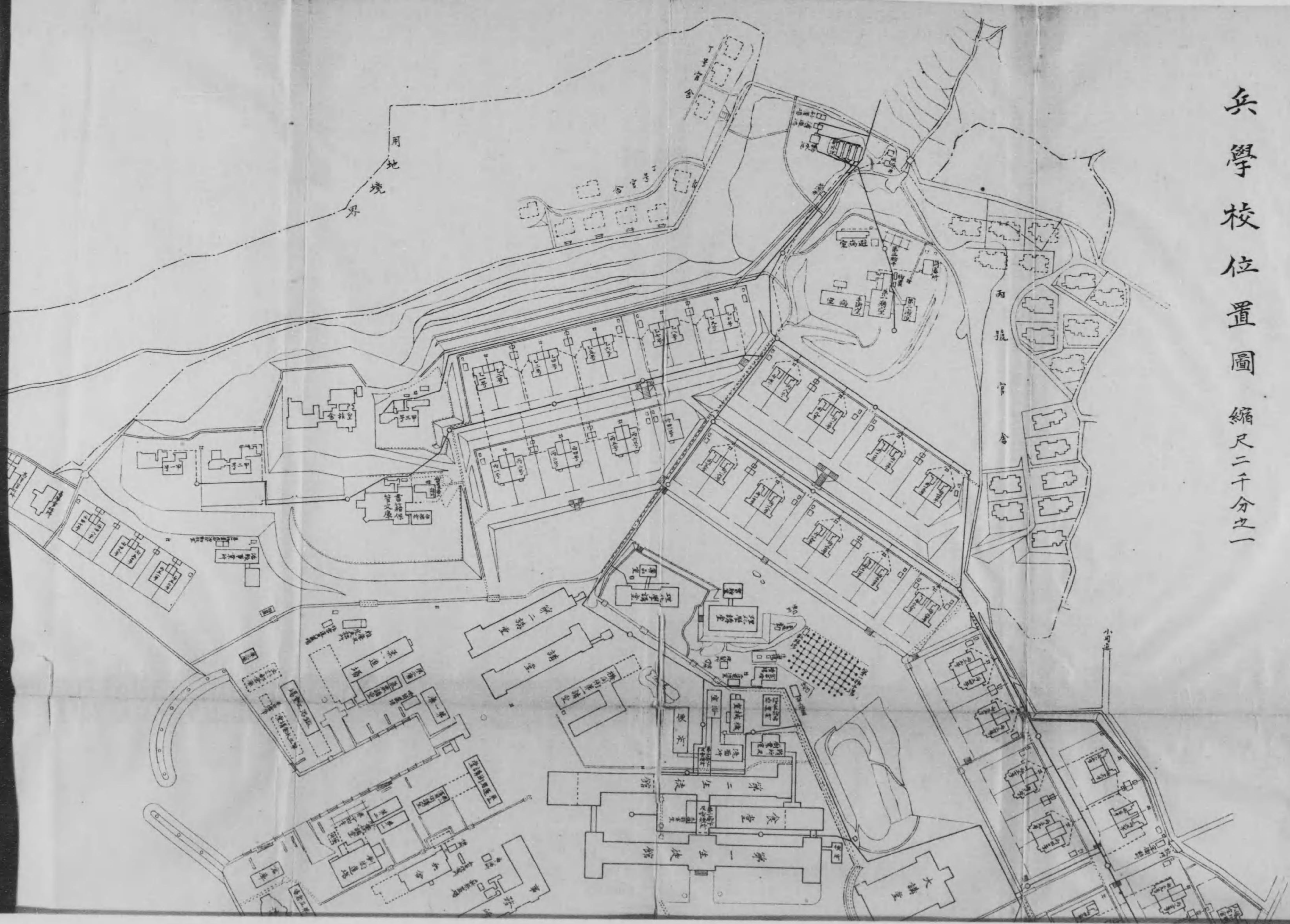
海軍兵學校構内平面圖 (二十分一)

(明治四十五年一月現在)

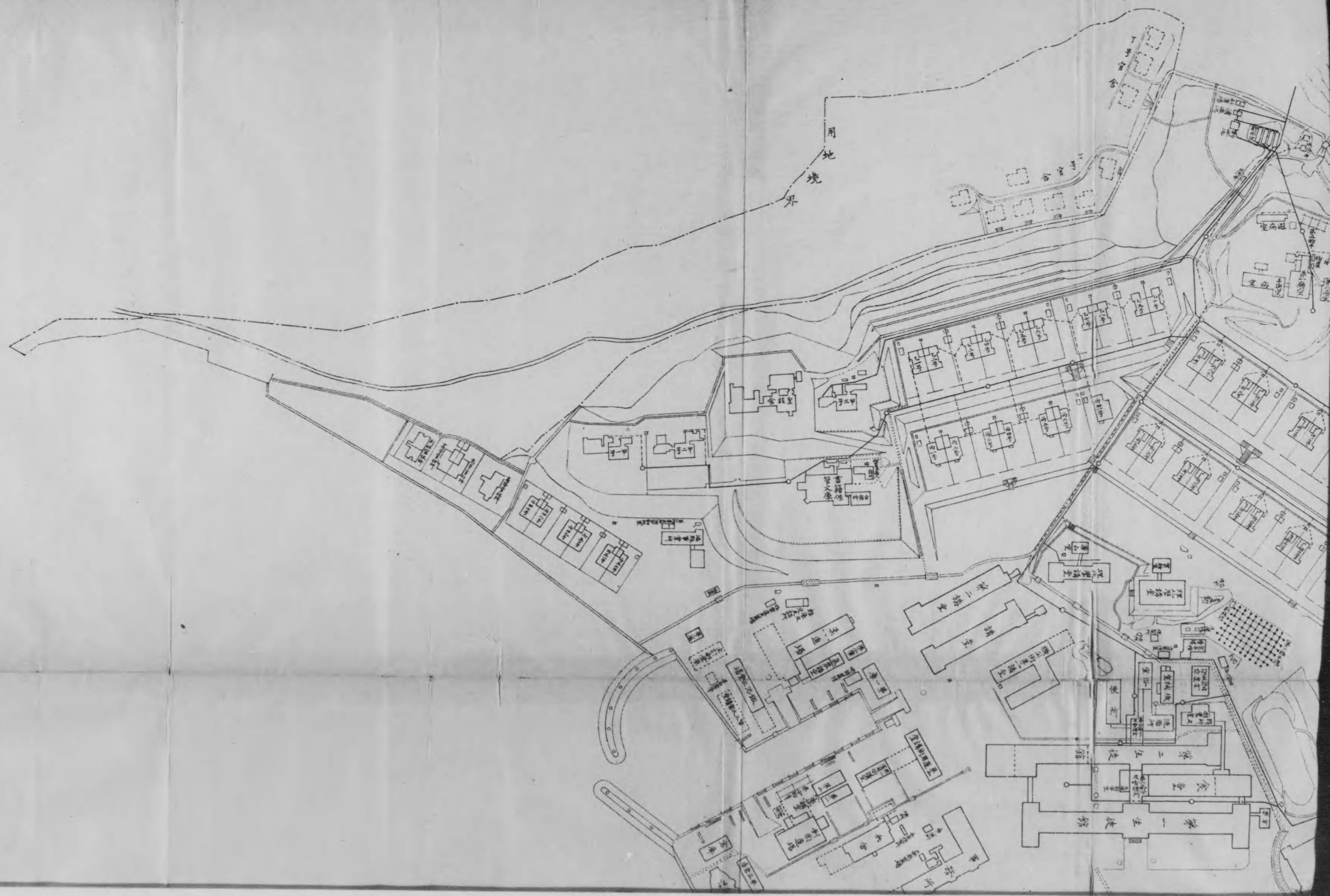


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2m 1 2 3 4 5

兵學校位置圖 縮尺二千分之一











|    |    |   |
|----|----|---|
| 場板 | 空地 | 九 |
| 柵  | 門  | 例 |



|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| 通水 | 干的 | 水下 | 填板 | 另境 |
|    |    |    |    |    |
| 九年 | 船  | 船  | 船  | 門  |
| 海  | 船  | 船  | 船  | 門  |
| 受  | 船  | 船  | 船  | 門  |
| 二  | 船  | 船  | 船  | 門  |
| 事  | 船  | 船  | 船  | 門  |





海軍兵學校校舍間取略圖 (階上) (大正八年十月)

